法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

# 裁判所構成法講義

辻，寅次郎 / 福原，直道

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
和佛法律學校講義録 / 和佛法律學校講義録
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
137

# 裁判所構成法

0006

# 裁判所構成法講義目錄


總論……一

第一編　裁判所及ヒ檢事局……五十一

第一章　總則……五十一

第二章　區裁判所……八十四

第三章　地方裁判所……百十三

第四章　控訴院……百三十四

第五章　大審院……百六十八

第二編　裁判所及檢事局ノ官吏……百七十九

第一章　判事檢事ニ任セラルヽニ必要ナル準備及資格……百七十九

第二章　判事……百八十八

第三章　檢事……百九十六

第四章　書記……二百二




0007

第五章　執達吏……二百七
第六章　廷丁……二百二十七
第三編　司法事務ノ取扱……二百二十八
第一章　開廷……二百二十八
第二章　裁判所ノ用語……二百四十二
第三章　裁判所ノ評議及言渡……二百四十六
第四章　裁判所及檢事局ノ事務章程……二百五十八
第五章　司法年度及休暇……二百五十九
第六章　法律上ノ共助……二百六十五
第四編　司法行政ノ職務及監督權……二百六十七

裁判所構成法講義目錄終

# 日本裁判所構成法講義

法律學士
本校講師　福原直道先生口述
本校校友　辻　寅次郎君筆記

## 總論

（第一回）

### 總論

凡ソ裁判所構成法ヲ研究スルノ目的ハ抑モ那邊ニ存スルカ蓋シ裁判權ノ運用裁判所全体ノ組立如何之ヲ組織スル職員如何及ヒ其職員ノ任免執務方法如何等ヲ會得シ且之ト同時ニ斯法ヲ支配スヘキ一般ノ原則ハ如何即チ其利害得失ヲ考究スルニ在リ是レ斯法ヲ研究スルノ主眼目的ナリトス

偖斯ノ裁判所構成法ハ何カ爲メニ設定セラレタルモノナルカ一言以テ之ヲ蔽ヘハ法律ノ遵奉ヲ確保シ謹嚴以テ之ヲ執行センカ爲メナリ其故何ソヤ若シ夫

レ斯法ナクンハ最モ善良ナル最モ適實ナル且ツ最モ巧妙ナル法律令規アルモ其効力ナク其成績ナク終ニ空文徒法ニ屬センノミ是ヲ以テ國民ノ生命財産自由安寧及ヒ民權政權ヲ保護シ且之ヲ鞏固ナラシムルモノハ實ニ法律ノ保護者タル裁判所搆成法ノ庇蔭ニ由ラサルハナシ故ニ裁判所ノ搆成ハ一國ノ政体ト殆ト唇齒ノ關係ヲ有シ乃チ斯法ハ必ス政体ニ伴隨シ政体ト共ニ伸縮消長スルモノト謂ハサルヘカラス蓋シ司法權ノ基礎ハ不文法ノ治下ニ在テモ猶ホ能ク成立スルモノナレトモ憲法ニ由テ始メテ確立スルモノタルヤ各國擧ナ然ラサルハナシ

回顧スレハ早ヤ一年有餘ノ昔シトハナリヌ我叡聖文武ナル　皇帝陛下ハ昨年紀元節ノ大佳辰ニ於テ我等民衆カ歡呼喜聲ノ中ニ大日本帝國ノ基礎法タル憲法ヲ發布シ給ヘリ是寔ニ建國二千五百有餘年以來未タ曾テ有ラサル所ノ一大盛事一大美擧ニシテ我等臣民ニ大政翼賛ノ途ヲ開カセ給フト同時ニ裁判權ノ獨立ヲ明カニシ以テ我等臣民ノ生命自由名譽財産ノ保護ヲ鞏固ナラシメ給ヘリ而シテ今ヤ本年二月法律第六號ヲ以テ斯ノ裁判所搆成法ナルモノヲ發布セラレタルハ畢竟憲法第五十七條「裁判所ノ搆成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム」トアル明文ニ淵源シタルモノナリ斯ノ如ク憲法中ニ特ニ明文アル所ヨリ觀ルモ裁判所搆成法ナルモノハ吾人ニ至大ナル關係アルコトヲ明知スルニ足ランカ

凡ソ自由制度ノ邦國ニ於テハ司法權ハ必スヤ獨立スルモノナリ乃チ法律ヲ制定スルノ權及ヒ執政行政ヲ爲スノ權トハ全ク相分離シ毫モ此等權力ノ干渉ヲ受クルコトナシ而シテ裁判官ハ決シテ專擅ニ事ヲ處分スルコトナク必スヤ法律ニ基キ良心ニ照シ以テ判決スルモノナレハ其判決ハ最モ人民ノ尊重スル所ニシテ又其判決ハ他ノ權力ノ爲メニ侵サル、コトナシ且夫レ裁判所ハ何人ニ對シテモ總テ均一平等ニシテ何人タリトモ原告ト爲リテ自由ニ起訴スルコトヲ得ヘク又被告ト爲ル者ハ自由ニ辨護スルノ權ヲ有スヘシ加之ス其場所ヲ公開ニシ以テ衆人ノ傍聽ヲ許スカ故ニ衆庶ハ間接ノ擔保ヲ爲シ隨テ其裁判ハ實ニ公明正大ナリト謂フヘキナリ

之ニ反シテ專制政治若クハ壓抑政治ノ下ニ在テハ裁判權ハ頗ル不確ニシテ人民ニ對シテ嚴正ナル擔保ハ毫モ之ナク且ヤ裁判所ノ管轄ハ人ノ身分又ハ政府

ノ都合ニ依リ毎ニ變更シテ一定スル所ナシ又訴訟ヲ提起シテ是非曲直ヲ辨セントスル者アレハ恣ニ之ヲ抑制シテ其權利伸暢ノ途ヲ防キ疑嫌ヲ被リタル者カ辨解以テ其寃ヲ雪カントスレハ之ヲ妨害シテ其口ヲ鉗シ而シテ事實ノ審理ハ常ニ密行シテ曖昧ナルカ故ニ甚タ其實ヲ得ス隨テ裁判官ハ五里霧中ニ彷徨シ爲メニ適正ナル處分ヲ爲ス能ハス偶々裁判官カ眞理ニ基キ良心ニ照シ以テ裁判セントスルモ或ハ私怨ヲ恐レテ躊躇シ或ハ權力者ノ憎惡ヲ憚リテ之カ鼻息ヲ窺フカ故ニ其判決ハ眞理ニ出テタルモノト云ハンヨリハ寧ロ畏懼ノ結果又ハ私恩ヲ得ルノ媒介タルニ過キサルナリ

抑モ一國ノ制度ハ執政行政司法共ニ等シク牽聯密接シテ相離レサルモノナルヲ以テ其制度一タヒ改良スルトキハ同時ニ悉ク改良シ腐敗スルトキハ同時ニ亦悉ク腐敗スルモノナリ故ニ若シ政治機關ノ各部ニシテ進歩スルコトアランカ一國ノ進歩期シテ見ルヘク又若シ其各部ニシテ苟モ傾廢スルコトアランカ一國ノ傾廢亦隨テ來ルヘシ就中司法制度ニシテ若シ其宜キヲ得サランカ國家ノ衰運立ロニ臻ラン故ニ或ル經世家ハ云ク「裁判所ハ國家ノ基礎ニシテ國家ノ



靜穩ヲ保維スルモノハ獨リ裁判所アルノミ」ト旨ヒ哉實ニ誣言ニアラサルナリ夫レ然リ然ラハ則チ司法制度ハ最モ善良ナル組織ナラサルヘカラス又尤モ注意ヲ周到ナラシメサルヘカラス我邦ニ於テハ既ニ憲法ノ發布アリ以テ吾人臣民ノ安寧保護ヲ鞏固ナラシメタリ爾レハ之ニ伴隨スル所ノ裁判所構成法ナカルヘカラス苟モ裁判所構成法ニシテ善良ナランカ他ノ制度モ亦勢ヒ改良セサルヲ得ス勿論法律善良ニシテ制度完備セルモ實地之ヲ運用スル其人ヲ得スンハ如何ニ善良ナル法律、如何ニ完備セル制度モ遂ニ其目的ヲ達スル能ハサルヤ固ヨリ當然ナリ而モ組織ヲ善良ナルカ爲メニ人民ノ安寧ヲ鞏固ナラシメ又規定ノ周到ナルカ爲メニ裁判權ヲ確立スルコトヲ得ルハ蓋シ裁判所構成法其物ニ在リ果シテ然ラハ如何セハ乃チ以テ善良ナル裁判所ヲ設置スルコトヲ得ヘキヤ又之ヲ善良ナラシメンニハ如何ナル方法ヲ採用スヘキヤ是レ吾人ノ須ラク研究スヘキ要點ナリ

抑モ裁判所構成法ノ基ク所ハ司法權是ナリ司法權ハ素ト行法權ノ一部ナレトモ而モ純然タル行政權トハ自ラ其性質ヲ異ニシ互ニ分離シ互ニ併行シテ相侵



0010

スコトナシ況ンヤ立法權ニ於ケルヲヤ是レ毫モ關係ナク亦互ニ獨立スルモノナリ而シテ斯ノ立法行政及ヒ司法ノ三權互ニ獨立分離スルコトハ現時憲法上ノ一大原則ニシテ今復タ敢テ茲ニ喋々スルノ必要ナシ然ラハ則チ司法權鞏固ニシテ其運用ヲ巧妙ナラシムルモノハ是レ裁判所搆成法ノ大主眼トスル所タルヤ瞭乎トシテ夫レ明カナリ

**司法權ノ實行**

司法權ノ實行

却説司法權ハ何レノ邦國ト雖トモ多少文明ニ進歩シタル所ハ皐ナ之ヲ裁判所ニ委任シ裁判所ヲシテ之ヲ行ハシムルハ蓋シ普通ノ制度ナリ今ヤ我國ニ於テハ畏クモ天皇陛下ハ國ノ元首ニ在マシテ統治權ヲ總攬シ給フコトナレハ其支分權タル司法權ノ如キモ固ヨリ陛下ノ掌握シ給フ所タル「ヤ明カナ」リト雖トモ既ニ憲法第五十七條ニ「司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ」ト規定セラレタル以上ハ陛下ハ全ク之ヲ裁判所ニ委任シ給ヒ敢テ躬親ラ聞食ルヽコトナシ乃チ之カ委任ヲ受ケタル裁判所ハ唯々法律ニ基キ「道理」ニ照シ不羈獨立シテ之ヲ行ヒ敢テ何等ノ干渉ヲモ受クルコトナク即チ國會モ得テ之ヲ蹂躙スルコト能ハス總理大臣モ得テ之ヲ抑制スルコト能ハス司法大臣モ亦得テ之ヲ妨害スルコト能ハサルナリ

**裁判官ノ地位**

裁判官ノ地位

斯ノ如ク司法權獨立ノコトヲ現ニ憲法ニ明定セル以上ハ實際上他迄其獨立ヲ鞏固ニセサルヘカラス而シテ其方法タル固ヨリ種々アリト雖トモ就中「其之ヲ行フ者ノ地位ヲ鞏固ニスルヲ以テ尤モ良法ナリトス若シ夫レ然ラサランカ倏チ行政權ノ侵害襲來シ獨立ノ名アリテ其實ナキニ至ラン是憲法第五十八條ニ「裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其職ヲ免セラルヽコトナシ」ト特書セルニモ拘ハラス尚ホ之カ細則ヲ裁判所搆成法中ニ規定セサルヘカラサルノ必要アル所以ナリ(第七十三條第七十四條第七十五條及第七十七條)

**裁判官ノ資格**

裁判官ノ資格

裁判官ノ地位鞏固ニシテ一タヒ其地位ヲ得タル者ハ容易ニ動カスコトヲ得サルヲ以テ之ヲ任用スルニハ其初ニ謹慎スルコト最モ必要ナリ蓋シ司法權ハ人民ノ生命、身体、名譽、財産ニ關係スルヤ實ニ重大ナルヲ以テ濫ニ庸愚ノ人ヲ

舉ケテ之ニ任スルコトアルヘカラス若シ夫レ庸愚ノ人ヲシテ其任ニ當ラシメンカ人民ノ安寧國家ノ秩序ヲ保維スル所以ノ者却テ之ヲ害シ之ヲ紊スニ至ラシ故ニ苟モ司法官ヲ任スルニハ最モ人物ヲ精撰シ學識及ヒ經驗ヲ具備スル者タルヲ要ス是亦裁判所搆成法中ニ特ニ規定セル所以ナリ(第五十七條以下)

裁判官ノ任命及ヒ俸給

裁判官ノ任命及ヒ俸給

裁判官ハ政府ヨリ任命シ國庫ヨリ俸給ヲ受クルコト必要ナリ換言スレハ人民ヨリ撰舉シ人民ヨリ報酬ヲ受クルカ如キコトアル可カラス蓋シ司法權ハ行法權ノ一部ナルヲ以テ政府カ裁判官ヲ任命スルハ固ヨリ其所ニシテ且政府ヨリ任命スルモ免黜ニ關シ嚴肅ナル規則アルニ依リ決シテ其獨立ニ關係ナク又既ニ政府ヨリ任命シ國家ノ事務ヲ分掌スル以上ハ國庫ヨリ俸給ヲ受クルハ是亦當然ナリ此點ニ付テハ我國体ニ於テ毫モ疑フヘキ所ナシトス然リト雖トモ主權人民ニ在リトノ原則ノ行ハルヽ共和國ニ於テハ政府ヨリ裁判官ヲ任命スルハ甚タ危險ナリトシ嘗テ之ヲ民撰ニセントノ說一タヒ世ニ出テ彌ヨ之ヲ實行セントスルニ當リテヤ元來其說ノ趣旨トスル所ハ裁判官ノ



地位ヲ鞏固ニシ以テ獨立セシメント欲スルニ在ルナルニ却テ之ヲ脆弱ナラシムルノ弊害ヲ惹起シタリキ其故何ソヤ蓋シ其裁判官ハ一定ノ任期ナキヲ得サルカ故ニ改撰ノ期ニ至リ再ヒ投票ノ多數ヲ得ンコトヲ冀ヒ偏ニ撰舉人ノ歡心ヲ買ハントシ爲メニ良心ヲ枉ケテ裁判スルコトアリ又自己ヲ撰舉シタル恩ニ報ヒンカ爲メニ故ラニ其撰舉人ヲ勝訴セシムルコトアリ裁判官ノ獨立亦焉ソ望ムヘケンヤ尙ホ況ンヤ人民ヨリ報酬ヲ受クルニ於テヲヤ夫レ人誰カ私慾ナカラン其報酬ノ多キ者ニ私セント欲スルハ蓋シ人情ノ免ルヘカラサル所隨テ弊害ノ生スルヤ得テ知ルヘキノミ是ヲ以テ裁判官ハ必ス官撰トシ且國庫ヨリ俸給ヲ與フルノ立憲君主國ニハ缺ク可カラザル制度ト謂フヘキナリ

裁判所ノ階級

司法官ハ獨立シテ事ヲ執リ毫モ他人ノ干涉ヲ受ケス且素ヨリ精撰シテ之ヲ任用スト雖トモ猶ホ亦人ナリ焉ソ過誤ナキヲ得ンヤ不法ナル裁判ナキヲ保センヤ故ニ其弊ヲ矯正セシムルニハ二個ノ裁判所ヲ連結セシメ一種ノ階級ヲ設ケ以テ上下ノ別ヲ立テ其上級裁判所ヲシテ下級裁判所ヲ監督スルノ任ニ當ラシ

ムルコト最モ必要ナリ則チ總テ訴訟ハ必スヤ二回審理トシ下級裁判所ノ爲シタル裁判ヲ上級裁判所ヘ控訴スルコトヲ得セシメサルヘカラス是亦裁判所構成法中ニナカルヘカラサル要則ナリ(第十四條第十六條第二十六條第二十七條及ヒ第三十七條第三十八條及第四十一條)又事實ノ點ハ二回ノ審理ヲ爲シテ過誤無シトスルモ法律ノ點ニ至テ背戻無シトセス故ニ又控訴ノ裁判ニ對シテハ更ニ一種ノ審理無カル可カラス是レ上告ノ途ヲ開カサル可カラサル所以ナリ

**司法裁判所ノ管轄スヘキ事項**

(第三十七條第二項、第五十條第一イ)

司法裁判所ノ管轄ス可キ事項

裁判所構成法中最モ貴ブ所ノモノハ司法裁判ニ屬スヘキ事件ハ勉メテ之ヲ網羅シ同一ノ裁判所ヲシテ其事ニ當ラシムルコト是ナリ則チ實ニ止ムヲ得サル場合ニアラサルヨリハ特別裁判所ヲ設ケ特別ナル方法ニ依テ裁判スルコトナク又若シ止ムヲ得サルモノアルモ極メテ其範圍ヲ狹隘ニスルコトヲ必要トシ「法律ノ前ニハ何人モ平等ナリ」トハ現今爭フヘカラサルノ一大原則ナリ然ラハ則チ何人ニ係ル訴訟ト雖トモ其天爵人爵ノ如何ニ拘ハラス同一ノ方法ヲ以テ同一ノ場所ニ於テ裁判スルコトハ甚タ必要ニシテ夫ノ一方ニ特權ヲ與ヘ又ハ偏重ノ手段ヲ以テ一方ニ不利ヲ與フルカ如キハ非理ノ尤モ太甚キモノト謂ハサルヘカラサルナリ

往昔ニ在テハ人ノ身分又ハ事ノ性質ニ依リ臨時ニ一種ノ裁判所ヲ設置シ一種ノ手續ヲ創定シ以テ特ニ一方ニ利益ヲ與ヘ殊ニ被告ノ必罰ヲ期シタルコトアリキ歐洲ノ如キハ其例敢テ少ナカラス我國治罪法ニ於テハ高等法院ノ設ケアリ其趣旨タル被告人ヲ鄭重ニ取扱フニ在リ即チ一種格段ナル理由ヨリ出ツト雖トモ而モ猶ホ一ノ變例タルニ相違ナシ而シテ構成法第五十條ニ依レハ刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪並ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノハ大審院ニテ管轄スルコトヽセリ然ラハ即チ高等法院ナルモノハ之ヲ廢スルノ意タルヤ明カナリ

又裁判所構成法第三十八條ニ於テ皇族ニ對スル民事訴訟ニ付キ一ノ特例ヲ規定シタリ是皇室典範(第五十條)ヨリ來リシモノニシテ而モ其手續ヲ異ニセサルカ故ニ之ヲ以テ非常ナル特例ト謂フヘカラス殊ニ皇族ハ我國ニ在テハ全ク別

種ニ屬スルニ依リ此特例アルモ亦敢テ怪ムニ足ラス然レトモ此他ノ者ニ至テハ縱令如何ナル高等ノ地位ヲ占ムルモ決シテ特例ヲ設クルコトナシ頗ル自由國ニ適シタル法律ナリト評スヘシ

憲法第六十條ニ曰ク「特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム」トアリ是レ行政處分ヲ以テ擅マトニ特別裁判所ヲ設ケテ以テ爲メニスル所ナキヲ示シタルモノナリ而シテ所謂特別裁判所モ行政ニ關スルモノハ格別然ラサル以上ハ可及的裁判所構成法中ニ包羅センコト是吾人ノ切望ニ勝ヘサル所ナリ

裁判所開廷ノ場所

裁判所開廷ノ場所

裁判所ハ其場所ヲ轉移セストハ是我裁判所構成法ノ精神ナリ故ニ一タヒ某地ニ裁判所ヲ設置スト定メタル以上ハ必ス其地ニ在テ裁判シ巡回裁判ヲ爲スカ如キコトナシ其故タル素ト裁判所ハ訴訟人ノ爲メニ設ケタルモノニシテ而シテ訴訟ハ何時提起スルヤ得テ豫知スヘカラス然ルニ若シ裁判所ハ此地ヨリ彼地ヘ轉移スルモノトセンカ訴訟人ハ爲メニ其蹤ヲ追ハサルヲ得サルニ至リ縱ヒ訴訟ヲ提起シテ受理セラルヽコトアルモ必スヤ其審理ヲ遲緩ナラシメン夫レ斯ノ如クンハ訴訟人ノ不便果シテ如何ソヤ之レヲ要スルニ裁判所ハ其場所ヲ一定シ訴訟人ヲ待ツノ制度タラサルヘカラス蓋シ裁判所構成法施行條例第一條ニ依レハ現今ノ治安裁判所ハ本法ノ區裁判所、始審裁判所ハ本法ノ地方裁判所、控訴院ハ本法ノ控訴院、大審院モ亦本法ノ大審院ニシテ而シテ現今ノ各裁判所ハ其設置ノ場所一定シ決シテ移動スルコトナシ故ニ我裁判所ノ性質ハ不動ノモノタリ本法第百三條第一項ニ曰ク「開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス」ト又其第二項ニ曰ク「司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其管轄區域內ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得」ト實ニ本條ハ右ノ原則ヲ規定シタルモノナリ謂ハスヤ一定ノ場所ニ於テ云々ト故ニ英國ノ如ク決シテ巡回裁判ヲ爲サヽルナリ又其一定ノ場所ニ於テ特ニ職務ヲ行ハシムルコトアルモ平常裁判所ノ設置シタル場所ニ於テハ猶ホ依然トシテ職務ヲ行フヘキモノトス即チ轉輾シテ他ノ場所ニ於テ職務ヲ行フモノニ非ス是裁判所ハ其場所ヲ轉移スルコト無キモノナリ

（第二回）

## 裁判所ノ常設

裁判所ハ常設ナラサルヘカラス所謂常設トハ間斷ナク事務ヲ執リ決シテ時ヲ期シテ裁判所ヲ設クルカ如キコトナキ是ナリ抑モ爭論ハ時ヲ期シテ起ルモノニ非スシテ何時爭論ノ起ルヤ得テ豫知スヘカラス而シテ裁判所ハ人民ノ爲メニ設クルモノナレハ其何時ニテモ起ルヘキ爭論ヲ受理シ之ヲ判決スルノ義務アルモノトス若シ夫レ然ラスンハ裁判所ハ人民ノ用ヲ辨セス其用ヲ欠クニ至ラン是此原則ノ因テ生スル所以ナリ故ニ此原則ハ前ノ「裁判所ハ其場所ヲ轉移セス」トノ原則ト其根原ヲ同フスルモノトス但此原則ニハ二個ノ例外アリ即チ左ノ如シ

**裁判所ノ常設**

**例外**

第一　普通休暇　普通休暇トハ日曜日、祭日等一般普通官吏ノ休暇スルモノヲ謂ヒ裁判所モ猶ホ此日ニハ事務ヲ取扱フコトナシ

第二　特別休暇　特別休暇トハ毎年七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ル所謂暑中休暇是ナリ從來ノ例規ニ依レハ暑中休暇ハ一般官吏ニ普通ノモノナリシモ他ノ官吏ハ毎年特ニ下賜セラルヽモノニシテ法律上當然之ヲ受クルニアラス法律上當然之ヲ受クルモノハ現今ニ於テハ單リ裁判所アルノミ（第百二十七條）而モ裁判所ハ休暇中ト雖トモ全ク事務ヲ取扱ハサルニ非ス乃チ或ル事件ニ付テハ猶ホ之ヲ取扱フモノトス（第百二十八條及ヒ第百二十九條）

## 裁判所ノ公開

**裁判所ノ公開**

裁判ハ之ヲ公開ニスルヲ以テ原則トス蓋シ此原則タル憲法ニ特書大筆スル所ニシテ吾輩臣民タル者ハ永ク其慶ニ賴リテ以テ權利自由ヲ安全ナラシムルコトヲ得ヘシ而シテ其趣旨ヤ自ラ釋然タルカ故ニ敢テ余ノ說明ヲ待タスシテ明カナラン

## 民刑裁判權ノ合一

**民刑裁判權ノ合一**

民刑裁判權ノ合一

民事裁判ト刑事裁判トハ共ニ同一ノ裁判所ニ於テ之ヲ爲スヲ以テ原則トス故ニ區裁判所ハ民事ニ於テ金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求及ヒ價額ニ拘ハラス或ル民事訴訟ヲ裁判スルノ權ヲ有スルト同時ニ刑事ニ於テ違警罪及ヒ或ル輕罪ヲ裁判スルノ權ヲ有シ又地方裁判所ハ民事ニ於テ區裁判所ノ

權限又ハ特ニ控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其他一切ノ民事訴訟及ヒ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴又ハ其決定及ヒ命令ニ對スル抗告ヲ裁判スルノ權アルト同時ニ或ル例外ヲ除キ一切ノ刑事訴訟及ヒ區裁判所ノ刑事判決ニ對スル控訴ヲ裁判スルノ權アリ控訴院及ヒ大審院ニ於ケルモ亦然リ(第十四條第十六條第二十六條第二十七條第三十七條第五十條)

右ノ如ク定メタルハ要スルニ特ニ民事刑事ノ裁判所ヲ各別ニ設置スルノ必要ナク且裁判權ハ民事ニマレ刑事ニマレ本來其根源ヲ同フスルモノニシテ民事刑事ノ裁判權ハ各相異ナルモノニ非ス殊ニ其裁判所ヲ各別ニ設置スルニ於テハ爲メニ莫大ナル經費ヲ要ス是レ必要ナキニ費用ヲ徒費スルモノナリ則チ民刑ノ裁判權ヲ同一ノ裁判所ニ屬セシメタル所以ナリ爾レハコソ各裁判所ハ每年事務ノ分配並ニ代理ノ順序ヲ定メ各裁判官交互其事務ニ任スルコトト爲セリ(第十一條第十三條第二十二條第三十六條第四十五條)

## 裁判所ノ配置

裁判所ノ配置ニ關スル原則アリ凡ソ裁判所ハ事件ノ多少ト土地ノ遠近トニ從



テ其數ヲ增減スルコト最モ緊要ナリトス蓋シ此原則タル啻ニ裁判所ノミナラス他ノ各官廳ノ配置ニ於ケルモ大概之ニ據ラサルハナシ而シテ今ヤ裁判所構成法ヲ通閲スルニ特ニ此ノ如キ明文ナシト雖トモ熟ラ其精神ヲ推覈スルトキハ能ク此原則ニ適ハシムルモノヽ如シ故ニ左ニ之ヲ一言セントス諸君モ知ラルヽカ如ク我東京市ノ如キハ其土地ノ區域ヨリ觀察スレハ甚タ狹隘ナリト雖トモ大小事件ノ起ルコト實ニ日ニ數十件數百件ヲ以テ數フヘク現今市內ニ四个所ノ治安裁判所(構成法ノ所謂區裁判所)ヲ配置セルモ尙ホ足ラサルヤノ感ナキ能ハス爾レハ事件ノ繁多ナル所ニハ隨テ數多ノ裁判所ヲ設置スルノ必要アリ而モ事件ノ僅少ナルモ距離ノ遠隔セル地ニ在テハ亦特ニ裁判所ヲ設置セサルヘカラス其故何ソヤ今夫レ裁判所ノ力ニ賴リ以テ自己ノ權利ヲ伸暢セントスル者モ其裁判所ニ到ルノ距離遠隔ナルトキハ費用ノ負擔ニ堪ヘサルカ爲メ遂ニ權利ヲ抂屈スルニ至ラン果シテ斯ノ如クンハ豈ニ裁判ヲ拒絕スルト異ナランヤ又縱シヤ費用ノ負擔ニ堪ヘ得ルモ裁判所ノ遠隔地ニ在ルトキハ多クノ時間ヲ要スルニ依リ勞働ニ因テ生活スル者ハ實際賠償ヲ得ヘカラサル無用ノ時





0016

間ヲ空費スルニ至ルヘシ殊ニ刑事訴訟ノ如キハ若シ裁判所ノ遠隔ナルトキハ容易ニ犯罪人ヲ逃走セシムルノ恐レアリ試ミニ看ヨ彼ノ諸方ニ徘徊スル盜兒ノ如キハ陰顯出沒殆ト思議スヘカラス實ニ瞬間ニシテ其地ヲ轉シ其跡ヲ晦マスモノタルヲ而シテ拘引狀ハ裁判官ニアラサレハ發スルコトヲ得サルカ故ニ先ツ被害者カ告訴ヲ爲シ次ニ檢察官カ起訴シ而シテ後之ヲ發スルモノナレハ被害者告訴ヲ爲サントスルモ其手續ヲ爲ス間ニハ多クノ時間ヲ消費シ時機ヲ失シ實際之ヲ施行セントスルモ被告人ハ既ニ逃走シ復タ及ハサラントス畢竟此等ノ弊害タル一ニ裁判所ノ遠隔ナルニ因ラスンハアラサルナリ

夫レ然リ故ニ少クモ下級裁判所ノ管轄地ハ其所在地ヨリ最モ隔離セル地ニ住居スル者ニテモ徒歩シテ裁判所ニ到リ所用ヲ辨シテ其日ニ歸ルコトヲ得ヘキカ如ク爲スヲ以テ適當ナリトセン之ヲ換言スレハ其管轄地ノ中央ヨリ極端ニ至ル迄ハ大約三四里ノ距離ヲ出テサルヲ要スルコト是レナリ

斯ノ如ク裁判所ノ區域ヲ定ムルモ若シ其區域内ノ人民ハ必ス其地ノ裁判所ニ出訴セラルヘキモノナリトノ規定ナキニ於テハ全ク徒法空文ニ屬シ其目的ヲ



達スルコト能ハサルニ至ラン何トナレハ縱令自宅ノ近傍ニ裁判所ノ設置アルモ對手人カ遠隔地ノ裁判所ニ訴フルトキハ亦必ス其裁判所ノ裁判ヲ受クルヲ要スルモノトセハ乃チ法律ニ定メタル管轄權ハ更ニ何等ノ効用ヲモアラサレハナリ此ニ於テカ裁判籍ナルモノヲ設クルノ必要ヲ生セリ（訴訟法第十條以下）

右述フルカ如ク地形ハ最モ人民ノ自由ニ關スルモノナルカ故ニ地形ニ依テ裁判所ヲ設置スルハ固ヨリ當然ナリ而モ實際ニ至テハ必スシモ之ニ依ルコト能ハサル場合アリ何ソヤ若シ夫レ全國裁判所ノ配置ヲシテ悉ク此設計ニ從ハシメンカ必スヤ數多ノ裁判官ヲ要シ隨テ巨額ノ國費ヲ增加スルニ至ラン殊ニ學識經驗才能ニ富メル多クノ人士ヲ擧テ裁判事務ニ當ラシムルハ最モ難シトスル所ナリ今假ニ多クノ裁判官ヲ要スルモノトセハ勢ヒ淺學短才凡庸ノ人士ヲ採用セサルヲ得ス果シテ然ラハ裁判所ハ其根原ニ於テ既ニ腐敗シ其極善良ナル裁判ヲ下シテ以テ人民ヲ安堵セシメント欲スルモ豈亦得ヘケンヤ加之ス裁判所增設ノ不可ナル點ハ裁判公開ノ原則ヲ傷ルモノト謂フヘシ抑モ裁判公開ノ利益ハ即チ衆人ノ傍聽ヲ許シ其裁判手續ノ利害得失並ニ裁判官ノ働作ヲ視察

シ以テ間接ニ裁判官ヲ監督スルニ在リ而シテ裁判公開ノ實效ハ當ニ裁判所ノ數ノ多キニ因ルノミナラス畢竟傍聽人其人ノ種類及ヒ智識ノ程度ニ關スルモノナリ今夫レ山間僻陬ノ地ニ一ノ裁判所ヲ開設シタリト假想セヨ傍聽人ノ數ハ甚タ僅少ニシテ當初或ハ物珍ラシキカ爲メニ見物カテラ出掛ケル者アルヤモ亦知ルヘカラスト雖トモ彼ノ裁判官其人ノ能否其働作ノ得失並ニ裁判手續ノ當否ヲ鑑別スルノ眼識ニ至テハ恐クハ絶無ナラン果シテ斯ノ如クンハ裁判公開ノ實益將タ那邊ニカ在ル

是ニ由テ之ヲ觀レハ裁判所ハ濫リニ設置スヘキモノニ非ス之ヲ詳言スレハ裁判所ノ配置ニ關シ地理ニ依ルノ原則ハ人口ニ從フノ原則ニ一歩ヲ讓ラサルヘカラス故ニ善良ナル裁判ヲ受ケシメンニハ止ムヲ得ス當事者ヲシテ多少ノ費用ト時間トヲ費サシメサルヲ得ス故ニ裁判所ニ近接スルノ利益ハ如何程大ナルニモセヨ學識經驗ニ富メル裁判官カ爲ス所ノ善良ナル裁判ヲ受クルノ利益ニ孰與ソヤ

斯ク見解ヲ下セハ乃チ裁判所ハ其地形ト人口トニ依テ配置スヘキモノナリ然レ𪜈先ツ其人口ニ重キヲ置クヲ要ス唯場合ニ因テハ人口ノ如何ニ拘ハラス便宜ノ配置ヲ爲スヲ要ス是レ裁判所構成法第三十一條ノ規定アル所以ナリ同條ニ曰ク「司法大臣ハ地方裁判所ト其管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若クハ交通不便ナルカ爲メ至當ト認ムル𪜈ハ地方裁判所ニ屬スル民事及ヒ刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲メ一若クハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルヿヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム（第二項以下略之）」ト此場合ニ於テハ區裁判所ノ權限ハ大ニ擴張スルモノト謂フヘシ是畢竟土地ノ便宜ニ依ルモノタルヲ知ルニ足ランカ

合議制單獨制ノ可否

茲ニ裁判所構成法上ノ原則トシテ一ノ大ナル問題アリ裁判所ハ合議制ト爲スヘキカ將タ單獨制ト爲スヘキカノ點即チ是ナリ此問題タル百年以降歐州ニ於テ大ニ議論ノアリシ所ニシテ業已ニ諸大家ノ論シ盡シ亦更ニ論辯ヲ要セサルモノヽ如シ然レ𪜈余輩ノ見ル所ニ依レハ未タ決シテ議論ノ一定シタルニ非ス故ニ今日ニ於テモ論者中或ハ合議説ヲ主張スル者アリ或ハ單獨説ヲ唱道スル者アリ唯今日ノ實際ヲ通觀スレハ合議制ヲ採用スル國多キノミ而ノ實際其制

ヲ採用シタル邦國多シト云フヲ以テ未タ必スシモ之ヲ最良ナル制ナリトハ謂フ可カラス我邦曩キニ治罪法ノ制定セラルヽヤ輕罪裁判所以上ハ盡ク合議制ナリシモ實際ニ在テハ合議制ハ控訴院以上ニシテ輕罪裁判所以下ハ單獨制ヲ採レリ但輕罪裁判所ニテモ違警罪ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判スルニ付テハ猶ホ合議制ヲ用ヒタリ然ルニ今回發布セラレタル裁判所構成法ニ依レハ最下級ニ屬スル區裁判所ヲ除クノ外ハ總テ合議制ト爲セリ

今夫レ吾人皮相ノ見ヲ以テスレハ合議制ハ其利益甚タ至大ニシテ實ニ完全無缺ナルカ如シ諺ニ言ハスヤ「三人寄レハ文殊ノ智惠」ト孔子曰ク「三人行必有我師焉」ト又歐洲ニ言ヘルアリ云ク「一人ノ腦力ハ二人ノ腦力ニ若カス」ト蓋シ其義孰レモ多數ノ人相集マレハ何事ニ關セス明案良策ノ出テ能ク彼此ノ得失ヲ知ルヿヲ得ルト謂フニ在テ洋ノ東西ヲ問ハス時ノ古今ヲ論セス何人モ抱持スル所ノ通感通情ナリ然レ𪜈其實際タル必スシモ然ラス又夫ノ單獨制ハ寔ニ危險ナリト謂フモ是唯杞客ノ憂ニ過キサルヿアリ要スルニ一利一害一得一失ハ數ノ免ルヘカラサル所ニシテ茲ニ論スル合議制及ヒ單獨制ノ兩者ニ於ケルモ猶亦然リ



合議制ヲ可トスルノ理由ハ極メテ簡且明ナリ乃チ曰ク「數人ニテ裁判ニ任スル𪜈ハ其間必スヤ多少ノ意見ヲ異ニスヘク既ニ意見ヲ異ニスレハ茲ニ討議攻究スヘク已ニ討議攻究スレハ則チ其間ニ自ラ眞理ヲ明カニシ決シテ誤謬ニ陷ルヿナク甲裁判官カ注意ヲ欠ケハ乙裁判官ハ之ヲ補充シ以テ正當適實ナル裁判ヲ下スヿヲ得ヘシ且夫レ數人ニテ事務ヲ擔任スレハ其間ニ自ラ鞏固ナル一個ノ團體ヲ樹テヽ以テ運動スルカ故ニ獨立心ヲ充分ナラシメ且互ニ相制肘シ敢テ情實ニ流ルヽノ弊ナク又專擅ニ涉ルノ害ナシ此故ニ一人ニテ裁判ヲ爲スハ數人ニテ之ニ干與スルニ如カス今若シ其數人ノ裁判官ニシテ學識才能各同等ナリトスルモ討議攻究ノ餘大ニ利益ノアルアリ又其學識才能不平等ナリトスルモ猶眞理ヲ發見スルコトアリ何トナレハ學識才能優等ナル者ニテモ時ニ或ハ過誤アリテ却テ其劣等ナル者ニ矯正セラルヽヿハ實際往々目擊スル所ナレハナリ況ンヤ劣等者カ優等者ニ補助セラルヽ利益ノ大ナルオヤ殊ニ一人ニテ裁判ニ任スル𪜈ハ輙ク苞苴ノ行ハルヽ恐レアリ蓋シ裁判官一人ニ賄賂ヲ贈ルハ事秘密ニシテ裁判官モ亦之ヲ受ケ易カル可キモ之ニ反シ數人ニテ裁判ニ任

スルトキハ其中ノ一人ニ賄賂ヲ贈ルモ實效ナキヲ以テ必スヤ其數人ニ之ヲ贈ラサルヲ得ス然ルニ人ハ各其性質ヲ異ニスルヲ以テ其數人中或ハ之ヲ受クルモノアリトスルモ又之ヲ聽許セサル者アリテ顯ハレ易ク爲メニ其目的達シ難シ又數人ノ本心ヲ動サシメンニハ必スヤ巨額ノ費用ヲ要スルカ故ニ訴訟人ニ於テモ自然躊躇スル所アリ隨テ苞苴ノ容易ニ行ハレサルニ至ラン是ヲ以テ數人カ裁判ニ任スルハ又賄賂ヲ防クニ大ナル利益アル制度ナリト謂フヘシ」トイフ寔ニ然リ然リト雖モ又顧テ一方ヨリ觀察スレハ合議制ハ數箇ノ點ニ付キ不可ナル所アリテ而シテ單獨制ノ大ヒニ利益アル所ヲ見ル請フ試ミニ之ヲ詳論セン

第一　合議制ハ裁判官ニ缺クヘカラサル品位ヲ傷害ス

合議制ハ其裁判官ノ多數ナルニ隨テ倍々其品位ヲ下スモノナリ其理由ハ即チ左ニ叙述スル所ノ如シ

其一　(其一)裁判官ノ責任ヲ薄フス　抑モ裁判官ノ正實ナルハ輿論ト謂ヘル裁判所又ハ法律ト謂ヘル裁判所ニ對シテ有スル責任ニ在リテ存ス而シテ其責任ヲ全ク負フ者ハ唯單獨裁判官アルノミ其故何ソヤ蓋シ單獨裁判官ノ公衆ニ對スルヤ己レ一身ニテ裁判ノ責ニ當ルモノナレハ其自ラ爲ス所ノ裁判ヲ公衆カ認メテ以テ正當ナリ適實ナリト言フ點ニ依賴スルノ外、他ニ自己ノ責任ヲ辯護スルモソナシ故ニ若シ單獨裁判官カ衆人ノ目前ニテ不正ノ行爲アレハ其誹謗忿怨ハ己レ一身ニ集リ決シテ之ヲ逭ルヽ能ハサルナリ然ラハ則チ裁判官ハ勉メテ德義ヲ重ンシ輕々事ヲ斷スルカ如キ憂ナク縱シヤ愛憎心アル裁判官ニテモ其地位、此ノ如クナルカ故ニ勢ヒ至公至平ナル裁判ヲ爲サヽルヘカラサルニ至ラン之ニ反シテ合議制ハ裁判官ノ責任ヲ減少シ而シテ其減少ハ裁判官ノ多數ナルニ隨テ倍々太甚シキヲ見ル何トナレハ多數裁判官ノ互ニ相結托シテ鞏固ナル一ノ團體ヲ成スヤ各自ラ大ニ依賴スル所アリ且衆人モ亦裁判官ノ多數ナルヨリシテ或ハ其裁判ヲ認メテ正當適實ナリト妄信スル者アルニ至ルヲ以テナリ

凡ソ毫モ動カスヘカラサル最モ正當適實ナル裁判ヲ爲サンニハ須ラク精覈審査シ事實ヲ明カニシ法理ヲ考ヘテ公平無私、虛心平氣ニ判斷スルヲ要ス然ル

ニ合議制ハ既ニ自ラ恃ム所アリ且多數ノ裁判官カ相集リテ事ヲ論スルモノナレハ若シ各其意見ヲ異ニスルニ於テハ必スヤ多數ニ依テ之ヲ決定セサルヘカラス而シテ此多數決ノ制ヤ便ハ則チ便ナリト雖モ元是狀勢ニ依テ事ヲ決シ眞理ニ依テ之ヲ決スルニアラス今若シ裁判官一體ノ勢力ヲシテ社會全般ニ普及スルモノナラシメハ縱シヤ不當ノ裁判アルモ其裁判タル一種團體ノ所爲ニ出ツルモノト看過シ敢テ之ヲ怪ム者ナカルヘク既ニ怪ム者ナシトセハ其裁判ハ强チ不正ノモノト謂フヘカラス何トナレハ裁判官カ正當ナル輿論ニ順フモ又輿論カ不當ナル裁判ニ盲從スルモ孰レモ其裁判ハ是認セラルヽモノナレハナリ然リト雖モ裁判官一體ノ勢力ハ決シテ社會全般ヲ支配スルモノニアラス之ニハ自ラ限界ノアルアリ寔ニ一部ノ者ハ合議裁判官ノ爲シタル裁判トシテ或ハ之ヲ盲信シ是認スヘシト雖モ他ノ一部ノ者ハ敢テ其勢力ニ眩惑セス猶ホ其裁判ヲ以テ不正不當ナリトスヘシ果シテ然ラハ縱令一部ノ者ハ安堵ノ思ヲ爲スモ他ノ一部ノ者ハ大ニ恐怖ノ念ヲ起スニ至ラン蓋シ一種團體ノ爲ス所ノモノニシテ一部ノ者カ見テ以テ之ヲ當然トスルモ當時多數ノ輿論ハ之ヲ否トセシ實例ハ歷史ニ徵シ古來少カラサル所ナリ而シテ之カ局ニ當ル者ハ同僚ノ多數及ヒ他ニ自己ノ措置ヲ是認スル者アルヲ賴ミ敢テ自ラ非理ヲ省ミサルヿ滔々タル天下比々皆是ナリ而シテ此事ヤ合議制ニモ亦適用スヘキナリ之ヲ要スルニ合議制ハ一部ノ人民カ唯タ裁判官ノ多數ナル一點ニ眩惑シ之ヲ妄信スルノ傾向アルヨリシテ其裁判官ハ自己ノ勢力ヲ賴ミ知ラス識ラス不正ニ陷ルニ至ル之ニ反シ單獨制ニ至テハ決シテ此ノ如キ弊害ナク其裁判官ハ唯自己一身ノ責任ヲ以テ局ニ當リ其信スル所ニ從テ裁判ヲ爲スノミ彼ノ勢力ヲ賴ムカ如キハ絕テ無キ所ナリ

（第三回）

其二

（其二）合議制ニ於テハ裁判官自己ノ爲シタル裁判ノ責任ヲ他ニ讓リ以テ之ヲ逭ルヽノ弊害アリ縱シヤ全ク之ヲ逭ルヽヿ能ハサルモ其口實ヲ與フルモノト謂フヘシ乃チ其裁判ハ合議裁判官數人ニテ之ヲ爲シ其中何人モ一人ノ爲シタルモノニ非サルヲ以テ若シ人アリ其裁判ノ不正不當ナルヲ抗擊センカ之ニ干與シタル裁判官ハ當ニ答フルナルヘシ「彼ノ裁判ハ決シテ余ノ本心ヨリ出テ

モノニ非サレ𪜈強固ナル反對論ニ制セラレ遂ニ之ニ抵抗スル能ハサリシヲ以テ事ノ此ニ至リシナリ」ト而シテ自己ノ說薄弱ニシテ他ニ勝ヲ制セラルヽ𪜈ハ却テ謙讓ノ德アリト忘想シ又怯弱ニシテ自說ヲ主張スル能ハサル𪜈ハ却テ先輩ニ對シテ敬意ヲ表スルノ義アリト偏見シ畢竟斯ノ二個ノ德義ヲ恬守センカ爲メニ自己ノ本心ヲ枉ケ强テ他ニ從ヒタリト辯解シ又其說ノ分離シタルヿ彌ヨ世上ニ明カナルニ於テハ其數裁判官ハ各曰ハン自己ノ說ハ少數ナリシカ爲メニ遂ニ敗ヲ取レリト焉ソ知ラン其裁判官ハ却テ其多數ノ說ヲ贊成シタルモノナルヿヲ若シ夫レ斯ノ如クンハ縱令裁判其物ニ不正不當ノ廉アルモ各口實ヲ搆ヘ遂ニ其責任ノ歸スヘキ所ナキニ至ラシ而シテ裁判ニ責任ノ歸スヘキ所ナキハ果シテ國家ニ利益アリヤ民人ハ安堵スヘキヤ甚タ憂慮ニ堪ヘサルハシ

之ニ反シ單獨裁判官ニ至テハ決シテ右ノ如キ口實アルヿナシ乃チ其裁判ノ責任ハ全ク自己一人ニ歸ス故ニ其裁判ニシテ正當適實ナランカ公衆ハ擧ケテ之ヲ贊美賞揚シ以テ其裁判官ノ名譽トナルヘク若シ又其裁判ニシテ不當不適ナ

其三

ランカ公衆ハ口ヲ揃ヘテ非難攻擊シ以テ其裁判官ノ不名譽トナルヘシ要スニ褒貶毀譽共ニ之ヲ受ク故ニ充分ノ能力ヲ振起シテ以テ善良適正ナル裁判ヲ爲スヘキナリ

(其三) 合議制ニ於テハ裁判官ハ物論ニ耐ヘ之ニ抵抗スルノ弊害アリ、凡ソ一ノ團體ハ其人員ノ多數ナルニ隨ヒ倍ス鞏固タルモノナリ今試ミニ民間ニ一種格段ナル思想ヲ有スル一ノ團體アリト假定セヨ、其團體中ノ者カ縱シヤ失敗スルヿアルモ其他ノ者ニ於テ之ヲ彌縫セハ稍ヤ其失敗ヲ救濟スルヿヲ得ヘシ是多數ヲ以テ非理ヲ掩庇スルノ例證ニ非スヤ而シテ合議制多數ノ意見ハ固ヨリ民間ニ於ケル一團體ノ意見ト比スルヲ得サルモ其意見ノ重キヲ致スヤ決シテ民間多數ノ意見ニ讓ラサルナリ且ヤ其裁判官ハ平素相會シ互ニ親密ナル交際アリ隨テ同僚ヲ敬愛シ其利益ヲ計ルハ蓋シ人情ノ常ナルヲ以テ苟モ事、同僚ノ利害ニ關スルモノハ縱令正理ヲ捨ルモ猶且其名譽ヲ保ツニ汲々タルハ亦勢ノ免ルヘカラサル所ナリ果シテ然ラハ自ラ偏頗心又ハ黨派心ヲ生シ威ヲ藉リテ非ヲ遂ケ遂ニ裁判官タルノ名譽品格ヲ失フニ至ルヘシ夫レ斯ノ如ク合議裁判官

カ已ニ一種ノ團體ヲ成ス以上ハ縱令自己ニ反對セル太甚シキ物議輿論アルモ毫モ之ヲ顧慮セサルヤ必然タリ然ルニ單獨裁判官ハ單身孤立ナルヲ以テ彼ノ合議裁判官カ同盟團體ノ力ヲ藉リテ物議輿論ニ衝ルカ如キハ絕テ無キ所ナリ若シ夫レ單身孤立ナルニモ拘ハラス强テ非理ヲ爲サンカ遂ニ其地位ヲ保ツヿ能ハサルニ至ラン故ニ虛心平氣唯自己ノ信スル所ニ從テ裁判シ其是非ノ如キハ一ニ世評ニ任スルノミ

其四

(其四)合議制ハ單獨制ヨリモ却テ誤謬ニ陷リ且情弊及ヒ賄賂ノ行ハレ易キノ弊害アリ、諸君ヨ試ミニ眼ヲ放テ合議制ノ實相ヲ熟視セヨ其裁判官ノ腦裡ニハ必スヤ各一個ノ說アラン故ニ事每ニ相爭ヒ以テ之ヲ討議攻究スルカ似シト雖モ實際隱然其間ニ默從ノ狀體アルヲ奈何セン蓋シ其能ク一說ニ歸シ調和圓滿ナルハ抑モ亦怪ムニ足ラス是其裁判官中ニ一人ノ勢力者アリテ他ハ之ヲ畏敬シ其說ニ服スルニ因ル之ヲ例ヘハ勢力アル裁判官ニシテ原告ヲ直者トセハ他ノ裁判官モ亦同ク之ヲ直者トシ又被告ヲ直者トセハ他ノ裁判官モ亦同ク之ヲ直者トスルカ如シ此言タル甚タ極端ニ奔ルカ似シト雖モ是蔽フヘカラサルノ

其五

傾向ナリトス此故ニ若シ訴訟人ニ於テ其要求スル所ヲ容レシメント欲セハ就中勢力アル裁判官ニ依賴シ以テ之ヲ籠絡スレハ可ナリ蓋シ其請托ヲ容ルヽヤ之カ器械ト爲リ隱然其意嚮ヲ示ス而シテ他ノ裁判官ハ知ラス識ラス之カ意ヲ承ケテ事ニ當ルカ故ニ裁判以前ニ於テ業已ニ其目的達シタリト謂フヘシ豈情弊賄賂ノ行ハレ難シト謂フヲ得シヤ且斯ノ如ク其說ノ當否ヲ問ハス其意見ノ是非ヲ論セス他ノ裁判官ハ一ニ勢力アル裁判官ノ意見ニ附和雷同スルモノナルヲ以テ若シ其意見ニシテ誤謬ナランカ他ノ衆裁判官モ相提携シテ共ニ誤謬ニ陷ルニ至ル

(其五)合議制ニ於テハ裁判官ハ全然不正ノ事ナキモ半ハ不正ヲ爲スノ媒介ト爲ルノ弊害アリ、此弊害タル數名ノ裁判官カ會同合議スル場合ニ於テ自己ノ意見ヲ陳述セス若シ又之ヲ陳述スルノ止ムヘカラサル片ハ半ハ之ヲ陳述シ半ハ之ヲ陳述セサルヿ是ナリ例ヘハ原告カ請求スル所ノ相當價額ハ眞ニ六百圓ト信スルモ之ヲ三百圓ナリト述フルカ如シ是其裁判官ノ袖裡ニ苞苴潛伏シ私カニ爲メニスル所アルニ因ル而シテ此意見ハ裁判ノ全部ニ波及スルモノトス何

トナレハ正當ナル說ニ一個ノ同意ヲ失ハシムルヲ以テナリ隨テ其訴訟ニハ恰モ半ハ自說ヲ與ヘ半ハ他ニ同意セタルカ似キ結果トナルヘシ而シテ此等ハ一人ニテハ爲シ難キヿナルモ裁判官ノ多數ナルヨリ多衆ノ裡ニ隱レ人ニ目立タスシテ爲ス卑劣手段ノ弊害タリ之ニ反シ單獨裁判官ニ至テハ決シテ右ノ如キ弊害アルヿナシ何トナレハ單獨裁判官ハ自己一人ノ信スル所ニ從ヒ訴訟ノ曲直及ヒ其償額ノ多寡ヲ判定スルモノニシテ彼ノ合議裁判官ノ責任ヲ曖昧ニ附スルカ如キハ其爲シ能ハサル所ナレハナリ

以上縷述セル所ヲ以テ假ニ其正鵠ヲ得タリトセハ合議制ハ啻ニ衆庶ニ對シテ善良適正ナル擔保タルヲ得サルノミナラス却テ不正危險ナルモノニシテ且清廉忠直ナル裁判官ノ品位ヲ傷害スルモノト謂ハサルヘカラサルナリ

今ヤ歩ヲ進メテ合議制ハ裁判官ノ性質上ニ如何ナル效益ヲ與フルヤ換言スレハ合議制ハ單獨制ヨリハ果シテ多クノ智識多クノ技倆ヲ有スルヤ否ヤニ論及セン

大凡ソ訴訟事件ハ簡易且明亮ナルモノ多ク殊ニ裁判官カ痛神苦慮以テ裁判スルカ如キハ極メテ罕ナル所ナリ隨テ異論岐說ノ生スルヿモ亦少シ是ヲ以テ普通ノ塲合ニ於テハ合議裁判官ノ一人裁判長ト爲リ大概子自己一身ニテ審理シ事毎ニ他ノ數名ノ裁判官ニ委曲協議スルカ如キヿナク又其數名ノ裁判官モ裁判長ニ一任シ深ク意ヲ注クヿ無ク又深ク思慮ヲ運ラスヿ無シ而シテ裁判長モ若シ疑義ノ存スルアラハ時ニ協議スヘキモ然ラスンハ敢テ協議スルヿナシ是實ニ普通一般ノ狀體ナリトス然ラハ則チ合議制ハ果シテ如何ナル期望如何ナル效益アリヤ蓋シ其期望其效益ハ徒タ外觀皮想ニ止マリ決シテ其實效實益アルモノニ非サルナリ故ニ數多ノ塲合ニ於テハ裁判官ノ多數ハ虛名ノヨ其實一人ニシテ他ノ裁判官ハ之ニ附隨スルニ過キス尙ホ詳言スレハ合議制ニテ所謂三人、五人、七人等ノ裁判官アリトハ其實二人、四人、六人等ノ輔助アルヘキ假裝ヲ呈セル一人ノ裁判官アリト謂フニ過キサルナリ且夫レ其虛名ニ屬スル二人、四人、六人等ノ裁判官アルカ爲メニ却テ實際事ヲ執ル所ノ主任裁判官ノ價値ヲ失墜スルモノト謂フヘシ其故何ソヤ他ナシ其主任裁判官ハ數名ノ補助協贊ニ賴

テ事ニ當ルノ外觀アルヲ以テ全ク自己一身ニテ事ヲ執ルヨリハ自ラ其信スル所深クシテ且粗漏ニ陷リ易キヿ即チ是ナリ

或ハ曰ク「裁判官數名ニテ從事スレハ其間ニ自ラ競爭ノ念ヲ生シ充分討議攻究スルヿヲ得ヘキヲ以テ乃チ眞理ヲ發見スルニ容易ナリ」ト合議裁判官ニシテ實際討議攻究スレハ寔ニ論者ノ言ノ如シト雖ヒ苟モ實際ノ狀況ヲ看破シ洞察スル者ハ此說ノ迂濶ナルヲ知ラン今其數名ノ裁判官カ各裁判所ヲ異ニセルトキハ格別ナレヒ而モ同裁判所ニテ同一事件ヲ擔任スレハ概ヲ裁判長一人ノ說ニ同意スルヤ蓋シ人情ノ免ル、能ハサル所タルヲ奈何セン

論者又曰ク「定ニ簡易明亮ナル事件ニ付テハ單獨制ハ乃チ可ナリト雖ヒ繁雜複雜ナル事件ニ付テハ單獨裁判官ノ遠ク及ハサル所ナリ」ト今之ヲ詳言スレハ茲ニ頗ル煩雜ナル一ノ事件アリトセン而シテ人ハ各其注意ノ度ニ自ラ程限アルカ故ニ單獨裁判官ニテハ或ハ注意ノ足ラサルヨリシテ錯誤ニ陷ルヿ往々之アラン之ニ反シテ合議制ハ多數ナルヲ以テ其裁判官中一人ハ經驗アリ他ノ一人ハ才智アリ又他ノ一人ハ法理ニ通曉スルト云フカ如ク各自他ニ優秀ナル所アリ即チ其長所ヲ集合具備スルカ故ニ注意周到ニシテ盤根錯節モ亦能ク調理スルヲ得ヘシト謂フニ在リ

右論者ノ所說タル一應理アルカ如シト雖ヒ長所ハ必スシモ合議裁判官中ニ在リトハ未タ容易ニ信スヘカラサルナリ假ニ論者ニ讓ルニ數百步ヲ以テシ多クノ場合ハ皆斯ノ如シトスルモ此說タル一ニ裁判官ニ重キヲ置キ他ニ之ヲ輔助スル者アルヿヲ忘却セルモノト評セサルヲ得ス何ソヤ夫レ單獨裁判官ハ自己一身ニテ事ニ當ルモ其訴訟ヲ審理スルニ當テヤ原被兩造アリ又辯護士アリ蓋シ原被兩造ハ事實ヲ提供シ法律ヲ援引シ且立證ノ任ニ當ルモノニシテ其雙方ハ互ニ全ク反對ノ地位ニ立チ而シテ各自苟モ其利益ニ關スル點ハ決シテ遺漏セサルヲ以テ裁判官ノ注意ヲ補足スルヿ實ニ鮮少ナラサルナリ況ンヤ辯護士ヲヤ故ニ必スシモ裁判官ノ多數ヲ要セサルナリ且ヤ訴訟ハ大率ヲ二審ニシテ其一審ニ止マルハ實ニ輕微ナル事件ノミ(現制ニテハ一審ハ至テ稀レナリ)論者ハ猶ホ此點ヲモ忘却セルモノト謂フヘシ故ニ通常ノ訴訟ニ付キ第一審ニテ萬一裁判官カ重要ナル點ヲ遺漏セルヿアルモ上訴ヲ爲シテ以テ之ヲ改正セシム



0025

ルヿヲ得ヘク而シテ其訴訟ヲ上級裁判所ニテ審理スルニ及ンテ此ニ始メテ裁判官ノ數名アル利益ヲ生スヘシ何トナレハ訴訟ノ第一審ト第二審トハ其裁判所ヲ異ニシ全ク二名ノ裁判官アリテ其各裁判官ハ其地位其利害ヲ異ニシ又其慣習其感情ヲ同フセサルヲ以テナリ而シテ第二審ノ裁判官ハ第一審ノ裁判中ニアル瑕疵ヲ充分補正スルノ權ヲ有スルカ故ニ單獨裁判官ノ錯誤モ亦敢テ憂フルニ足ラサルナリ加之ス單獨裁判官モ猶ホ他ニ智識ヲ得ルノ方法ナキニ非ス即チ若シ疑點アリテ裁判ヲ爲スニ逡巡躊躇セハ須ラク該事件ニ全ク關係ナキ專門家ノ意見ヲ聽クヘシ其意見ヲ聽クモ固ヨリ妨ケナク又其意見ニ從テ裁判スルモ亦支障アルヿナシ蓋シ他人ノ意見ニ從テ下シタル裁判ニ付テモ責任ハ全ク其裁判官ニアレハナリ

又論者ハ繁難錯綜ナル事件ニ付テハ單獨制ハ洵ニ危險ナリト言フモ其所謂繁難錯綜ナル事件ハ實際上極メテ稀有ノ例外ニシテ百件中少クモ九十件迄ハ皆簡易明亮ナルモノトス而シテ其殘餘十件中ニ付テモ九件迄ハ苟モ普通一般ノ法學ヲ研究シ法理問題ヲ決定スルノ思想ヲ有スル者ハ能ク之ヲ裁判スルヿヲ



得ヘシ然ラハ則チ合議制ハ九十九件ニ對スル一件ノ爲メニ特ニ必要ナリト謂ハサルヘカラス豈思ハサルノ太甚シキモノト評セサルヲ得ンヤ

斯ノ如ク論シ來ラハ論者或ハ詰問セン曰ク「事件ノ難易ハ抑モ亦何ニ據テ之ヲ知ルヘキカ」ト然リ寔ニ事件ノ難易ハ或ハ之ヲ測リ知ルヘカラサルモノアラン然レモ一名ノ裁判官ニテハ到底裁判スルヿ能ハスシテ數名ノ裁判官ナルトキハ必ス善良ナル裁判ヲ爲シ得ラルヽト謂フカ如キ事件ハ斷シテ之ナシト言フニ敢テ躊躇セサルナリ

且夫レ人ハ互ニ相依賴スレハ注意心應用力ハ爲メニ薄弱ト爲リ充分ニ其才能ヲ發達涵養スルヿヲ得ス此精神此心能ヲ養成スルニハ實ニ自已一人ニテ事ヲ處理スルニ在リ爾レハ單獨裁判官コソ却テ才能アリ且其才能ヲ運用發達セシムルヿアリト謂フヲ得ヘク之ニ反シテ合議裁判官ハ其才能ヲ萎靡セシメ以テ之ヲ運用發達セシムルヿナシト謂ハン又單獨裁判官ハ容易ニ其技倆ヲ發見スルノ效アリ即チ合議制ニテハ其裁判官ノ淺學短才ハ永ク之ヲ陰蔽スルヿヲ得ヘク即チ此輩ハ他人ト共ニシ他人ノ庇保ニテ漸ク事ヲ處理スルモ他ヨリ見テ

容易ニ其才能ヲ知ルヘカラスト雖モ一タヒ單身公ケノ劇場ニ出ツルトキハ忽チ其假面ヲ脱セサルヲ得サルニ至ルヘシ之ニ反シテ單獨裁判官ハ決シテ此ノ如キ一ナク最モ自由ニ最モ活潑ニ自己ノ才能ヲ運用スルヲ得ヘキカ故ニ其能不能ハ直チニ知ルヲ得可ク一目以テ彼此ノ間ニ劃然タル差等アルヲ知ルニ足ランカ

右ハ合議制カ裁判官ノ品位ヲ害スルヿヲ說キタルナリ

第二　合議制ハ訴訟事件ヲ遲緩ナラシムルノ害アリ

凡ソ訴訟ハ急速ニ處決スルヲ要ス然ルニ合議制ハ之ヲ遲緩ナラシムルノ弊害アリ之ヲ詳言スレハ總テ一ノ事件ヲ裁判スルニ當リテヤ其裁判官ノ數多ナルニ隨ヒ倍ス長キ時日ヲ費スモノトス而モ其費ス所他ニ得ル所アレハ即チ可ナリト雖モ實ニ全ク無益ニ歸センノミ何ソヤ夫レ裁判官ハ各自多少ノ意見アリ其意見ハ必スシモ擧テ名論卓說ニ非サルモ兎ニ角一ケノ意見タルニ相違ナシ苟モ一ケノ意見ナリトセハ互ニ辯難攻擊スヘク而シテ其辯難攻擊スルハ即チ合議制ノ利益ナル所ナリト謂フモ而モ各事件毎ニ異論百出セハ之ヲ一括決定



スルニ甚タ至難ナルヘシ若シ又其裁判官中互ニ辯難攻擊スルヿナク常ニ能ク一致スルノ慣習アランカ是即チ各裁判官ハ互ニ分離セサランヿヲ勉ムルニ因ル此慣習タル甚タ嘉ミスヘキモノヽ似シト雖モ顧テ一方ヨリ觀察スレハ其强テ一致センカ爲メニ濫リニ自己ノ意見ヲ枉ケ以テ現ニ不可ナリト信スル所ノ說ニ雷同スルモノナリ是レ豈合議制ノ本旨ナランヤ若シ又各裁判官ノ間ニ議論ノ派カルヽヿアレハ互ニ調和センヿヲ計リ爲メニ會議ヲ他日ニ延スカ如キニ至ルヘシ果ソ然ラハ一回ノ會議ヲ以テハ未タ決定スルニ至ラスシテ二回三回若クハ數回ノ會議ヲ開キ延期ニ延期ヲ累ネ其結果ヤ處分甚タ遲緩トナリ而シテ其迷惑ヲ蒙ル者ハ唯訴訟人ノミ又若シ各裁判官カ抱持スル所ノ說ニシテ大ニ相異ナリ互ニ固守シテ一歩モ動カサランカ勢ヒ枝葉ノ議論ニ涉リ大切ナル訴訟ハ姑ク場外ニ抛チ更ニ裁判官中ニ一種ノ訴訟起リ此訴訟ヤ裁判官ニ在テハ訴訟本案ヨリハ却テ各自ニ一層ノ利害ヲ感スルヿ切ナルノ觀ヲ呈シ裁判所ハ遂ヒニ討論會場トナルニ至ラン訴訟人ニ取リテ迷惑ノ至リ亦氣ノ毒千萬ナル次第ナラスヤ

夫レ斯ノ如クンハ合議制ハ宿ニ事件ノ落着ヲ遲延スルノミナラス公衆ノ感情ヲ害シ以テ其信用ヲ失墜シ又其裁判官ハ討議ニ因テ眞理ヲ發見セントスルヨリハ寧ロ之ニ因テ他ヲ壓倒シ心ニ快シトナサント欲シ徒ラニ勝敗ヲ爭フカ故ニ遂ヒニ其德義ヲ害スルヿ尠カラサルニ至ル

然ルニ裁判官一人ニテ事件ヲ處理センカ徒ラニ辨舌ヲ闘ハスヿナク且空シク貴重ナル時日ヲ費ヤスヿナク又惡意ヲ以テ正論ヲ壓セラルヽカ如キヿナク唯自家ノ說ヲ以テ決定スレハ則チ可ナリ故ニ單獨制ハ訴訟ノ落着スルヿ極メテ迅速ナリトス

第三　合議制ハ國家ノ經濟上ヨリ觀察スルモ不可ナリ

今ヤ論歩ヲ轉シ合議並ニ單獨ノ兩制ニ關シ更ニ經濟上ヨリ其利害得失ヲ推覈セントス是亦重要ナル論點ナリ夫レ數多ノ裁判官ヲ置キ之ニ與フル所ノ俸給ニシテ若シ不充分ナランカ能者ハ去テ復タ其職ニ止ラス唯其地位ニ戀々トシテ之ヲ守リ之ヲ希望スル者ハ不能者ノミ不肖輩ノミ果シテ此ノ如クンハ善良適正ナル裁判亦得テ望ムヘカラス爾レハ迚充分ナル俸給ヲ與ヘンカ其額ノ莫大ナル到底歲計ノ能ク支フル所ニアラス是ニ於テカ多數裁判官ヲ置クノ利害ハ面倒ナル議論ヲ要セス簡單ナル算盤上ノ計算ニテ業己ニ明確ナリ

諸君ヨ試ミニ思ヘ玆ニ月俸百圓ノ俸給ヲ受クル者アリ此者ヤ理論上二百圓ノ俸給ヲ受クル者ヨリハ遙ニ劣等ナリト謂ハサルヲ得ス今此百圓ノ俸給ヲ受クル裁判官三人アラハ總額三百圓ナリ合計三百圓ノ俸給ヲ受クル三人ノ者ハ二百圓ノ俸給ヲ受クル者ヨリハ果シテ善良ナル裁判ヲ爲シ得ル乎是甚タ疑ヒ無キ能ハス一人百圓ノ人物ハ依然百圓ノ價格ナリ三人五人相集ルモ到底二百圓ノ人物ノ上ニ出ツルヿ能ハサルヘシ爾レハ合議制ハ政府ニ於テ現ニ數多ノ損失ヲ爲シナカラ尙且不良ノ裁判ヲ爲サシムルモノト云ハサルヲ得ス其不經濟ナル其不得策ナル豈察セサルヘケンヤ

以上詳論シタルカ如ク合議制ハ裁判官ノ品位ヲ傷害スル點ヨリ見ルモ訴訟事件ヲ遲延スル點ヨリ見ルモ又國家經濟上ノ點ヨリ見ルモ以テ善良ナル制度ナリト謂フヲ得サルカ似シ然ルニ歐州大陸ノ各國ニ於テ久シク此制ヲ採用セルハ抑モ何ソヤ

先ツ佛國ノ歴史ニ徴シテ之ヲ云ハンニ佛國ハ實ニ古來ノ沿革ニ起因シタルモノニテ而シテ其沿革タル毫モ公益ニ關係ナキ源由ヨリ漸ヲ以テ習慣ヲ養成セシニ過キス蓋シ其始メ各裁判所ハ孰レモ一名ノ裁判官ニテ裁判ヲ爲セリ然ルニ王權日ニ增ス隆盛ヲ極メ事務ノ彌ヨ繁多ナルニ及ンテヤ隨テ巨額ノ政費ヲ要スルヨリシテ此ニ賣官ノ制ヲ生シ裁判官タル官職モ亦政府ヨリ賣渡スコト爲リ大ニ裁判所及ヒ裁判官ノ數ヲ增加スルニ至レリ是舊來ノ制度ナリキ其後夫ノ大革命ノ當時立憲會議ニ於テ裁判所構成法ヲ制定スルニ當リテヤ之カ調査委員トナリシモノハ皆舊裁判官又ハ代言人ナリシカ此等ノ者ハ舊來ノ事物ニ感染馴致シ居ルモノナルカ故ニ裁判官ヲ數多置クハ甚タ利益アリ信用アリトノ迷想ヲ抱テ立案起草シ之ヲ以テ根基ト爲シタルヨリシテ遂ニ十九世紀ノ今日ニ至ル迄猶ホ依然因襲採用セルノ結果ヲ見ルニ至レリ其他ノ各國ニ於テモ因襲ノ久シキ見テ以テ怪シマス過々改革ヲ企テントスルモ官職ヲ失フ者ノ多キ之カ處分ヲ難スルヨリ遂ヒニ斷行スルニ躊躇スルモノナリ

此他歐州ニ於テモ何故ニ合議制ヲ以テ可トスルヤ其理由恐ラクハ左ノ二ケノ迷想ニ在ラン

第一　一人ハ二人、二人ハ三人ニ如カストノ通俗ノ思想ナリ、此思想タル實際必スシモ然ルヘカラサルヿハ前既ニ述ヘタル所ノ如シ

第二　權利ハ之ヲ別テ制限スルニ如カスト云フ政略的思想是ナリ、此思想ノ基ク所ノ利益タル要スルニ訴訟ノ秘密中ニ在テ存ス之ヲ詳言スレハ裁判官カ訴訟事件ニ付キ各自意見ヲ陳述シ討議攻究シテ以テ是非曲直ヲ決定スルトキハ互ヒニ相牽制シテ處分專横ニ流レス事中正ヲ得テ偏頗ニ傾クヿ無シト寔ニ權利ヲ別テ之ヲ制限セハ或ハ裁判官ヲ制肘シ幾分カ利益アルヘシト雖モ其利益ハ頗フル間接ニシテ而モ實際上必スヘカラサルヿハ是亦前既ニ述ヘタル所ノ如シ寧ロ一人カ一身ニ責任ヲ負ヒテ事ヲ決シ其判斷ヲ公衆ニ一任シテ以テ其公明正大ヲ保證スルニ如カサルナリ

又數人ニテ事ヲ決センニハ隨テ決議ノ規則ヲ設ケ又幾名ノ出席員アルヲ要スル等ノ定メナカルヘカラス既ニ決議ノ規則ヲ設ケンカ其裁判ハ數名ノ意見ヲ集メテ之ヲ取捨スルモノナルカ故ニ之ヲ適理適正ノ裁判ト云ハンヨリハ寧ロ

之ヲ雜駁裁判調和裁判混合裁判トモ謂フヘク又出席員數ノ規則ヲ設ケンカ一名ノ欠席アルモ爲メニ事件ヲ延期シ時日ヲ遲緩ナラシムルニ至ラン又縱シヤ他ノ者ヲ以テ補欠スルモ當初ヨリ該事件ニ關係セサルカ故ニ徒タ其員數ヲ充スノミ決シテ實益アルニアラサルナリ

又眼ヲ放テ上訴ノ場合ヲ見ヨ三人合議ノ第一審ニ於テ其二人ハ原告甲者ノ訴求ヲ適當ナリトシ一人ハ被告乙者ノ申分ヲ可ナリトシタリト假定セン第一審ニ於テ敗訴シタル乙者上訴シタルニ當リ五名合議ノ上訴裁判所ニ於テ其三名ハ乙者ノ申分ヲ採用シタルトキハ前後二審ノ意見ヲ合算セハ當不當共均シク四個ニシテ何レモ正シク同數ニ非スヤ其裁判所コソ相異ナレ數ヲ尙フ合議ノ制ニ在テ同數ナランニハ何レヲ可トス可キヤ否トス可キヤ未タ判明ナラサル可シ若シ上級裁判所ノ法官ハ智識才能共ニ優等ナリトノ故ヲ以テ其裁判ヲ極上無比ナリトセハ是レ數ニ就ヒテ立論スルモノニ非スシテ人ニ就ヒテ地位ニ就ヒテ立論スルモノナリ若シ夫レ地位ニ就ヒテ立論シ上級裁判所ノ法官ハ皆優等ナリト云ハヽ何カ故ニ上級裁判所ニハ法官ノ數特ニ多キヤ又人ニ就ヒテ斯クモ重キヲ置カハ上級裁判所ニハ一二人ノ裁判官ニテ最モ俊秀ナルモノヲ特選シ優俸ヲ與ヘテ之ヲ置カハ以テ充分ナルニ非スヤ又何ソ五人七人ノ多數ヲ要センヤ況ンヤ又他ノ一例ヲ示セハ合議制ノ甚タ謂レ無キモノタルヤ甚タ明カナルヘシ

例ヘハ第一審ニ於テ判事五名ノ總體一致ヲ以テ裁判ヲ下シタリシニ其裁判ハ上級審ニ於テ判事七名ノ中三名ニ對スル四名ノ多數ヲ以テ改更セラレタリトセン此場合ニ於テ二審ノ數ヲ合算セハ八ニ對スル四ヲ以テ勝ヲ制シタルモノニテ正サシク倍數ニシテ半數ノ壓スル所トナリシモノナリ要スルニ總數十二個中僅ニ四個ヲ以テ終局ノ裁判ヲ爲シタルモノトス是レ果シテ數ヲ尊ム合議制ノ本旨ニ適ヘリト爲スカ上級審ノ判事ハ下級審ノ判事ニ比シテ一層智識經驗ニ富ムトノ推測アリト雖トモ此例ノ場合ノ如キ上級審ニ在テモ既ニ反對說アリテ七名ノ判事中三名ハ第一審ノ裁判ヲ可ナリトスルモノナルカ故ニ比較上一名ノ多數ニテ事ヲ決スルモノナレハ即チ優等判事一名ニテ下級審ノ裁判ヲ改更スルニ至ルヲ以テ見レハ結局本案ノ裁判ハ第一審ノ判事五名ノ全體カ

爲シタル裁判ヲハ所謂智識經驗共ニ優等ナリトスル判事一名カ改更シテ終局シタルモノナリト謂ハサル可カラス是レ亦多數中ニ正理在リ眞理存ストノ合議制ノ本旨ナルカ余ノ不敏之ヲ解スル能ハサル所ナリ

上來述フル所ノ如クンハ合議制ハ毫モ利益ナク當ニ利益ナキノミナラス却テ弊害ノ多キモノヽ似シ然ルニ我立法者ハ何カ故ニ之ヲ採用セシカ余輩ノ不肖淺學甚タ之カ答ニ苦ム今ヤ考一考シテ僅ニ之ヲ發見セリ謹テ立法者ノ精神ヲ推度センニ蓋我國今日ノ時勢民情ヲ通察シタルモノト思ハル抑モ多數裁判官カ椅子ヲ並ヘテ裁判スレハ今日ノ普通人民ハ必スヤ安心スヘク是レ獨リ我國ノミナラス歐洲ニ於テモ亦然リ殊ニ合議制ヲ以テ不可ナリトスル論者ノ憂フル所ヲ可及的除却シタランニハ敢テ大ナル弊害ナカルヘシ今若シ之ヲ人ニ譬ヘテ言ヘハ彼ノ單獨制ハ活潑機敏有爲ノ資ヲ具フル少年ニメ時ニ或ハ善良ナル裁判ヲ爲スコアルモ亦極メテ不良ナル裁判ヲ爲スヤモ知レサル危險ノ人物ナリ之ニ反メ合議制ハ温良篤實注意周到以テ事ヲ處スルカ故ニ活潑ナル働キハ無キモ先ツ以テ大丈夫ナル人物ナリ縱令過誤アルモ彼レカ如ク甚シカラス且

ヤ各國大概チ合議制ヲ採用セルニ依リ之ニ模倣スルモ敢テ大ナル弊害アラサルヘシ加之ス若シ單獨制トセンカ智識經驗ヲ具備スル有爲ナル數多ノ人物ヲ要ス而メ之ヲ今日ニ望ムハ至難ナル事情ナキニアラス況ンヤ亦他ニ何人モ推知ス可キ大ナル原因アルニ於テヲヤ是我立法者ノ此制ヲ採用セシ所以ナランカ是法律ノ精神ナランカ依テ今我合議制ニ付聊カ辯護ヲ試ミントス

第一　前示ノ如ク合議制ハ裁判官ノ責任ヲ薄フスト云ヘルノ點ハ實ニ有力ナル議論ナルカ故ニ到底充分ニ辯護スルヲ得スト雖モ凡ソ裁判官カ一ノ事件ヲ裁判スルニ付テハ必スヤ之カ責任アリ而シテ其責任ヤ一人ノミニ歸ス可カラスト雖トモ苟モ其裁判ニ關與スルニ於テハ連帶責任アル可キハ明カナリ既ニ責任アレハ廉恥ヲ顧ミサル裁判官ハ去來知ラス多少ノ德義心ヲ有スル裁判官ハ相當ノ思慮ヲ費シ以テ其事ニ當ルヘキナリ

第二　合議制ハ裁判官カ不法ナル裁判ノ責任ヲ他ニ讓ルト云ヘルノ點ハ之ヲ防止スルノ方法アリ本法第百二十一條第二項ニ曰ク「判事ノ評議ハ其裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其評議ノ顛末並ニ各判事ノ意見及ヒ多少ノ數ニ付テハ嚴

ニ秘密ヲ守ルコトヲ要ス」ト即チ是ナリ蓋シ此ノ如クナレハ裁判官ハ出テヽ自説ヲ人ニ示シ以テ之カ責ヲ他ニ讓ルコトヲ得サルヘシ

第三　合議制ハ裁判官カ物議輿論ニ堪ヘ之ニ抵抗スト云ヘルノ點ハ之ヲ害用スルカ故ニ害アルノミ若シ夫レ之ヲ利用センカ甚タ適當ナル制度ト謂ハサルヘカラス何トナレハ物議ニ堪ヘ輿論ニ抵抗スルハ即チ公正適實ナル裁判ヲ爲ス所以ノモノナレハナリ例ヘハ茲ニ一ノ事件ニ關シ政黨ノ騷擾スルヿアランカ單獨裁判官カ毅然トシテ物議ニ制セラレス輿論ヲ壓シテ公明ナル裁判ヲナス可キヤ否ヤハ得テ保スヘカラス之ニ反シテ裁判官カ一ノ團體ヲ組立テ以テ職務ヲ執ルトキハ其團體ノ力、強大ナルカ故ニ敢テ世論ノ脅迫ニ恐ルヽコトナク又政府ノ內情ニ制セラルヽコトナク不羈獨立以テ能ク至公至正ノ裁判ヲ爲スヲ得ヘキナリ蓋シ物議輿論モ時トシテハ正理ニ適ハス徒ラニ囂々シ唯勢力ヲ示スニ過キサルコトアレハ之ニ從フモ必スシモ適正ナリト謂フ可カラサルモノアリ殊ニ裁判ノ如キ公義中正ヲ尙フモノナルヲヤ

第四　合議制ハ單獨制ヨリモ却テ誤謬情弊ニ陷リ且賄賂ノ行ハレ易シト云ヘルノ點ハ本法第百二十二條ニ於テ其弊害ヲ防止セリ同條ニ曰ク「評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス」ト即チ是ナリ若シ此規則アラハ各判事ハ每事注意シテ等閑ニ附スルコトヲ得ス又裁判長ノ籠絡スル所トナリテ專ハラ之カ意見ニ旨從スルカ如キ弊ヲ防クコトヲ得可シ第五　合議制ハ裁判官カ全部ノ不正ヲナサヽルモ半ハ不正ヲ爲スノ媒介トナルト云ヘルノ點モ本法ニ於テ之ヲ防止セリ第百二十四條ニ曰ク「判事ハ裁判スヘキ問題ニ付キ自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス」ト故ニ合議裁判官ノ一人カ或ハ意見ヲ開陳セス或ハ贊成若クハ不贊成ナル旨ヲ表示セス爲メニ正當ナル說ニ一個ノ數ヲ失ハシメ以テ不當ノ說ニ半ハ贊成ヲ與フルカ如キ結果ヲ生セサルヘシ又第百二十三條ニ曰ク「裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル(第一項)金額ニ付キ判事ノ意見三說以上ニ分レ其說各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス(第二項)刑事ニ付キ其意見三說以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見



0032

ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス(第三項)ト故ニ例ヘハ茲ニ五名ノ裁判官アリテ八百圓、七百圓、六百圓、五百圓、三百圓ト各自其意見ヲ異ニスルトキハ結局六百圓ノ説ニ決定スヘシ然ラハ則チ前例眞正ノ價額六百圓ノモノヲ三百圓ト爲スカ如キ弊害アラサルヘキナリ

右ニ擧示セルカ如ク裁判ノ方法ヲ法律ニ規定スルハ固ヨリ策ノ得タルモノニ非スト雖トモ合議制ヲ採用スル以上ハ勢ヒ之ヨリ生スル諸般ノ弊害ヲ豫防セサルヘカラス而シテ可及的之ヲ豫防セハ合議ノ制モ亦利益無キニ非サルヲ以テ必スシモ我立法者ヲ非難スヘキニ非サルナリ要スルニ合議制ハ善良完全ナルモノニ非サレトモ夫ノ中ラスト雖トモ遠カラスト云ヘルカ如キ中庸主義ヨリシテ斯ノ制度ヲ採用セシモノニシテ又多數ノ者カ裁判ニ干與スルハ訴訟人ニ取リテ信用多キカ故ナランカ但余ハ深ク贊成スル能ハサルナリ

以上講述スル所ヲ以テ總論ヲ了レリ仍ホ此他ニ論スヘキモノ固ヨリ少カラスト雖トモ冗長ニ渉ルノ嫌アルカ故ニ今ハ之ヲ略シ次回ヨリ法文ニ就テ講述セン

(第五回)

本回ヨリ法文ニ入テ講述スルニ先チ尙ホ一言スヘキ事アリ

裁判所構成法ノ性質

凡ソ法律ニハ公法ト私法トノ別アルコトハ今更多辯ヲ要セス即チ私法ハ一個人ト一個人トノ關係ヲ規定シタルモノニシテ公法ハ國家ト人民トノ關係及ヒ國家活動ノ機關、組織ヲ規定シタルモノナリ而シテ此裁判所構成法ハ公法私法其孰レニ屬スルモノナリヤト云フニ勿論公法ノ一ナルヿ明ナリ又公法中ニ規定法ト制裁法トノ區別アリ規定法トハ權利ト義務ヲ規畫シ若クハ命令禁止ヲ定ムルモノヲ云ヒ制裁法トハ規定法ヲ運用シ及ヒ規定法ニ違背セルモノヲ處分スルノ事項ヲ定メタルモノニシテ裁判所構成法ハ其規定法ニ屬スルモノトス」却説裁判所構成法ハ全部ヲ四編ニ別チ第一編ニハ裁判所及檢事局ニ關スル事ヲ定メ第二編ニハ裁判所及檢事局ノ官吏ニ關スル事ヲ定メ第三編ニハ司法事務ノ取扱方ヲ定メ第四編ニハ司法行政ノ職務及監督權ノ事ヲ規定セリ

## 第一編　裁判所及ヒ檢事局

本編ノ表題ニ裁判所及檢事局ト併記セシ理由ハ檢事ハ裁判所ニ詰所アリト雖トモ檢事局ナルモノハ裁判所内ニ設ケタルニアラス唯之ヲ裁判所ニ附置シタルノミ是レ裁判所ト檢事局ハ互ニ獨立シテ相從屬スルコトナク全ク別異ノモノナルヲ以テナリ蓋シ檢事ノ本分ハ國家ノ公益ヲ保護スルニアリ故ニ或ハ原告官トナリテ訴訟ヲ提起シ若クハ司法官廳ヲ代表シテ訴訟ヲ辯護シ又ハ其必要ナル場合ニ於テハ民事ノ訴訟ニ關與スルノ職務ヲ有スルモノナリ之ニ反シテ裁判官ト原被兩造ノ間ニ立テ訴訟ヲ裁判スルモノナレハ全然其位地ヲ異ニセリ是裁判所及檢事局ト別記シ以テ自ラ其職務ノ異ナルヲ示セル所以ナリ

然ルニ此構成法ニ裁判所ノ名稱ヲ冠シ而シテ其中ニ檢事局ニ係ル事項ヲ規定シタルハ要スルニ主タルモノハ裁判所ナルヲ以テ其主タルモノニ依テ其名稱ヲ定メタルニ過キサルナリ

# 第一章　總則

第一條　左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一　區裁判所

第二　地方裁判所

第三　控訴院

第四　大審院

本條ニ列記シタル數箇ノ裁判所ハ此裁判所構成法ヲ以テ始メテ見ルニ非ラス從來既ニ設置サレタル處ニシテ現今猶ホ此制度ヲ行ヘリ則チ現今ノ治安裁判所ハ本條ノ所謂區裁判所ニシテ始審裁判所ハ本條ノ地方裁判所ナリ又控訴院ハ全シク本條ノ控訴院ニシテ大審院モ亦本條ノ大審院ナリ是裁判所構成法施行條例第一條ニ依テ明カナリ然レトモ從來ノ規則ト此裁判所構所法トヲ比照スルニ裁判所ノ權限ニ至テハ大ニ差異アルヲ見ルヘキナリ

通常裁判所

裁判所ニハ通常ト特別トノ二アリ通常裁判所トハ普通一般ノ民事及ヒ刑事ノ裁判ヲ爲シ併セテ司法ノ行政ニ關スル一般ノ事務ヲ擔任スル所ニシテ即チ本條ニ列記スル裁判所是ナリ然リ而シテ此裁判所構成法ハ通常裁判所ニ關スル規則ヲ定メ特別裁判所ノ事項ニ關シテハ何等ノ規定ヲモ爲サヽルナリ所謂特

民刑裁判所ノ名稱ヲ同フセシ理由

別裁判所トハ陸海軍裁判所(現今ノ軍法會議)若クハ行政裁判所ノ如キモノヲ謂ヒ此裁判所構成法ノ支配スル所ニ在ラス

現行ノ治罪法ニ依レハ其第三十一條ニ於テ「通常刑事ノ裁判權ハ民事ノ裁判權ト同一ノ裁判所ニ屬ス」トアリテ民事刑事ノ裁判權ハ等シク同一ノ裁判所ニテ行フノ制度ナリ然レトモ民事ト刑事トノ裁判ハ宛モ二箇ノ裁判所ヲ設ケテ之ヲ行フカ如キ觀アリ何トナレハ民事ヲ裁判スルニハ治安裁判所始審裁判所及ヒ控訴院等ノ名稱アリテ刑事ヲ裁判スルニハ其名稱同シカラス犯罪ノ種類ニヨリ或ハ違警罪裁判所トナリ或ハ輕罪裁判所トナリ若クハ重罪裁判所トナレハナリ要スルニ民事ト刑事ヲ裁判スルニ其名稱ヲ異ニセリ然ルニ民事裁判權モ刑事裁判權モ等シク國家ノ大權ニ屬スルモノニシテ畢竟裁判的ノ活動ヲ爲スモノニ過ストハ近世國法學者ノ認ムル處ニシテ固ヨリ當然ナリトス

既ニ民事刑事ヲ併セ同一ノ裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ以テ當然ナリトセハ民事ヲ裁判スルト刑事ヲ裁判スルトニ依リテ其名稱ヲ異ニスルノ理由アルヲ見サルナリ此故ニ裁判所構成法ニ於テハ區裁判所、地方裁判所、控訴院等ノ名稱

裁判所ヲ數個ニ區別シタル理由

ノ下ニ於テ民事ノ裁判ヲナシ又刑事ノ裁判ヲモ爲スモノトス加之本法ニ依レハ輕罪事件ニシテ區裁判所ニテ裁判シ重罪事件ニシテ地方裁判所ニテ裁判スルコトアルヲ以テ最早ヤ犯罪ノ種類ニ依リ其名稱ヲ異ニスルロトナシ否決シテ異ニスヘキモノニ非スト信スルナリ

今ヤ何故ニ裁判所ヲ數箇ニ區別セシヤ其理由恐クハ左ノ二個ニ出サルヘシ(第一)人民ノ便益ヲ謀リタル事(第二)裁判ノ錯誤ヲ釐正シ及ヒ裁判權ノ濫用ヲ防制スルニアリ以下之ヲ詳述セン

凡ソ事舉ナ大小輕重ノ別アリ訴訟事件ニ於ケルモ亦然リ故ニ其重大ナル事件ニ付テハ自ラ鄭重ナル手續ヲ要シ其輕少ナル事件ニ付テハ之ニ相應スル簡易ノ手續ヲ要ス是刑事ト民事トヲ問ハス其手續上ニ於テ精粗繁簡ノ別アル所以ナリ然ルニ其事件ノ輕小ナルト重大ナルトヲ論セス全一ノ裁判所ニテ全一ノ手續ヲ以テ之ヲ處置スルトセンカ其手續ハ必スヤ精粗繁簡ノ中間ヲ斟酌シテ其中庸ヲ採ルコトヽセサルヲ得ス果シテ此ノ如クンハ輕少ナル事件ニ付テハ比較上事煩累ニ失シ自ラ日時ヲ空費シ費用ヲ徒消スルノ害アリ而シテ重大ナ



0035

ル事件ニ付テハ亦比較上其手續粗漏ニ涉リ自ラ權利ノ保護充分ナラサルノ恐アリ故ニ必ス其事件ノ大小輕重ニ從ヒ之カ裁判所ヲ異ニシ又其手續ヲ異ニセサルヘカラス是裁判所ヲ數箇ニ區別シタル第一ノ理由ニシテ人民ノ便益ヲ謀ルニアリト謂フ所以ナリ

且夫レ一回裁判ヲ與ヘタルトキハ最早ヤ上訴ノ途ナシトセンカ縱令其裁判ニ錯誤アルモ又裁判官カ職權ヲ濫用スルコトアルモ其錯誤ヲ矯正シ權利ノ抂屈ヲ伸フルコト能ハサルニ至ラン故ニ必スヤ上訴ノ途ヲ開ヒテ裁判ノ改更ヲ得セシムルノ方法無カル可カラス然レトモ又凡ソ人間タルモノハ到底不完全タルヲ免レスシテ時トシテハ多少ノ誤謬無キニ非ストセハ幾回裁判ノ更正ヲナセハトテ果シテ眞ニ適正ナルヤ否ヤ保ス可カラス然ルニ徒ラニ強ヒテ其適正ナランコトヲ求メテ數多ノ審級ヲ設クルトキハ是レ終ニ底止スル所無カラントス故ニ須ラク上訴ノ途アルト之ニ制限ヲ置クトノ間ニ在テ其宜シキヲ制セサル可カラス此ニ於テカ一回ナシタル裁判ニ服セサルモノハ事實及ヒ法律ノ點ニ付テ第二回ノ裁判ヲ受クルコトヲ得セシメ而シテ其第二回ノ裁判ハ必ス

上級ノ裁判所ニ於テ爲サヽルヘカラス蓋シ上級ノ裁判官ハ智識經驗共ニ下級ノ裁判官ヨリ優等ニ居ルモノト看做セハナリ又如何ナル事件ヲ問ハス其裁判違法ノ場合ニ於テハ第三回ノ審理ヲ受クルコトヲ得ルモノトセリ是レ法律ノ解釋ハ畫一ナラサル可ラサルニ因ルナリ則チ大審院及控訴院カ第二回ノ審理ニ對シテ受クル所ノ上訴ハ(第三十七條第二、第五十條第一ヶ號)唯其裁判カ法律ニ違背シタルモノナルトキニ限ルトノコトハ民事訴訟法第四百三十四條ニ於テ「上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコヲ得」トアルヲ以テ之ヲ知ルヘシ而シテ法律ニ違背シタル場合ノ如何ハ訴訟法第四百三十五條及第四百三十六條ニ規定セリ是レ亦裁判ノ錯誤ヲ矯正シ職權ノ濫用ヲ防止スル爲メ裁判所ヲ數個ニ別チタル第二ノ理由ナリトス

通常裁判所ニ於テ民事刑事

第二條　通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此限ニ在ラス

通常裁判所ニ於テ民事刑事ヲ併セテ審理スルノ正當ナル理由ハ前キニ述タル所ノ如シ我國維新ノ初メニ當リテハ斷獄ハ刑部ニテ統ヘ聽訟ハ民部ニテ處理

ヲ裁判ス

スルノ制アリシモ其後司法省ヲ設置シ司法事務ヲ統理スルコトヽナリ裁判所ヲ設ケラルヽニ及ンテ民事モ刑事モ同一ノ裁判所ニテ審理スルコトヽナレリ爾後之ヲ變改シタルコト無シ然ラハ則チ本條ニ於テ民事刑事ヲ裁判スルモノトナセシハ現今ノ制度ヲ襲用セルモノト謂フヘキナリ

然レトモ陸海軍裁判所又ハ行政裁判所ノ如キ特別ナル裁判所ニ屬セシメタル事件ハ通常裁判所ノ管轄スヘキモノニアラス今若シ陸海軍ノ法律ヲ犯シタル事件ヲ通常裁判所ニテ管轄スルコトヽセンカ其犯罪者タル軍人軍屬ハ所屬長官ノ處分ヲ受クルニ非サルカ故ニ其裁判ニ心服スルノ情薄キノミナラス亦陸海軍ノ威嚴ヲ犯罪人ニ示ス能ハス加之本來軍事犯ノ裁判權ハ國家ノ司法權ニ屬スト云ハンヨリ寧ロ國家ノ兵權ト云フ一種特色ノ權力ニ屬スルモノト云フ可キモノナレハ其權利ノ性質ヲ誤マルニ至ル又行政事件ヲ通常裁判所ニテ裁判スルコトヽセンカ行政司法ノ二權ハ相互ニ分立並行スヘキモノナルニ其分立並行ノ原則ヲ打破シ隨テ司法權ヲシテ行政權ヲ侵害セシムルニ至ルノ恐レナシトセス故ニ此ノ如ク特別ノ事件ハ特別ナル裁判所ノ管轄トスルハ甚タ穩

合議裁判所

當ナリ然レトモ普通一般ニ係ル事件ハ民事ニマレ刑事ニマレ總テ通常裁判所ノ管轄ナリトス是本條ノ規定アル所以ナリ

第三條　地方裁判所、控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

合議裁判ノ如何ナルモノタルコトハ已ニ總論ニ於テ述ヘタル所ナリ本條ニ所謂合議裁判所トハ合議制ニ從テ裁判スル裁判所ヲ云フ而シテ其裁判所ハ地方裁判所、控訴院及ヒ大審院ノ三個ナリトス我構成法ニ於テハ原則トシテハ總テ合議制ヲ採用セルカ如シト雖モ其制ハ地方裁判所以上ニ限リ區裁判所ニハ單獨裁判官ニテ裁判スルコトヽ定メタリ其故何ソヤ是畢竟區裁判所ノ權限狹少ニシテ且其管轄スル事件ノ輕微ナルニ因ルノミナラス區裁判所ハ如何ナル場合ト雖トモ覆審ヲ爲スコトナク必ス第一審ニ止マレリ之ニ反シテ地方裁判所以上ニ在テハ事實ノ覆審ヲナシ且ツ重大ナル事件ヲ審理スルコトアルノミナラス控訴院大審院ノ如キニ至テハ下級裁判所ノ終局判決ニ對スル上告ヲモ審

判スルコトアルヲ以テナリ爾レハ裁判官ノ員數モ其階級ノ優等ナルニ從フテ愈ヨ增加セリ(第三十二條第四十一條第五十三條又或ル場合ニハ民事部刑事部ノ總會議ヲ開ク等ノコトアリ要スルニ地方裁判所以上ノ裁判所ニ於テハ其審判スル事件重要ニシテ事實ノ覆審又ハ終局ノ裁判ヲナスニハ其手續ヲ鄭重ニセサルヘカラサルヲ以テ合議制ヲ採用セシモ區裁判所ハ事件輕微ニシテ且一審ニ止マレハナリ

總テ合議裁判所ニ於テハ一個若クハ二個以上ノ民事部及ヒ刑事部ノ設ケアリテ刑事民事共ニ數名ノ判事カ裁判ストアリ然レトモ地方裁判所以上ノ裁判所ハ如何ナル場合ニ於テモ必ス數名ノ判事カ列席裁判スルニアラス或ル場合ニ於テハ一人ノ判事カ處分スルコトアリ民事訴訟法第二百七十三條ニ從ヒ受訴裁判所ニ於テ證據調ヲナスヘキトキハ裁判所ノ部員一名ニ之ヲ命スルコトアリ又刑事ノ豫審處分ヲナスニハ豫審判事一名ニテ擔當スルカ如キ其他一人ノ判事カ處分スルコト往々之アリ是本條但書ノ規定アル所ナリ

第四條　裁判所ノ設立廢止及管轄區域幷ニ其變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

裁判所ノ設立廢止及管轄區域並ニ其變更

凡ソ裁判所ヲ設立シ又ハ廢止シ若クハ管轄區域ヲ定メ及ヒ之ヲ變更スル等ノコトハ時世ノ變遷及ヒ事件ノ多少ニ從フテ之ヲ爲スハ實ニ止ムヲ得サルコトナルカ故ニ行政官ニ一任シテ可ナルカ如シト雖トモ又熟ラ一方ヨリ觀察スレハ此等ハ人民ノ便不便ニ關スルコト少ナカラサレハ決シテ輕微ノ事ト謂フヘカラス殊ニ此等ニ變更アレハ民事訴訟法ノ所謂裁判籍ニ影響ヲ及ホシ爲メニ人民ノ利害得失ニ關スル事少ナシトセス是ヲ以テ此等ノ事ヲ定ムルハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル所ノ法律ヲ以テスルコトト爲シタルナリ

然レトモ若シ行政上ノ便宜ニ依リ從來甲ノ區裁判所ノ管轄タリシ郡内ノ或町村ノ全部又ハ一部カ乙ノ區裁判所ノ管轄タル郡内ニ編入セラルヽカ若クハ從來甲ノ區裁判所ノ管轄タリシ郡内ノ或町村ノ全部又ハ一部カ乙ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スル町村ニ合併シタル場合ニ於テハ如何ン既ニ一度モ法律ヲ以テ定メタル管轄區域ナルカ故ニ之ヲ變更スルニモ亦法律ヲ以テセサルヘカラサルカト云フニ裁判所構成法施行條例第三條ノ規定スル所ニ依レハ此等ノ爲メニ特ニ法律ヲ發スルニ及ハサルモノトセリ然リ而シテ區裁判所ノ管轄區域ヲナ

ス町村ノ變更ハ區裁判所ノ管轄ニ影響ヲ及ホストアルヲ以テ前段ノ場合ニ於ケル乙區裁判所ノ郡内ニ編入セラレタル町村ノ全部若クハ其一部ハ甲區裁判所ノ管轄ヲ脫シテ乙區裁判所ノ管轄ニ入ルモノトナルナリ裁判所搆成法施行條例ニ依レハ區裁判所ノ管轄區域ヲ掲ケテ地方裁判所及控訴院ノ管轄區域ヲ示サスト雖トモ地方裁判所ノ管轄ハ區裁判所ノ管轄區域ヲ以テ其區域トナシ控訴院ノ管轄モ其地方裁判所ノ管轄區域ヲ以テ其區域トナセルカ故ニ區裁判所ノ管轄ヲ示ストキハ自ラ地方裁判所及控訴院ノ管轄ハ分明ナリトス

判事ノ員數

（第六回）

第五條　各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク單獨裁判所ト合議裁判所トヲ問ハス裁判官ノ員數ハ固ヨリ多少ノ差別アルヘク又事務ノ繁簡ニ隨テ增減セサルヘカラサルヤ當然ナリ故ニ各裁判所ニ要スル裁判官ノ員數ハ時ニ隨テ變更ヲ來スモノナレハ法律ヲ以テ豫メ規定スルヲ得ス蓋シ此等ハ司法大臣ニ委任シ其宜シキニ應シテ定メシムルヲ以テ可トス

故ニ本條ニ於テハ單ニ「各裁判所ニ相應ナル員數」ト規定シ一々其員數ヲ定メサルハ固ヨリ其宜シキヲ得タルモノナリ

第六條第一項　各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルヽヤヲ監視シ又民事ニ於テモ必用ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若クハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付キ公益ノ代表者トシテ法律上其職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ

檢事局

本項ニ「各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス」トアルヲ以テ下「區裁判所ヨリ上、大審院ニ至ルマテ悉ク檢事局ノ設ケアルヲ見ルヘシ而シテ檢事ノ職務ノ綱領ハ乃チ本項ノ規定スル所ナリ

抑モ檢察權ハ裁判權ト仝シク君主權ニ淵源シ則チ君主カ一國ヲ統治シ給フニ必然欠クヘカラサルノ權利ナリ而シテ君主ハ法律ヲ以テ之ヲ檢事ニ委任シ給ヒ檢事ハ之カ委任ヲ受ケ連貫遞屬以テ其權利ヲ全國ニ施行シ司法大臣ハ之ヲ統督スルモノトス故ニ檢事ハ君主ノ耳目ニシテ政府ノ機關ナリトス

檢事ノ職務

然リ而シテ檢事ノ行フ職務ハ刑事及民事并ニ司法行政事件ニ關スル監督事務ノ三個トス以下逐次之ヲ詳述セン

刑事ニ付檢事ノ職務

先ヅ刑事ニ付テハ本項ニ示ス如ク(第一)公訴ヲ起スコト(第二)公訴ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲スコト(第三)法律ノ正當ナル適用ヲ請求スルコト(第四)判決ノ適當ニ執行セラルヽヤヲ監視スルコト等即チ是ナリ

第一、公訴ヲ起スコト　則チ若シ犯罪アリテ起訴スベキモノト思料スルトキハ刑法上ノ處分ヲ受ケシムル爲メ裁判所ニ向テ公訴ヲ提起スルヲ云フ

第二、公訴ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲スコト　則チ犯罪ヲ搜査シ及ヒ其證憑ヲ蒐集シテ彼ノ治罪法第百七條乃至第百九條第百十七條第二百三條第二百六條其他此等ノ法條ニ規定シタル如キ手續ヲ行ヒ豫審終結其他ノ場合ニ於テ意見ヲ述ブル等ノコトヲ云フ

第三、法律ノ正當ナル適用ヲ請求スルコト　則チ犯罪人ニ對シテ法律ニ依リ相當ナリト思料スル刑ノ適用ヲ請求シ又或ル場合ニハ法律ニ從テ免訴若クハ無罪ノ言渡ヲ請求スルヲ云フ



民事ニ付檢事ノ職務

第四、判決ノ適當ニ執行セラルヽヤヲ監視スルコト　則チ裁判官カ法律ニ基キ刑罰ヲ言渡スモ其判決ニシテ適當ナル執行ナカリセハ刑罰ノ目的ヲ達スル能ハサルカ故ニ檢事ハ其判決ノ適當ニ執行セラルヽヤヲ監視セサルヘカラス例ヘハ刑法附則第一條ニ依リ死刑ノ執行ヲ監視スルカ如キ又監獄則ニ依レハ檢事ハ隨時監獄ヲ巡視スルノ規定アリ是亦受刑者カ服役ノ摸樣及ヒ遷善改過ノ途ニ就クヤ否ヤヲ視察スルニアリ要スルニ此等ハ何レモ判決ノ適當ニ施行セラルヽヤヲ監視スルニアリ

次ニ民事ニ付テノ職務ハ或ル場合ニ於テ訴訟ニ干與シテ意見ヲ陳述スルニアリ所謂干與トハ訴訟ノ本人トナルニアラスメ唯連班人トナルノミ己ニ訴訟ノ連班人ニ過キサルヲ以テ假令自己ノ意見ニ反スル裁判アリタルモ之カ爲メ上訴ヲ爲スヲ得ルニ非ス只獨立ノ地位ニ在テ不偏不黨ノ意見ヲ述ヘ當事者辨論ノ不足ヲ補ヒ裁判官ノ注意ヲ惹起シ以テ其判決ノ資料ヲ作ラシムルニアリ檢事ノ干與ニ義務上ノモノト權利上ノモノトノ區別アリ換言セハ命令上ノ干與ト隨意上ノ干與トアリ義務上ノ干與トハ或ル事件起レハ必ス之ニ干與シテ

意見ヲ陳述セサルヘカラサルモノヲ云ヒ權利上ノ干與トハ其事件ニ干與スルト否ラサルトハ檢事ノ隨意ニアルモノヲ云フ

本條ニ規定セルモノハ即チ權利上ノ干與ナリ而シテ如何ナル場合ニ於テ檢事ハ權利上民事ニ干與スルカ法律ニ明文ナシト雖トモ概チ重要ナル事件ナリトス尤モ法律ニ制限ナキカ故ニ如何ナル事件ト雖トモ檢事ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ其通知ヲ求メテ之ニ干與スルコトヲ得ヘシ

又義務上ノ干與ハ民事訴訟法第四十二條ニ其場合ヲ列記セリ則チ左ノ如シ

第一　公ノ法人ニ關スル訴訟

第二　婚姻ニ關スル訴訟

第三　夫婦間ノ財産ニ關スル訴訟

第四　親子若クハ養親子ノ分限其他總テ人ノ分限ニ關スル訴訟

第五　無能力者ニ關スル訴訟

第六　養料ニ關スル訴訟

第七　失踪者及ヒ相續人廚缺ノ遺産ニ關スル訴訟

第八　證書ノ僞造若クハ變造ノ訴訟

第九　再審

何故ニ右等ノ訴訟ニハ法律上檢事ノ干與スヘキモノト規定シタルカ其理由ノ詳細ナルコトハ訴訟法講義ニ屬スルヲ以テ茲ニハ唯要領ヲ述フルニ止メン」

右ニ列記シタル訴訟中ニハ或ハ純乎タル私益ニ關スルニ止マルモノアルカ如シト雖トモ而モ皆間接若クハ直接ニ公益ニ關係セサルコトナシ彼ノ結婚、離婚、親子ノ分限其他人ノ分限ニ干スル等人事上ノ訴訟ハ公共ノ秩序ニ干スルモノナリ今夫レ之ヲ當事者ノミニ放任シ傍ラ其直者ヲ保護スルナクンハ終ニ弱者ハ權利ヲ枉屈セラレ强者ハ奸黠ナル手段ヲ以テ勝訴ヲ制スルノ恐レナシトセス又無能力者若クハ失踪者ノ如キ宜シク國家ノ保護スヘキモノナレハ檢事ハ國家ノ代表者タル資格ヲ以テ之ニ干與スルハ當然ナリ況ンヤ證書ノ僞造變造ノ如キ事、刑事ニ涉ルモノヲヤ之ニ立會スルハ蓋シ欠クヘカラサルコトヽス其他夫婦間ノ財産ニ干スル訴訟又ハ養料ニ干スル訴訟若クハ再審ノ如キ何レモ公共ノ秩序ニ干スルモノナレハ公益保護者ノ資格アル檢事ノ之ニ干與スルハ

裁判所ニ属シ若クハ之ニ關スル司法及行政事件ニ付檢事ノ職務

固ヨリ然ルヘキコトヽ謂フヘシ公益增進者ト資格ヲ有スル者ハ

尙ホ檢事ハ司法及行政事件ニ付其職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ抑モ裁判官ハ不羈獨立ノ地位ヲ有スルモノナレハ可成的行政事務ニ關與セシメサルヲ可トス若シ行政事務ニ任ストセハ勢ヒ政府ノ指揮監督ヲ受ケサルヘカラサルヲ以テ自ラ其地位ヲ薄弱ナラシムルノ恐レアリ故ニ法律ハ檢事局ヲ以テ司法及行政事務ヲ監督スル官衙トシ而シテ政府ノ命令ノ及フ所トナセリ爾レハ檢事ノ監督ノ及フ所ノ範圍ハ甚タ濶ク苟モ社會ノ秩序公安ヲ維持スル所ノモノハ一ニ檢事ノ職權ノ及フ所ナルカ如シ然レトモ若シ叨リニ檢事カ司法及行政ノ一般事件ニ關涉スルコトアランカ爲メニ司法及行政事務ヲ阻害スルニ至ラン此故ニ檢事ノ職務ノ範圍ヲ定メ裁判所ニ於テ執行スル法律ニ關スル事項ニ限レリ是法文ニ於テ「裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ」トセル所以ナリ法文ニ「法律上其職權ニ屬スル」トアルハ則チ裁判所構成法第三十三條第四十二條第五十六條第百三十五條第六項乃至第八項及ヒ第百三十六條乃至第百三十八條等ニ規定セル檢事局ノ事務及司法警察官、林務官、市町村長ヲ監督スル事ノ如キ又代言人規則ニ從テ代言人ヲ監督スル事若クハ犯罪人引渡條約ノ如キ其他現今ノ法律ニ於テモ檢事ノ職務敢テ少シトセス





又明治十九年ノ勅令第四十號裁判所官制第二十七條ヲ見ルニ曰ク「裁判所ニ檢事局ヲ置ク、檢事ヲシテ治罪法及訴訟法ニ定ムル職務ノ外司法ニ干スル事項及司法ノ行政ニ干スル事項ニ付キ監督ノ職務ヲ行ハシム其庶務ノ規定ハ別ニ定ムル所ニ依ルト但此官制ニ依レハ檢事ノ職務ヲ行フ事項ハ茫乎トシテ詳カナラス而モ法律ニ於テ、檢事、ハ、公益、ノ、代表者、ナリ、ト規定セルヲ以テ苟モ裁判所ニ屬シ若クハ裁判所ニ干スルモノナルトキハ假令ヒ法律ニ於テ特ニ命令セサルモ又假令ヒ直接ノ監督ヲナサヽル事項ナルモ常ニ側面上ヨリ間接ノ監督ヲナシ以テ政府ノ耳目タル職務ヲ盡スヿヲ怠ルヘカラス裁判所構成法ノ規定モ亦此主旨ニ出テタルニ過キサルモノトス蓋シ裁判官ハ法律ノ理非得失ヲ斟酌スルニ及ハス苟モ法律タル以上ハ之ニ從ヒ裁判スルニ止マリ其結果如何ハ敢テ顧ミル所ニアラス之ニ反シテ檢事ハ常ニ法律ノ利害ヲ考覈シ世態民情ニ適ス

ルヤ否ヲ觀察シ若シ其法律ノ不可ナル所アレハ司法大臣ニ具狀シテ其參考ニ供ヘサルヘカラス是檢事ノ職務上ノ本分ナレハ檢事ハ法律ノ施行ヲ監督スルノ責任アリト云フテ可ナルヘシ

又裁判官ハ常ニ獨立シテ一意專心法律ニ則トリ良心ニ照シ自ラ至當ナリト信スル所ニ從ヒ裁判スヘキモノナレハ何人ト雖トモ之ニ容喙スルコト能ハスト雖トモ而モ裁判官ニ專横放斷ノ處置ヲ許スヘキニアラサルヲ以テ裁判所構成法第百三十五條ニ於テ司法大臣ヲ始トシ大審院長以下ノ者ニ裁判官ヲ監督スルコトヽナセリ若シ夫レ然ラスンハ公益ノ爲メニ設ケタル獨立ノ地位ハ却テ公益ヲ害シ公安ヲ保維スル權ハ却テ公安ヲ害スルニ至ラン既ニ裁判官ヲ監督スル規則アリ然ラハ則チ司法大臣ノ耳目タリ政府ノ機關タル檢事モ亦常ニ裁判所ノ處分ヲ間接ニ視察スルノ重任アリト云フテ可ナリ此事タル公益ノ保護者タル職務ノ結果ニシテ治罪法第三十四條第二項ニモ裁判所ニ於テ公益ヲ保護スト明定セリ然ルニ或ル派ノ法學者ハ公益ヲ保護ストノコトニ付キ嘖々非難ヲ試ミ法律ニ於テ如何ナル公益ナルヤ邈トシテ明カナラスト云ヘリ是畢竟

檢事ノ裁判所ニ對スル地位

現行ノ規則ニハ一々其權限ヲ規定セサルニ因ルト雖トモ後日此等ノ職務ヲ定ムルノ考案ニ出テシモノニテ已ニ本條ニ於テ之ヲ見ルニ至リタルモノナレハ決シテ茫邈タルコトナク又他日民法人事編其他ノ法律ノ頒布アルニ至ラハ檢事ノ職務ノ重要ナルヲ覺知スルコトアラン

第二項　檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其事務ヲ行フ

檢事ハ裁判所ニ對シ獨立ノ地位ヲ保チ決シテ裁判所ニ從屬スルモノニ非ス故ニ檢事カ其職務ヲ行フニハ毫モ裁判所ノ指揮監督ヲ受クルコトナシ若シ檢事ニシテ獨立スルコト能ハサランカ裁判所ノ勢力ニ壓制セラレ公益ノタメニ定メタル前項ノ職務ヲ盡スコト能ハサルニ至ラン是本項ノ規定アル所以ナリ裁判官モ固ヨリ獨立ニシテ檢事ノ爲メニ拘制セラルヽコトナク互ニ相獨立シテ其職務ヲ全フスルモノナリ尤モ裁判官ノ獨立ハ絶對的ナリト雖トモ之ニ反シテ檢事ノ獨立ハ關係的ナリ則チ裁判官ハ曾ニ檢事ニ對シテ獨立スルノミナラス政府ニ對スルモ尙ホ亦然リ然レトモ檢事ハ裁判官ニ對シテ獨立スルモ政府ニ對シテハ其命令ニ從ハサルヘカラス

**第三項**　檢事局ノ管轄區域ハ其附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ

檢事局ノ管轄區域

檢事局ハ各裁判所ニ附置セラレタルモノナレハ其管轄區域モ其附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ト全一ナラシムルハ固ヨリ至當ナリ故ニ例ヘハ地方裁判所ニ附置セラレタル檢事局ノ管轄ハ其地方裁判所ノ管轄區域ト同一ナリト知ルヘシ是レ便宜上ヨリ出テタルモノニシテ又之ヲ別異ニスルノ必要ナシ

**第四項**　若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其事件ノ猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

檢事ノ代理者

本項ハ檢事ニ差支アルトキ其代理トナリテ事件ヲ取扱フ者ヲ定メタリ元來檢事ハ判事ニ比スレハ人員少ク或ル裁判所ノ如キハ一人ニ過キサルコトアリ若シ其檢事ニ回避又ハ病氣等ノ事故アランカ忽チ差支ヲ生スヘシ故ニ之カ代理者無カル可カラス然レトモ判事カ檢事ノ代理ヲ爲スハ素ト變則ナルヲ以テ叨リニ代理セシムヘカラス即チ其事故ノ止ムヲ待チ可成的正則ニ從ハサルヘカラス然ラスンハ判事ハ檢事ノ職權ヲ侵スモノト謂フヘシ而モ其事件ニシテ猶豫スヘカラサルトキニ限リ判事ニ代理ヲ命スルモノトス若シ此便宜法ナカランカ事務ノ澁滯被告人ノ迷惑ヲ來スコト尠カラサルヘシ

**本項ニハ裁判所長トアルヲ以テ此規定ハ大審院長、控訴院長ヲ包含セサルモノヽ如シ是只僻陬ノ地方裁判所若クハ區裁判所等ノミ差支ノ生スルアランコトヲ豫期シ茲ニ斯ク裁判所長ト規定シタルモノト思考ス**

〔第七回〕

**第七條**　檢事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

檢事ノ員數

本條ハ第五條ニ說明スル所ト全一ナルヲ以テ復タ講述スルノ要ナシ

**第八條第一項**　各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ往復會計記錄其他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

書記課其事務

本項ハ裁判所ニ書記課ヲ置クコトヲ規定セリ而シテ其取扱フ事務ハ左ノ如シ

第一　文書ノ往復

第二　會計ノ事務

第三　訴訟記錄ノ調製保存

第四　此ノ法律ノ特定事務(本法第九十一條第百三十三條ニ定メタル事務ノ如キ是ナリ)

第五　他ノ法律ノ特定事務(治罪法若クハ民事訴訟法等ニ定メタル事務其他特ニ法律ヲ以テ定メタル事務ノ如キ是ナリ)

右書記課ハ合議裁判所ニモ單獨裁判所ニモ之ヲ置クモノトス

第二項　裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲メ必要ナリト認メタルトキニ限リ別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得但合議裁判所ノ檢事局ニ限ル

**檢事局ノ書記課**

本項ニ依レハ檢事局ニハ書記課ヲ設ケサルヲ以テ原則トス然レトモ前項ニ規定スルカ如キ事務繁多ニシテ必要ナル場合ニ限リ之ヲ設クルコトヲ得ヘシ而モ檢事局ニ書記課ヲ置クハ唯合議裁判所ノ檢事局ニ限リ單獨裁判所ニハ決シテ之ヲ置クコトナシ則チ地方裁判所以上ノ檢事局ニハ之ヲ置クコトヲ得ヘシト雖トモ區裁判所ニハ之ヲ置カス是單獨裁判所ノ檢事局ノ事務ハ僅少且輕微ナルニ因ル今若シ一々書記課ヲ置クコトヽセンカ勢ヒ經費ノ增加ヲ來スヘケレハナリ

第三項　司法大臣ハ裁判所ノ會計事務ヲ專任スル爲メ特別官吏ヲ裁判所ニ置クコトヲ得

**特別會計官**

本項ハ司法大臣ニ會計事務ヲ專任スル特別官吏ヲ置クコトヲ許セリ蓋シ區裁判所ノ會計事務ノ如キハ固ヨリ繁多ナラスト雖トモ控訴院若クハ或ル地方裁判所ノ會計事務ノ如キハ甚タ繁劇多忙ナルコトアルヘキヲ以テ特ニ專任ノ官吏ヲ置クノ必要アルヘシ且ヤ會計事務ノ如キハ出納ヲ明ニシ收支ヲ嚴ニセサルヘカラサルカ故ニ他ノ庶務トハ自ラ相異ナリ一種特色ヲ帶フル事務ナルヲ以テ專任ノ官吏ヲ要スルコトアルヘキナリ

第九條　區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ

**執達吏**

執達吏ハ本法ニ於テ始メテ設ケラレタルモノナリ此執達吏ハ從來ノ使丁ト異



0045

ナリ其職務及地位共ニ一層高等ナリトス是レ佛語ノ所謂「ウ井ツシェー」ナルモノニシテ執達吏ノ名稱ハ裁判ヲ執行シ且書類ヲ送達スルニ原キタルモノナラン

**其職務**

本條ハ執達吏ノ職務ノ梗概ヲ示セリ即チ左ノ如シ

第一、裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達スルコト

第二、裁判所ノ裁判ヲ執行スルコト

第三、本法ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フコト

第四、本法以外ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フコト

茲ニ注意スヘキハ執達吏ヲ置クハ區裁判所ニ限ルコト是ナリ蓋シ執達吏ハ區裁判所ノ支配スル所ニシテ民事裁判ノ執行ハ總テ區裁判所ニ委任シ執達吏ヲシテ之ヲ執行セシメ又文書ノ送達ノ如キモ當ニ區裁判所ノ文書ノミナラス各裁判所ヨリ發スル文書ヲモ總テ執達吏ノ送達スルモノトス(第九十七條及第九十八條)故ニ民事刑事ノ呼出狀其他訴訟書類ノ送達又ハ民事訴訟法第三百八十二條以下ノ規定ニ從ヒ督促手續ニ依ル支拂命令書ヲ債務者ニ交付スル如キ若クハ同法第四百九十七條以下ノ規定ニ從ヒ爲ス所ノ强制執行ノ處分ノ如キハ皆執達吏ノ職務ナリトス

又執達吏ハ刑事ニ付テモ書類ノ送達ニ任スルモノナリ然レトモ警察官ヲ以テ執行スル場合ハ此限ニアラス是本法第九十八條第二項ニ依テ明カナリ其他執達吏ノ職務ハ特別法ヲ以テ規定セラルヘシ

第十條　法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

**管轄ノ裁判**

本條ハ甚タ新奇ナル規定ナリ而モ實際本條ノ規定ヲ適用スル場合尤モ少ナカルヘシト雖トモ亦必スシモ之ナシト云フヘカラス故ニ若シ本條ノ規定ナカリセハ大ナル不都合ヲ生スルコトアルヘシ

抑モ裁判所ノ管轄ハ法律ニ於テ之ヲ規定シタルヲ以テ彼我互ニ侵害スルコトナカルヘシ且裁判所ハ自己ノ受理シタル訴訟ノ果シテ管轄スヘキモノナルヤ否ヤヲ判定スル權アリ然レトモ其受理シタル訴訟ハ實際管轄スヘキモノナルモ法律ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因テ其裁判權ヲ行フコトヲ得サル場合ノ如

キ又ハ土地ノ管轄區域ニ付キ疑シキ場合ノ如キ若クハ二箇以上ノ裁判所カ裁判權ヲ互有スルカ或ハ互有セストノ確定判決アル場合ノ如キニ於テハ之レカ管轄定メノ申請ヲナサヽルヘカラス然ラスンハ何レノ裁判所ニテ管轄スヘキモノナリヤ明瞭ナラサルヲ以テ遂ニ當事者ハ自己ノ訴權ヲ行フ能ハサルニ至ラン故ニ此等ノ場合ニ於テハ其事件ニ干係アル各裁判所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所ニ申請シ以テ何レノ裁判所カ管轄スヘキモノナルヤノ判定ヲ受ケサルヘカラス

例ヘハ甲乙二個ノ區裁判所中其何レニ裁判權ヲ有スルヤヲ判定スルハ其二個ノ區裁判所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ即チ地方裁判所ニシテ又甲乙二個ノ地方裁判所中其何レニ裁判權ノ屬スルヤヲ判定スルハ其二個ノ地方裁判所ヲ併セテ管轄スルモノハ控訴院ナリ又二個ノ控訴院中何レニ裁判權ノ屬スルヤヲ判定スルハ即チ大審院ナリトス尤モ法律上特ニ規定セル場合ハ本條ニ從ハサルモノトス

以下本條ニ列記セル場合ニ付キ逐次説明セン●

第一　權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且此法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

本項ニ且トアリ以テ二個ノ場合ヲ包含スルモノタルヲ知ルヘシ則チ

其一　其事件ヲ管轄スル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因テ裁判權ヲ行フ能ハサル場合

其二　本法第十三條第二項ニ「一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同シク毎年前以テ之ヲ定ム」トアリ然ルニ其之ニ代ルヘキ裁判所モ亦其事務ヲ取扱フ能ハサル場合

法律上ノ理由トハ裁判官ノ忌避セラレタル場合又ハ除斥セラレタル場合(民事訴訟法第三十二條)等ヲ云ヒ特別ノ事情トハ天災又ハ事變ニ因テ道路ノ閉塞シタルカ如キ場合等ヲ云フ之ヲ例ヘハ戰爭騷亂又ハ大洪水ノ汎濫等ノ如キ即チ是ナリ



0047

一ノ區裁判所ノ代理スヘキ區裁判所ハ毎年豫メ定メ置クモノナルカ故ニ敢テ差支ヲ生スルコトナキカ如シト雖トモ若シ尚ホ代理スヘキ裁判所モ其事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ如何ナル裁判所ニテ管轄スルヤハ必ス之カ規定ヲ要スヘシ是本項ノ設ケアル所以ナリ

第二　裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカタメ其權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

本項ハ別ニ說明ヲ俟スシテ明カナリ例ヘハ甲乙二個ノ裁判所ノ管轄ノ境界ニ於テ犯罪アリシ時ノ如キ又ハ係爭ノ山林ハ何レノ村内ニ屬スルヤノ疑ヒアル場合ノ如キ是ナリ

第三　法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

法律ニ從ヒ二以上ノ裁判所カ裁判權ヲ互有スル場合トハ例ヘハ犯罪事件ノ管轄ハ現行治罪法ノ規定ニ依レハ犯罪ノ地ノ裁判所ナリ然ルニ甲乙裁判所ノ管轄地ノ境界ノ中央ニ犯罪アリト假定センニ此場合ニ於テハ甲乙何レノ裁判所カ管轄スヘキヤニ付キ疑アルヘシ是則チ二以上ノ裁判所カ法律ニ從ヒ裁判權ヲ互有セル場合ナリトス

又數個ノ裁判所ノ管轄地内ニ於テ數罪ヲ犯シタルトキハ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ニテ管轄スヘシトハ現行治罪法ノ規定スル所ニシテ又被告人ヲ逮捕スルヲ得サルカ若クハ法律上逮捕スルコトヲ許サヽル場合ニ於テハ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ管轄ナリトスルハ仝シク現行治罪法ノ規定スル所ナリ然ルニ各裁判所共ニ被告人ヲ逮捕スルコト能ハサルカ若クハ何レノ裁判所モ偶然同時ニ豫審又ハ公判ニ着手シタル場合ノ如キハ則チ亦何レモ法律ニ從ヒ裁判權ヲ互有スルモノナリ

又民事訴訟法ニ依レハ不動産ニ付テハ其所在地ノ裁判所ニテ各種ノ訴訟ヲ管轄スル規定ナルヲ以テ今茲ニ廣大ナル山林ニ關シ爭論起リシニ其山林ハ甲乙裁判所ノ管轄地ニ跨ルモノナランニハ其裁判所ハ何レモ法律ニ從ヒ其事件ヲ裁判スヘキ權利ヲ有スルナリ是亦二以上ノ裁判所カ法律ニ從ヒ裁判權ヲ互有スル場合ノ一ナリトス

次ニ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所カ裁判權ヲ互有スルトキトハ民事ニ付テハ此場合甚タ稀レナルヘシト雖トモ亦全ク無キニ非ス例ヘハ甲乙兩者ノ間ニ或ル訴訟起リシニ當リ甲者之ヲ東京ノ地方裁判所ニ訴ヘシニ乙者ハ管轄違ノ申立ヲナセシカハ東京地方裁判所ニテハ乙者ノ申立ノ如ク管轄違ナリトノ言渡ヲナセリ然ルニ甲者ハ此裁判ニ服セス東京控訴院ニ控訴ヲナシ控訴院ハ東京地方裁判所ノ管轄ナリト判決シ其言渡確定セリ其后ニ至リ甲乙兩名共ニ死去シ甲ノ相續人ハ刑ノ判決アルヲ知ラス乙ノ相續人ヲ相手取リ横濱地方裁判所ニ訴ヘタリ此時又管轄違ノ爭論起リシモ横濱地方裁判所ハ相當管轄ナリトノ言渡ヲナシ此裁判モ亦確定シタリ是即チ二以上ノ確定裁判ニ因リテ二以上ノ裁判所カ裁判權ヲ互有スルノ場合ナリ刑事ニ付テハ檢事ハ各地ニ散在スルモノナルカ故ニ同一事件ニ付甲裁判所檢事ハ其裁判所ニ起訴シテ管轄ナリトノ言渡ヲ受ケタルニ乙裁判所檢事モ亦其裁判所ニ起訴シテ管轄ナリトノ言渡ヲ受クルカ如キ實際其場合數多アルヘシ

第四　二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲナシ又ハ權限ヲ有セスト



ノ確定判決ヲ受ケタルモ其裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ本項ハ前項ト全ク反對ノ場合ヲ規定セリ例ヘハ東京地方裁判所ニ於テ或ル事件ニ付管轄違ナリトノ言渡ヲナシ其言渡確定シ後其事件ヲ埼玉地方裁判所ニ訴ヘシニ亦管轄違ナリトノ裁判ヲナシ仝シク確定シタリ然レトモ其二個ノ裁判所中何レカ裁判權ヲ行フヘキモノナラン是本條ノ規定シタル場合ナリ

又例ヘハ甲者アリ乙者ヲ相手取リ下谷區裁判所ニ或ル事件ヲ訴ヘタルニ乙者ハ管轄違ノ申立ヲナシ下谷區裁判所ハ管轄ナリト言渡シ乙者ハ更ニ之ヲ東京地方裁判所ニ控訴ナシ東京地方裁判所ハ下谷區裁判所ノ管轄ニアラスト言渡シタリ而シテ甲者ハ之ヲ麹町區裁判所ニ訴ヘ乙者ハ尙ホ管轄違ノ申立ヲナシタルニ麹町區裁判所ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ其裁判亦確定シタリ此場合ハ則チ何レモ管轄違ナリトノ言渡ヲナセルモノナリ而シテ法文中「判決ヲ爲シ云々」又「判決ヲ受ケ云々」トアルハ皆之レ訴訟人カ其判決ヲ受クルモノナリト雖ヒ斯ク區別ヲ設ケタルハ必竟一ハ裁判所ヨリ觀察シ一ハ訴訟人ヨリ立言シタルモノニシテ即チ甲ハ例ヘハ東京横濱地方裁判所共ニ管轄違ヲ言渡シタル場合ノ如

キヲ想像シ乙ハ東京ニテ管轄違ヲ言渡シ確定シタルヲ以テ横濱ノ裁判所ニ出訴シタルニ對手人ヨリ管轄違ヲ申立テタルモ却下セラレタルヲ以テ東京控訴院ニ控訴シ其未控訴院ヨリ横濱ノ裁判所ハ管轄ニ非ストノ判決ヲ受ケタルカ如キ場合ヲ想像シタルモノニシテ若シ甲ノ場合ノミヲ規定スルトキ即チ「確定判決ヲ爲シタルモ云々」ト云フニ過キサルトキハ乙ノ場合ノ如キハ東京地方裁判所ト東京控訴院トニ於テ權限ヲ有セストノ判決ヲ爲シタルモノナリトシテ大審院ニ管轄定ノ申請ヲ爲スヘキヤノ疑ナキ能ハス因テ此ノ如キ場合ト雖トモ東京横濱ノ兩地方裁判所間ノ管轄爭ナルヲ以テ矢張控訴院ニ其申請ヲ爲サシムル爲メ特ニ「受ケタルモ云々」ト明記シタルナリ

以上講述シタル所ヲ以テ本法ノ第一章總則ヲ了レリ

（第八回）

## 第二章　區裁判所

本章ハ諸裁判所中最下等ノ位地ヲ占ムル區裁判所ノ組織權限ヲ定メタルモノナリ蓋シ區裁判所ハ法律上特ニ定メタル場合ニ非レハ管轄スルコトナキカ故ニ學理上之ヲ例外裁判所ト稱ス

第十一條　區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其ノ裁判事務ヲ各判事ニ分配ス

此ノ事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム

區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フコトナシ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其ノ行政事務ヲ委任ス

區裁判所ハ合議裁判ヲナスニアラス單獨乃チ一人ノ判事ニテ裁判ヲ爲スモノトス是レ區裁判所ハ其取扱フ事件輕微ニシテ且必ス第一審ノ裁判ナレハ之カ控訴ノ途アルヲ以テナリ

已ニ區裁判所ハ單獨判事ニテ裁判スト雖トモ而モ裁判官ノ員數ハ敢テ一人ニ

單獨裁判

裁判事務

ノ分配

限リタルニ非ス事件繁劇ナルニ於テハ多數ノ判事ヲ置クコトアルヘシ故ニ判事二名以上ヲ置キタルトキハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ裁判事務ヲ各判事ニ分配スルモノトス

司法大臣ノ通則ニ從ヒ其事務ノ分配ヲ定ムルハ地方裁判所長ニシテ該所長ハ毎年前以テ之ヲ定ムルモノトス故ニ地方裁判所長ハ明治廿四年ノ分配ハ廿三年十二月中ニ定メサルヘカラス

事務ノ分配ハ固ヨリ便宜ニ出テタル內部ノ規則ナルヲ以テ唯事務ノ主任ヲ定ムルニ止マリ決シテ裁判權ノ所屬ヲ分割スルモノニ非ス故ニ縱ヒ甲裁判官ノ主任事件ヲ都合上乙裁判官カ取扱フコトアルモ判決上ニ影響ヲ及ホスコトナシ是レ第四項ノ規定アル所以ナリ

監督判事

次ニ區裁判所ノ判事一人ナルトキハ其判事ハ諸般ノ事務ヲ整理シ其全體ヲ監督ストキモノナリト雖トモ若シ二人以上ノ判事アルトキハ必ス其中一名ノ判事ヲ以テ監督判事トナシ之ニ行政事務ヲ任シ監督ノ職ヲ行ハシメサルヘカラス是未項ノ規定スル所ニシテ其監督判事ハ司法大臣ノ任命スル所ナリトス

事務分配ノ變更

第十二條　事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中之ヲ變更セス但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此限ニ在ラス（第百二十六條）而シテ司法年度トハ其年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ヲ云フ

已ニ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ地方裁判所長カ事務ノ分配ヲ定メタルトキハ其年度中之ヲ變更セサルヲ以テ原則トス是レ叩リニ事務ノ分配ヲ變更スレハ其主任判事ノ異ナルカ爲メ縱ヒ簡單輕易ナル事件ナルモ審理上錯雜ヲ生シ爲メニ當事者ノ不利益ヲ來スコトナキヲ保セス且行政事務ノ如キハ主任ノ時々變更スルタメ事務ニ紛亂ヲ生スルノ恐アルヲ以テナリ

然レトモ一人ノ判事ニシテ其分擔スル事務ノ過多ナルカ又ハ轉職退職其他病氣喪祭等ノ事故ニ因リ久ク欠勤スル等ノコトアレハ其事務ノ分配ヲ變更セサレハ忽チ事務ニ支障ヲ生スヘシ若シ然ルヲ得ストセハ固ト支障ヲ生セシメサルカ爲メニ設ケタル分配ノ原則ハ却テ事務ノ澁滯ヲ來シ不便ヲ生スルニ至ラン故ニ一度定メタル事務ノ分配モ亦變更スルコトヲ得トナシタリ

代理

第十三條　區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス

一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ仝シク毎年前以テ之ヲ定ム

區裁判所ノ判事ニ差支アルトキ之ニ代ルヘキ者ノ誰タルヲ豫メ定ムルハ啻ニ煩雜ヲ避クルノミナラス裁判ノ公平ヲ保維スルノ利益アリ蓋シ裁判官ニ於テハ毫モ專横ノコトナシト雖トモ臨時ニ指名スルトキハ外見上或ハ爲メコスル所アルヤノ嫌アリ是故ニ前以テ代理スヘキ者ヲ定ムルハ甚タ必要ナリトスヽ然レトモ監督判事ノ職務ハ唯監督權ヲ行フニ過キサルモノナレハ豫シメ代理者ヲ定ムルニ及ハス若シ監督判事ニ差支ヲ生シタルトキハ判事中ニテ最モ高等ノ位地ヲ占ムル者ヲシテ其任ニ當ラシムヘキノミ是レ但書ノ規定アル所以ナリ

又一ノ區裁判所カ事故アリテ其事務ヲ取扱フコト能ハサル場合之ナシトセス此時ニ當リ臨時ニ代理ノ裁判所ヲ定ムルトキハ或ハ公平ヲ失シ或ハ專横ニ流レ易キヤノ感アリ故ニ豫シメ代理裁判所ヲ定メ置クヲ要ス例ヘハ甲區裁判ノ差支アルトキハ乙區裁判所ヲ以テ代理セシメ又乙區裁判所ノ差支アルトキハ丙區裁判所ヲ以テ代理セシムルカ如シ而シテ區裁判所ニ限リ特ニ此ノ如キ規定アルハ要スルニ區裁判所ハ人員少ナクシテ尤モ差支ノ生シ易キヲ以テナリ」

第十四條　區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス但シ反訴ニ關リテハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル

第一　百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求

第二　價額ニ拘ラス左ノ訴訟

(イ)　住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

(ロ)　不動產ノ經界ノミニ關ル訴訟

（ハ）占有ノミニ關ル訴訟

（ニ）雇主ニ雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

（ホ）左ニ掲ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

第二（一）賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

（二）旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

本條ハ區裁判所ノ民事ニ關ル裁判權ヲ規定セリ蓋シ本條ハ甚タ重要ナル項目ニシテ若シ之ヲ誤解セハ訴訟上無用ノ日子ト費用トヲ徒費スルノ結果ヲ生ス爰ニ裁判管轄ノ事ニ付キ一言スヘシ抑モ裁判管轄ニ二個ノ差別アリ第一事物ノ管轄第二土地ノ管轄(或ハ人ニ干スル管轄即チ是ナリ而シテ事物ノ管轄ハ之ヲ本法ニ規定シ土地ノ管轄ハ之ヲ民事訴訟法又ハ刑事訴訟法ニ規定セリ本法ニ規定セル事物ノ管轄ハ區裁判所ニ付テハ第十四條第十五條及第十六條ニ地方裁判所ニ付テハ第二十六條第二十七條及第二十九條ニ控訴院ニ付テハ第三

裁判管轄ノ種別

十七條ニ大審院ニ付テハ第五十條ニ各之ヲ明示セリ

斯ノ如ク事物ノ管轄ハ之ヲ裁判所構成法ニ規定シ土地ノ管轄ハ之ヲ民事訴訟法等ニ規定シタルハ何ソヤ約言セハ何故ニ土地ト事物トノ管轄ニ付キ規定ノ法律ヲ異ニシタルカ試ミニ見ヨ事物ノ管轄ハ訴訟事件ノ性質若クハ價額ニ因リ第一審トシテ或ハ區裁判所ニ屬シ或ハ地方裁判所ニ屬シ又第二審トシテ或ハ地方裁判所ニ屬シ或ハ控訴院ニ屬ス換言セハ上級審ニ屬スルカ將タ下級審ニ屬スルカ抑モ亦何種ノ裁判所ノ權限ニ屬スルカヲ定ムルモノタルヲ是ヲ以テ本條第一ニ所謂百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求又第二ノ五種ノ訴訟ハ或ハ金額或ハ價額又ハ或ル性質ニ依リ第一審トシテ區裁判所ニ屬セリ要スルニ此等裁判所ノ管轄ハ事物ノ性質ニ因テ定マルカ故ニ訴訟ノ事物ハ裁判所ノ管轄ニ關シ主タル要素ナリトス知ルヘシ事物ノ管轄ハ裁判所ノ權限ヲ規定スル所ノ構成法ニ定ムヘキモノタルヲ此ヘ同事物ノ管轄已ニ定マルニ於テハ某訴訟事件ハ區裁判所ノ管轄ナルカ將タ地方裁判所ノ管轄ナルカハ此ニ知ルコトヲ得ヘキモ而モ區裁判所若クハ地方裁判

所ハ全國中夥多アルヲ以テ某事件ハ區裁判所ニ屬シ某事件ハ地方裁判所ニ屬ストスルモ果シテ何地ノ區裁判所ナルカ又何地ノ地方裁判所ナルカハ未タ以テ知ルヘカラス是ニ至テ土地ノ管轄ヲ定ムルノ必要アリ蓋シ土地ノ管轄ハ同級ノ裁判所中ニテ其何地ノ裁判所ニ屬スルモノタルヤヲ定ムルニ在リ故ニ之ヲ定ムルニハ先ツ被告人ト裁判所トノ關係又ハ訴訟物ノ所在地等ヲ知ルヲ要ス例ヘハ被告人カ甲裁判所ノ管轄區域内ニ住所ヲ有センカ甲裁判所ハ即チ被告人ニ付テ土地ノ管轄裁判所ナリ若シ又訴訟物カ乙裁判所ノ管内ニ在ランカ乙裁判所ハ即チ其事件ニ付テ土地ノ管轄權ヲ有スルモノトス

之ヲ要スルニ土地ノ管轄ト事物ノ管轄トハ全ク相異レリ事物ノ管轄ハ裁判所ノ擕成ニ密接ノ關係アルカ故ニ之ヲ本法ニ規定メト雖トモ之ニ反シテ土地ノ管轄ハ被告人又ハ訴訟物若クハ義務ノ履行地等ニ關係アルモ裁判所ノ擕成ニハ毫モ關係アルコトナシ是レ土地ノ管轄ハ之ヲ民事訴訟法ニ規定セル所以ナリ

却說區裁判所ノ民事ニ關シ管轄スヘキ訴訟二種アリ左ノ如シ

民事訴訟ニ關シ區裁判所ノ裁判權

第一　價額ニ依テ管轄タルヘキ訴訟

第二　價額ニ依ラサル或ル訴訟

其第一ハ本條第一ニ規定セル百圓ヲ超過セサル金額ニ關スル請求又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求ニシテ第二ハ本條第二ニ列記セル五種ノ訴訟是ナリ

本條首項ノ末段ニ云ク「但反訴ニ關リテハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル」ト所謂反訴トハ如何ソ請フ左ニ少シク之ヲ辯セン

凡ソ訴訟ニ主タル訴訟ト附帶ノ訴訟トノ二種アリ本條ニ規定スル所ハ專ラ主タル訴訟ニシテ附帶ノ訴訟トハ尙ホ之ヲ細別スレハ即チ左ノ如シ

追加訴訟(或ハ單ニ追訴ト呼フ)

參加訴訟

反求訴訟

追加訴訟ハ主タル訴訟人ノ爲スモノニ係リ參加訴訟ハ第三者ノ爲スモノニシテ反求訴訟ハ被告人ヨリ爲スモノナリ而シテ本條ニ所謂反訴トハ即チ被告人

ノ爲ス反求訴訟ヲ指ス

右反訴ハ「民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル」トアルヲ以テ反訴ニ係ルモノハ金額若クハ價額ノ多寡ニ拘ハラス主タル訴訟ト共ニ審理スルモノタリ故ニ原告百圓未滿ノ貸金請求ノ訴訟ヲ提起シタルトキ其被告ハ却ッテ原告ニ對シ百圓以上ノ貸金請求ノ訴ヲ爲シタル場合ノ如キ若シ被告カ主タル訴訟トシテ提起セハ區裁判所ノ管轄スヘキモノニ非サルモ之ヲ反訴トシテ提起セハ區裁判所ハ合セテ之ヲ受理シ之ヲ裁判スルモノトス是レ民事訴訟法第四條第二項ニ本訴ト反訴トノ訴訟物ノ價額ハ之ヲ合算セス」トアルニ依テ明カナリ試ミニ原告ノ請求金額ハ八十圓ニシテ被告ノ反訴ニ係ル金額ハ百二十圓ナリトセヨ之ヲ合算スレハ二百圓トナル此場合ニ於テ若シ其百二十圓ノ金額ニ付キ主タル訴訟ヲ提起センカ區裁判所ノ管轄スヘキ所ニアラス而レトモ之ヲ以テ反訴トスルニ於テハ即チ區裁判所ノ管轄スヘキモノトス

今ヤ本條ノ法文ニ付キ逐次説明セン

第一　茲ニ元金八十圓ニシテ之ニ對スル利子二十五圓アリト假想セヨ之ヲ合算セハ乃チ百五圓トナル此請求金額ハ區裁判所ノ管轄スヘキモノナルヤ否此等ノ場合ハ縱令其請求額百圓ニ超過スルモ尚ホ區裁判所ノ管轄スヘキモノトス何トナレハ主タルモノハ元金ニシテ利子ハ唯其從タルモノニ過キサレハナリ是レ民事訴訟法第三條第二項ノ明定セル所ナリ

法文ニ所謂價額トハ如何ソ要スルニ物件ノ見積代金ヲ云フ例ヘハ米十石ノ請求ヲナストセンニ今米一石ニ付キ六圓ナリトセハ其訴訟物ノ價額ハ即チ六十圓タルカ如シ

訴訟物ノ價額ハ何レノ時ヲ以テ算定スヘキカ詳言セハ契約當時ノ相場ニ依ルカ將タ出訴當時ノ相場ニ依ルカ蓋シ此問題タル甚タ重要ナリトス如何トナレハ其論決ノ如何ッニ依リ裁判管轄權ヲ異ニスレハナリ例ヘハ前示ノ場合ニ於テ契約當時ノ相場六圓ナリトセハ其價額ハ六十圓ナルカ故ニ區裁判所ノ管轄タルヘキモ若シ其後ニ至リ米價非常ニ騰貴シ一石ニ付キ十一圓即チ十石百十圓ヲ以テ訴訟當時ノ相場トナストキハ區裁判所ノ管轄ニ非ラサルヘシ然ラハ則チ我民事訴訟法ハ如何ニ此問題ヲ決定シタルカ則チ曰ク「訴訟物ノ價額ハ起

訴ノ日時ニ於ケル價額ニ依リ之ヲ算定ス」ト(民事訴訟法第三條第一項)此規定タル實ニ其當ヲ得タリト云フヘシ何トナレハ契約當時ノ價額ニ依ルモノトセハ其以前ニ溯リテ之ヲ算定スルノ困難アルヘク或ハ其當時ノ價額ハ如何程ナリシヤ之ヲ證明スル能ハサルコトアルヘシ且ツ夫レ今日訴訟ヲ爲スモノナレハ今日實際ノ價額ニ依ルヘキハ當然ナレハナリ即チ右規定ノ理由モ亦茲ニ在ランカ

第二 元來區裁判所ハ價額百圓ニ超過スル事件ヲ管轄セサルヲ以テ原則トス然ルニ茲ニ列記セル五種ノ場合ハ價額ノ如何ニ拘ハラス管轄スルハ抑モ何ソヤ蓋シ此等ノ事件ハ何レモ至急ヲ要スルカ又ハ甚タ簡單ニシテ敢テ地方裁判所ヲ煩ハスニ足ラサルカ若クハ其事件ヲ裁判スルニハ土地ノ狀況及慣習等ヲ熟知セサルヘカラサル等ノ理由ニ依ル則チ建物ノ受取、明渡若クハ其使用、占據、修繕ニ關ル訴訟ノ如キハ急速ニ落着スルニ非サレハ爲メニ當事者ノ迷惑尠少ナラス又不動產ノ經界ヲ爭フ訴訟ノ如キハ土地ノ習慣ヲ熟知セス單ニ理論ニ據テ判斷スルヲ得ス又雇主ト雇人トノ契約ヨリ生シタル訴訟ノ如キハ其事柄簡單ニシテ錯雜ナルコト殆ント罕ナリ又旅人ト旅店若クハ飲食店又ハ水陸運送人等ノ間ニ起リタル宿料、賃料又ハ運送料、手荷物等ニ關スル訴訟ノ如キハ其事件皆ニ簡單ナルノミナラス此等ハ迅速ノ處分ヲ必要トスレハナリ

是ヨリ第二ニ列記セル場合ニ付キ說明スヘシ

(イ) 此場合ニ於テ區裁判所ノ管轄スヘキハ必ス權原ニ關シテ爭ヒナキヲ要ス之ヲ詳言スレハ賃借契約ニ付キ一方ハ家屋ノ受取方ヲ請求シ他ノ一方ハ單ニ其引渡ヲ拒ムヨリ起ル訴訟ノ如キハ即チ區裁判所ノ管轄タルヘキモ賃借契約其者ニ付キ爭ヒアル時之ヲ例ヘハ一方カ賃借契約ナルモノナシト抗辨シ以テ其家屋ノ引渡ヲ拒ムカ如キハ是契約ノ有無ニ關レル權原ノ爭ヒナリ即チ此等ハ區裁判所ノ管轄スヘキ所ニアラス

(ロ) 此場合ニ於テモ單ニ經界ノ爭ヒノミニ止マルヲ要ス換言セハ不動產其物ニ付キ爭フニアラスシテ唯不動產ノ或ル部分ヲ侵害セラレタリトノ訴訟ニ限ル若シ夫レ然ラス所有權ノ爭ニ關ルモノハ亦區裁判所ノ管轄スヘキ所ニアラス

疑者或ハ曰ハン土地ノ經界ニ異動アルトキハ其面積或ハ增加シ或ハ減少スル等必スヤ其地域ニ變更シ來サン然ラハ則チ經界ノ爭ハ則チ所有權ノ爭ヒニ外ナラサルニ非スヤト或ハ然ラン然レトモ土地經界ノ爭ヒニ或ハ所有權ヲ根據トスルニアリ或ハ又占有權ヲ根據トスルニアリ爾レハ若シ所有權ヲ根據トスルトキハ經界ノ異動アルト共ニ所有權ニモ亦異動ヲ來スヘシト雖トモ之ニ反シテ占有權ヲ根據トスルトキハ其經界ニ異動アルモ爲メニ所有權ニ異動アルコトナシ故ニ本條(ロ)ニ所謂不動產ノ經界ノミニ關ル訴訟トハ單ニ占有上經界ニ關ル訴訟ト看ルヘク決シテ所有權上ノ經界ニ關ル訴訟ヲ指スニアラサルナリ

(ハ) 以下ハ法文ノ示ス所自ラ明瞭ナルヲ以テ復タ解說スルノ要ナシ

第十五條 區裁判所ハ非訟事件ニ付法律ニ定メタル範圍及方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

非訟事件トハ名稱ノ示ス如ク訴訟ニ非サル事件即チ爭ヒナキ事件ニシテ彼ノ



訴訟事件ト相對スルモノトス已ニ訴訟事件ニ非ルニ尙ホ裁判所ノ關與スルハ抑モ如何ン其理由ニアリ

第一理由 司法權ハ人民保護ノ一義ニアリ故ニ私權ノ行使ニ付テモ亦司法ノ關與ヲ必要トス

第二理由 私權ノ行使ニ付テハ其證據明カナルヲ要シ若シ否レハ他日紛議ヲ生シタルトキハ其私權ヲ保護スルニ困難ヲ來シ或ハ遂ニ貴重ナル權利ヲ失ハシムルノ恐レナシトセス故ニ其證據ヲ確保スルニハ亦司法權ノ關與ヲ必要トス

右等ノ理由ニ依リ非訟事件モ尙ホ裁判所ノ管轄トシ裁判官ノ關與スル所ナリト雖トモ余ハ聊カ之ニ付キ意見無キニ非ス但シ其議論ハ暫ク措キ今ハ唯本條ノ各項ニ付キ說明スルニ止メントス兎ニ角區裁判所ノ裁判官ハ常ニ人民ト直接ノ關係アルカ故ニ其地方ノ慣習事情ヲ知悉スルヲ以テ此等ノ事ニ任セシムルハ穩當ナルヘシ蓋シ此等ノ事ハ民法人事編ヲ通讀セハ蓋シ明白ナラン

第一 未成年者瘋癲者白癡者失踪者其他法律若ハ判決ニ因リ治產ノ禁ヲ

受ケタル者ノ後見人若ハ管財人ヲ監督スル事

未成年者以下ノ者等ハ法律之ヲ保護スルノ要アルヲ以テ此等ノ者ニ付スルニ後見人又ハ管財人ヲ以テセリ已ニ後見人又ハ管財人ヲシテ家事ヲ擔當セシメ以テ本人ヲ保護スル方法ヲ設ケタリト雖トモ其後見人管財人ノ取扱フ所ニシテ若シ過誤失錯又ハ奸惡ノ事アランカ爲メニ本人ニ損害ヲ蒙ムラシムルニ至ラン是ヲ以テ其過誤失錯又ハ奸惡ノ處置ナカラシメンカ爲メ事ノ重要ナル者ハ之ヲ區裁判所ニ願出テ指令ヲ仰クカ又ハ認可ヲ受クルヲ要ス此等ノ事ハ民法又ハ特別法ノ規定スル所ニシテ何レモ人民保護ノ主旨ニ出シモノトス

第二　不動產及船舶ニ關ル權利關係ヲ登記スル事

不動產トハ土地建物等ヲ云ヒ船舶トハ日本形ト西洋形トヲ問ハス又帆走船タルト蒸氣船タルトヲ論セス共ニ之ヲ包含スルモノトス而シテ其不動產及船舶ハ何人ノ所有ニ屬スルカ又ハ何人ニ移轉シタルカ又ハ何人ニ抵當トナリ若クハ其物件ノ上ニ如何ナル權利ヲ有シ又如何ナル義務ヲ負フカ等ノ事ハ之ヲ公簿ニ登記シテ以テ其權利及ヒ義務ヲ明了ニ示サヽルヘカラス是登記法ノ制定





アリシ所以ニシテ其登記ノ事務ハ區裁判所ノ取扱フ所トセリ

第三　商業登記及特許局ニ登錄シタル特許意匠及商標ノ登記ヲ爲ス事

商法第十一條ニ曰ク「右ノ未成年者自己ノ爲メ商ヲ爲サント欲スルトキハ前項ノ要件ヲ明記シ且自己及ヒ父母又ハ後見人ノ署名捺印シタル陳述書ヲ管轄裁判所ニ差出シ登記ヲ受ク可シ然ルトキハ其登記ノ日ヨリ商事ニ於テ總テノ權利及ヒ義務ニ關シ成年者ト全ク同一ナルモノトス」（第二項）ト又同法第十四條ニ曰ク「夫婦ノ一方カ商ヲ爲シ夫婦間ニ財產共通ヲ爲サヽルトキ又ハ之ヲ解キタルトキハ商業登記簿ニ登記ヲ受クル爲メ其事實ヲ管轄裁判所ニ屆出ツルコトヲ要ス」（第一項）ト又同法第十八條ニ曰ク「商號、後見人、未成年者、婚姻契約、代務及ヒ會社ニ關スル商業登記簿ハ當事者ノ營業所又ハ住所ノ裁判所ニ之ヲ備ヘ登記及ヒ之ニ關スル事務ハ其裁判所之ヲ行フ」（第一項）ト尙ホ同法第二十二條ニ曰ク「登記シタル事項ハ公ニシテ且裁判所ノ認知シタルモノトス何人ト雖トモ毫モ已レノ過失ニ非サルコトヲ證シ得ルニ非サレハ之ヲ知ラサルヲ以テ已レヲ保護スルコトヲ得ス然レトモ其事項ハ他ノ方法ニ因リ之ヲ知得タル者ニ對シテ

ハ登記ノ前後ヲ問ハス其効用ヲ致サシムル云々ト此他此類ノ規定商法中ニ少シトセス而シテ此等ノ事件ニ係ル事務ハ區裁判所ノ取扱フモノトス

又區裁判所ハ特許局ニ登錄セル特許意匠及ヒ商標ノ登記事務ヲ取扱フモノトス我邦從來ノ制ハ農商務省ニ於テ特許局ニ登錄シタル特許ヲ公ニスルハ官報ニ登載スルノミニ止マリ別ニ登記ノコトナシト雖トモ而モ登記ハ全國一般ニ普及ヲ要スルモノナレハ本法ニ於テ登記ノ事ヲ區裁判所ニ管轄セシメタリ故ニ本法施行後即チ廿三年十一月以降ハ現今ノ如キ唯特許局ニ於テ之ヲ公ニスルノミニ止マラサルナリ

第十六條　區裁判所ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　違警罪

第二　本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ係ル輕罪ニシテ本刑ニ百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ

刑事ニ關シ區裁判所ノ裁判權

該リ其情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メタル地方裁判所若ハ其支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ

第一・前項ノ手續ニ因リ訴追ヲ爲シ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲ爲ス前何時ニテモ其情第二ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト認ムルトキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セストノ言渡ヲ爲ス

此場合ニ於テハ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシメ從ホムル所爲適當ノ手續ヲ爲ス

本條ハ刑事ニ係ル區裁判所ノ權限ヲ定メシモノトス從前ノ治安裁判所ハ單ニ違警罪ノミニ止マリ輕罪ニ付テハ毫モ裁判權ヲ有セス然ルニ本法ニ於テハ啻ニ違警罪ノミナラス或ハ輕罪ヲモ裁判セシムルコトヽナセリ是實ニ新設ニ係ルモノナリ

夫レ名ハ輕罪ナルモ其性質或ハ輕微ナルモノアリ而モ猶ホ上級裁判所ノ管轄トセハ徒ラニ其名ニ拘泥シ空シク手數ヲ要スルノミニテ毫モ實益アルコトナシ是故ニ本條ニ於テ輕罪中輕微ナルモノハ區裁判所ノ管轄ト爲セシハ甚タ其

宜キヲ得タルモノト謂フヘシ然レトモ區裁判所ハ主トシテ違警罪ヲ裁判スルニアリテ輕罪ヲ裁判スルハ即チ例外ナリト知ルヘシ之ニ由テ區裁判所ノ裁判權ハ第一違警罪ニシテ第二ハ本刑五十圓以下ノ附加罰金アルカ又ハ附加罰金ナキ二月以下ノ禁錮ニ係ル輕罪是ナリ

或ハ問フ者アリ曰ク明治十八年第三十一號布告違警罪即決例ニ依レハ違警罪ハ先ツ警察署ニ於テ處分スルモノトス此即決例ハ爲メニ廢止セラレタルモノナリヤト決シテ否ラス是レ裁判構成法施行條例第九條ノ明定スル處ナレハ將來猶ホ違警罪ハ警察署長又ハ警察分署長若クハ其代理タル官吏其管轄地内ニ於テ犯シタルモノヲ處分ス而シテ若シ其處分ニ服セス正式ノ裁判ヲ請求スルトキ區裁判所ハ之ヲ裁判スルモノナリ

今ヤ第二ノ項目ヲ分拆セハ左ノ三種トナルヘシ

第一　本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加スル二月以下ノ禁錮ニ該ル輕罪

第二　罰金ヲ附加セサル本刑二月以下ノ禁錮ニ該ル輕罪

第三　本刑百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

右第一ハ刑法第二百三十二條第二百四十三條第二百四十九條等ノ如キ犯罪第二ハ刑法第三百一條ノ如キ犯罪第三ハ第百三十六條末段第百三十七條末段第百五十條第百六十條等ノ如キ犯罪ニシテ此他尚ホ少カラストス

第三ノ項目ハ刑法第二編第一章則チ皇室ニ對スル罪ヲ除キ其他ノ輕罪ニシテ本刑ハ前項ノ刑期金額ヨリ一層重キモノナレトモ而モ其犯罪ノ情狀更ニ重キ刑ヲ科スヘキ必要ナシトシ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局ヨリ移付シタルモノヲ裁判スルニ在リ而シテ本項ヲ分拆セハ亦左ノ三種トナルヘシ

第一　本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加スル刑期二年以下ノ禁錮ニ該ルモノ

第二　罰金ヲ附加セサル本刑二年以下ノ禁錮ニ該ルモノ

第三　本刑三百圓以下ノ罰金ニ該ルモノ

皇室ニ對スル犯罪ハ縱令ヘ輕罪ナルモ其事重大ナルカ故ニ最下級ノ裁判所ナル區裁判所ニ於テ裁判スルハ大ニ權衡ヲ失フヲ以テ殊ニ合議裁判所ノ干與スルモノトシ以テ其手續ヲ鄭重ニセリ

右第一ハ刑法第百四十一條第百五十一條第百五十二條等ニシテ第二ハ刑法第

百四十二條第一項第百五十五條第百七十一條ノ如キ第三ハ刑法第二百五十條第三百十七條ノ如キ犯罪是ナリ

凡ソ刑期金額ヲ判定スルニハ純然タル本刑乃チ加重若クハ減輕セサルモノニ依ラサルヘカラス何トナレハ特ニ本刑トアルヲ以テ純粹ノ本刑タルヤ知リ得ヘキヲ以テナリ故ニ再犯ニ依リテ加重スレハ或ハ二月以上ノ禁錮トナリ又ハ百圓以上ノ罰金ニ該ルモ尚ホ區裁判所ノ管轄ニ屬ス若シ亦加重ノ爲メ最長期二年以上ノ禁錮若クハ最多額三百圓以上ノ罰金ニ該當スルモ犯罪ノ情狀ニ依リ尚ホ二月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處シテ充分ナリト認メタルトキハ區裁判所ニ移付シテ可ナリトス然レトモ刑法第九十九條ノ但書ニ「從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタルモノヲ以テ本刑トス」トアルカ故ニ此等ノ加重減輕ニ係ルモノハ其加減シタルモノヲ因リ管轄裁判ヲ定ムヘキナリ

本條末項ニ所謂訴追トハ公訴ノ公行ニシテ從來稱スル所ノ起訴ニ同シ蓋シ訴追ノ語ハ最モ穩當ナリトス何トナレハ起訴ノ語ハ以テ公訴又ハ上告等ヲ稱スルニ適セス而シテ此語ハ固ト後方ヨリ前方ニ向ヒ訴訟ヲ進行セシムルノ意義ナレハ訴權ヲ繼續實行スルコトヲ意味スルニハ極メテ適切ナレハナリ

區裁判所ニ於テ地方裁判所又ハ其支部ノ檢事局ヨリ移付ヲ受ケ事實審理ノ際本件以外ノ犯罪ヲ發見スルカ又ハ其事實ニ於テ更ニ情狀ノ重キヲ見出スカ若クハ被告ハ初犯ニ非スシテ再犯以上ナリシ等ニ因リ到底前示第二ノ如キ五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮ニテハ或ハ輕キニ失シ罪ト刑トノ權衡ヲ得スト認メタルトキハ檢事ノ訴追ニ拘束セラルヽコトナク其判決前何時ニテモ其被告事件ハ區裁判所ノ權限ニアラサル旨ヲ言渡スコトヲ得是本條末項ノ規定スル所ナリ

右區裁判所ニテ之ヲ裁判スル權限ヲ有セストノ言渡ヲ爲シタルトキハ檢事ハ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事ニ該事件ヲ返付シ更ニ相當ノ裁判所ニ送付セシムルモノトス

右ノ規定タル最モ斬新ニシテ獨逸法ニ範リシモノトス今理論上ヨリ觀察スレハ甚タ便宜ナルカ如シ然レトモ犯罪ノ情狀ハ人ニ依テ各其感覺ヲ異ニス例ヘ

ハ余ハ二月ノ禁錮ヲ科スルヲ以テ相當ナリト老フルモ諸君ニ於テハ四月ノ禁錮ヲ適用シテ可ナリトセラルヽカ如ク裁判官モ撿事モ亦等シク人間ナレハ各自其事ニ對シテ抱ク所ノ感情ハ決シテ同一ナルヲ得サルハ蓋シ勢ヒノ免レサル所ナルベシ試ミニ思ヘ地方裁判所撿事カ本條第二ニ掲ケタル刑期金額内ニテ處分シテ可ナリト認メ移付シタルモ區裁判所ニ於テハ撿事ノ意見ニ反シ其刑期金額内ニテハ處分スヘカラサル情狀ノ重キ事件ナリト認ムルトキハ之ヲ如何スヘキカヲ

我邦ノ如キ裁判所ノ設置普ネカラス地方裁判所ト區裁判所ト數里ノ距離アル間ヲ往復セシメンカ之カ爲メニ多クノ日子ヲ消シ多クノ費用ヲ拂ハサルヘカラス而シテ其事件ヲ問ヘハ乃チ輕罪ナリ輕罪ハ固ト地方裁判所ノ管轄タルハ正則ニシテ區裁判所ニテ之ヲ取扱フハ畢竟例外タルニ過キサルコトハ法文上明白ナリトス然ルニ本條第三ノ規定アルカ爲メ其事件輕罪ニシテ地方裁判所ノ管轄スルハ正則タルニモ拘ハラス其情狀輕キモノト認メ第二ノ刑期金額内ニテ處分センカ爲メ日子ト費用ヲ糜シ而モ例外ナル區裁判所ニ移付スルノ手續ヲ爲シ而シテ或ハ其區裁判所ニテハ之ヲ裁判スル權限ナシトテ排斥スルノ恐レアリト云フニ至テハ事穩當ヲ欠キ却テ不便ヲ感スルモノヽ如シ

然リト雖トモ是レ恐ラクハ杞憂ナランカ蓋シ地方裁判所ノ撿事ニ於テ慢リニ區裁判所ニ移付スルコトアリトセハ或ハ前述ノ如キ弊ナシトセス然レトモ何人カ認ムルモ區裁判所ノ管轄タルニ毫モ疑ナキ事件ニシテ始メテ之ヲ區裁判所ニ移付スヘク決シテ輕々移付スルカ如キコトアラサルヘシ然ラスンハ酋ニ空シク手數ト時間トヲ費シ便宜ニ出テタルノ法律却テ不便宜ヲ來スヘキヲ以テ此點ハ總ヘテ撿事ノ手心如何ニ因リ法律ノ妙效ヲ見ルヘキノミ

此構成法頒布後屋外竊盜ヲ處スルニ特別法ヲ以テスルコトトナレリ是レ其損害ノ額及ヒ犯罪ノ模樣ニ因リ或ハ地方裁判所或ハ區裁判所ノ管轉タルヘキモノナリ而シテ區裁判所ニ於テ審理辯論ノ際其賍額五圓以上ナリトノ事實判然セシトキハ其事件タル區裁判所ノ管轄スヘキモノニ非サレハ之ヲ裁判スヘキノ權限ヲ有セストノ言渡ヲセサルヲ得サルヘシ

然ルニ獨逸法ニ規定スル所ヲ見ルニ審理ノ末其賍物法律規定ノ上ニ出ツルコ

明白ナルニ至ルモ又其所犯法律規定ノ或ル範圍内ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト認ムルモ一旦受理シタル事件ハ或ル例外ヲ除クノ外ハ尚ホ區裁判所ニ於テ法律ニ從ヒ罪刑相當ノ處分ヲ爲スコトヲ許シ大ヒニ區裁判所ノ權限ヲ增廣シタリ蓋シ獨逸法ノ規定タル事件ノ交互送付ノ繁ヲ省キ公訴ノ彼此轉轉ノ弊ヲ防クノ意ニ出テシモノナリト云フ

第十七條　前數條ニ揭ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此章ニ揭ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

區裁判所ノ權限ハ第十四條乃至第十六條ニ示セルカ如シト雖トモ猶ホ此他民事刑事ノ訴訟法若クハ特別法ノ定ムル處ニ係ルモノアリ而カモ其取扱フ所ノ事件ハ本法第二章ニ定メタル權限ニ出テサルヘシ是レ本條ノ精神ナリトス

（第十回）

第十八條　各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ地ノ警察官、憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

舊治罪法ニ依レハ違警罪裁判所檢察官ノ職務ハ其裁判所々在地ノ警部之ヲ行ヒ又治安裁判所ニテ輕罪事件處分ノ爲メ特ニ檢事ヲ置クコトアルモ檢事局ヲ置クコトナシ然ルニ本法第六條ニ於テハ何レノ裁判所ニテモ檢事局ヲ置クヲ以テ原則トセリ本條第一項ハ即チ其原則ノ結果ニ外ナラス而シテ此ノ如ク區裁判所ニ檢事ヲ置クハ是レ從來ト異ナリ輕罪ノ大部分ヲ管轄スルコトトナリシヲ以テナリ是レ亦獨逸法ニ摸倣セシモノトス

然レトモ檢事ノ員數ハ妄リニ增員スヘカラサルヲ以テ各地悉ク充分ニ檢事ヲ置カス否ラスンハ費用ノ增嵩ヲ來セハナリ故ニ警察官憲兵將校下士、林務官ヲシテ檢察官ノ事務ヲ取扱ハシムルコトトセリ是レ檢察ノ任ニ當ル者少キカ爲メ事務ノ澁滯ヲ來サンコトヲ慮リ本條第二項ノ規定アル所以ナリ然ラハ則チ此等ノ官吏ハ總テ檢事ノ職ニ任スルモノナルカ否決シテ然ルニアラス若シ夫レ然リトセハ檢事ノ職務ハ此等官吏ノ爲メニ蹂躪セラルヽニ至ラン故ニ法文

ニ其他ノ云々トアリテ唯區裁判所所在地ニ勤務スル所ノ此種ノ官吏ニ限リ檢事ノ職務ヲ行フコトヲ便宜上許セシノミ

本條第三項ニハ法律上直接ニ檢事ノ代理ヲ爲スコトヲ許サスシテ間接ニ檢事ノ職務ヲ代理スルコトヲ許セリ乃チ區裁判所判事試補及ヒ郡市町村長是ナリ蓋シ此等ノ者ハ司法大臣ノ命令ニ因テ代理ヲ爲スモノトス是レ「司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所ノ判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得」ト規定セル所以ナリ而シテ其所謂適當ナル場合トハ區裁判所ノ檢事ニ差支アルトキハ判事ヲシテ代理セシムルコトハ已ニ第六條末項ニ規定セル所ナレトモ而モ判事一人ノミナルカ又ハ二人アルモ一人ノ判事ニ差支アリテ檢事ノ代理ヲナスコトヲ得サルトキハ他ニ代理者ヲ求メサルヘカラス適當ナル場合トハ即チ此等ノ場合ヲ指示スルモノトス

又判事ハ法律ノ規定ニ基キ當然檢事ノ職務ヲ執ル者ナレハ敢テ司法大臣ノ命令ヲ待ツノ必要ナシト雖トモ而モ試補ノ如キハ未タ純乎タル判事ニ非サルカ故ニ當然檢事ノ職務ヲ執ルノ資格ナク殊ニ郡市町村長ノ如キハ或ル場合ニ於テハ純然タル行政官タルニ過キサレハ固ヨリ檢事ノ職務ヲ執ル當然ノ資格ナシ故ニ此等ノ者カ檢事ノ代理ヲナスニハ特ニ司法大臣ノ命令アルヲ要スルナリ

又判事試補幷ニ郡市町村長ノ如キハ檢事ノ差支アル場合其他相當ノ場合ニ於テ之カ代理ヲ爲スモノナレハ暫ラク措テ論セス彼警察官、憲兵、將校下士又ハ林務官ノ如キハ本來檢事ノ補佐トシテ司法警察官ノ事務ニ任スルモノナリ而モ檢察官ノ事務ハ檢事固有ノ職權ニ屬スルカ故ニ警察官以下ノ者等カ檢事ノ職ヲ行フ場合ハ孰レモ其固有ノ職權上ニ關ル事件ニ限ルナリ即チ其職務上摘舉シタル犯罪事件是レナリ若シ夫レ固有ノ職務ニ干係ナキ事件ニ至テハ必ラス檢事ニ讓ラサルヘカラス又假令ヘ固有ノ職務ニ干係スル事件ト雖トモ檢事ノ自ラ進ンテ其事務ニ當ル場合ニハ猶ホ檢事ニ之ヲ讓ルヘキナリ

## 第三章　地方裁判所

第十九條　地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若クハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

已ニ述ヘタル如ク地方裁判所ハ從來ノ始審裁判所ニシテ此裁判所ハ各府縣ニ設クルカ故ニ地方裁判所ノ名稱ヲ付シタルナラン

本條第一項ニ所謂ル第一審トハ第一次ノ審別ヲ云ヒ即チ第二審ニ對スル名稱ニシテ從來稱スル所ノ始審ト同一義ナリト知ルヘシ

合議裁判所ノ如何ナルモノタルヤハ余ノ已ニ說明シタル所ニシテ本法第三條ニ之ヲ明示セリ乃チ數人ノ判事ヲ以テ組立タル部ノ設ケアル裁判所是ナリ而シテ裁判ハ總テ第一審ニ始マリ第二審ニ終ルモノニテ地方裁判所ハ主トシテ其第一審ヲ司トリ第二審ヲナスハ地方裁判所ノ性質ヨリ觀察スレハ實ニ例外ナリ故ニ本條ハ其正則ニ從ヒ第一項ニ地方裁判所ハ第一審ノ合議裁判所トスト規定セリ蓋シ第一審ヲ爲シ尙ホ第二審ヲ爲スカ又ハ第一審ニシテ終審ヲモ兼ヌルモノヲ除キ(第二十八條第五十條第二)合議裁判所ニシテ第一審ヲ爲スモノハ地方裁判所ニ限レハナリ」

各地方裁判所ニハ必ス二部ヲ分設シ第一ヲ民事部トシ專ラ民事ヲ取扱ヒ第二ヲ刑事部トナシ專ラ刑事ヲ取扱ハシム又若シ裁判事務繁多ナル地方ニ在テハ二個以上ノ民事部若クハ刑事部ヲ置クコトヽセリ

**地方裁判所長**

第二十條　各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム區裁判所ニ二名以上ノ判事アルトキハ特ニ監督判事ヲ置キ以テ裁判所全體ノ事務ヲ監督セシムルト仝シク各地方裁判所ニモ亦其長ヲ置ク而シテ各地方裁判所長ノ職務ハ一ハ其地方裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮スルト一ハ裁判所ノ行政事務ヲ監督スルトノ二アリ

固ト地方裁判所長モ亦判事ナリト雖トモ一般ノ事務ヲ指揮シ及ヒ行政事務ヲ監督スルハ敢テ判事タルノ資格ヲ以テセス乃チ裁判所長タルノ資格ヲ以テ爲スナリ故ニ若シ判事ノ資格ヲ以テセハ決シテ他ヨリ監督ヲ受ケサルモ而モ地方裁判所長タルノ資格ナルヲ以テ其行政事務ニ付テハ猶ホ上官ノ監督ヲ受ケサルヘカラス(第百三十五條第一項及ヒ第三項照)

部長

各地方裁判所ニハ民事部及ヒ刑事部ヲ置クヲ以テ隨テ亦之カ部長ヲ置カサルヘカラス而シテ部長ハ其部ノ事務ヲ監督シ及ヒ部員ノ分掌スヘキ事務ヲ定ムルモノトス蓋シ地方裁判所ハ合議裁判ナレハ其各部ハ三名ノ判事ヲ以テ組織シ其三名中一人ハ即チ部長トス是レ事務處辨ノ敏活ヲ期スルニ出テタルノ制ナリ

豫審判事

第二十一條　司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其ノ裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

豫審ハ迅速ニ證據ヲ蒐集シ奸惡ノ徒ヲシテ苟クモ其罪ヲ免カレシムルコトナク又無事ノ者ヲシテ空シク鐵窓ノ下ニ呻吟セシメサラシムルニアレハ必ス敏捷活潑ニ之ヲ處分スルノ要アリ故ニ豫審判事ハ其性質機敏ニシテ且ツ事務ニ熟練スル者タラサルヘカラス若シ夫レ然ラサランカ犯罪事件爲メニ擧ラス事務必ス澁滯シ公益ヲ害スルコト蓋シ亦少シトセス是ヲ以テ司法大臣ハ數人ノ判事中ニテ特ニ之ヲ撰ヒ以テ其任命ヲ鄭重ニセリ

己ニ豫審判事ハ司法大臣ノ任命スル所ナレトモ而モ其管轄ハ其判事ノ屬スル地方裁判所ノ裁判權ニ係ル刑事ニ限ル是レ本條中ニ其裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス」トアル所以ナリ故ニ甲裁判所ノ豫審判事ハ其甲裁判所ノ豫審事務ヲ取扱フニ止マリ決シテ乙裁判所ノ事務ニ及フコトヲ得ス

第二十二條　各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年前以テ之ヲ定ム

前二項ニ揭ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長ニナルヘキ部ヲ指定スヘシ

區裁判所ノ事務ノ分配ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ之ヲ定ム（本法第十一條）ト爲シタル如ク地方裁判所ニ於テモ亦其各部及ヒ各豫審判事ノ事務ノ分配

ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從フモノトセリ

各地方裁判所ノ各部長及ヒ部員ノ配置幷ニ所長部長部員ノ差支アルトキハ代理セシムル者ヲ毎年豫シメ定メ置クノ理由ハ前キニ述ヘタル如ク偏頗專横ナル嫌疑ヲ避ケ以テ公正ノ處置ナルコトヲ示サンカ爲メナリ

裁判官ハ固ヨリ獨立不羈ナレハ其分掌ヲ定ムルニ付キ敢テ他ノ箝制ヲ受クヘキニアラスト雖トモ公平ヲ保チ且事件ノ權衡ヲ得セシメンカ爲メニ裁判所長ヲ以テ會長トナシタル會議ニ於テ一ニ衆議ノ議定ニ依リ決スルモノトセリ

裁判所長ハ其裁判所ノ長官タルヲ以テ自己ノ入ルヘキ部ヲ擇ハシメ以テ一層裁判事務ヲ擧ケシメンカ爲メ自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スルコトヲ許セリ

第二十三條　或ル部ニ於テ着手シタル事務ニシテ司法年度ノ終若ハ休暇ノ始ニ臨ミ未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

司法年度ハ曆ニ從ヒ一月一日ニ始リ十二月三十一日ニ了ルモノナレハ其年一月一日ニ至レハ曾テ分掌ヲ定シメ新ナル部員其事務ヲ擔任スルヲ原則トス又七月十一日ヨリ九月十日迄ハ裁判所ノ休暇ニシテ新ナル事件ハ勿論既ニ着手シタル事件ト雖トモ急速ヲ要スルモノヲ除クノ外事務ヲ中止スルノ規定ナリ

（本法第百二十八條參照）

然レトモ若シ必ス此ノ如クナランカ往々不都合ノ生スルコトアラン故ニ本條ニ於テハ其原則ニ對シ一ノ變則ヲ設ケ以テ便宜ヲ謀レリ是レ一ハ事務ノ停滯ヲ防キ一ハ當事者ノ權利ヲ保護センカタメナリ今夫レ右ノ原則ニ拘束シ一月一日ニ至ラハ必ス交代シ又休暇來レハ必ス中止スルモノトセハ事務ノ澁滯ハサテ措キ其干係員ノ變更ノタメ其事件ハ更ニ最初ニ遡テ取調フルコトトナリ當事者ノ迷惑實ニ少ナカラス又休暇ニ當レハ忽チ二ケ月間ハ權利ヲ伸張スルコトヲ得サルニ至ラン是ヲ以テ其原則ニ拘ハラス同一ノ係員ヲシテ引續キ事ヲ結了セシムルコトトセリ而シテ其變則ヲ用ユルノ必要ヲ認ムルハ一ニ裁判所長ノ權内ニ任セタリ

殊ニ豫審處分ノ如キ其審理ノ顚末ハ調書ニ記載スルモノナレハ其大體ヲ記ス

ルニ止マルモノ多ク到底網羅詳悉スルコト能ハサルヲ以テ其後任者タルモノ容易ク之ヲ知得スルニ由ナク爲メニ事件滯澁シ公益ヲ害スルニ至ラン故ニ兼審判事ニ於テモ依然前任者ナシテ其事件ヲ結了セシムルコトヲ得ト爲セリ

茲ニ注意スヘキハ第一項ニ「或ル部ニ於テ着手シタル事務ニシテ司法年度ノ終リ」云々トアリ其事務ハ民刑事ヲ包含スルモノトス又其着手シタル事務トハ司法年度ノ終リ若クハ休暇ノ場合ニ干係スルモノナルコト是ナリ

或ル有名ナル學者ハ曰ク「刑事ノ事務ニシテ暑中休暇ニ際シ未タ結了ニ至ラサルモノハ暫ク停滯ニ付スルハ實ニ止ムヲ得スト雖トモ而モ裁判所長ニ於テ必要ト認メ便宜ナリト思ハヽ休暇ニ拘ハラス審理セシムヘシ豫審事件ノ結局ニ至ラサルモノモ亦仝シト蓋シ論者ノ說ハ司法年度ノ終リニ際スル場合ナレハ敢テ不可ナキモ而モ休暇ノ場合ニモ猶ホ亦此ノ如シトスルニ至テハ實ニ妄斷ノ論決ナリト云フヘシ

夫レ司法年度ノ轉移ニ際セハ事務ノ分配ハ一變スレトモ休暇ハ決シテ係員ノ變更スルニ非ス唯タ政府ノ都合ニ依リ事務ヲ停止スルノミ然ルニ論者ノ如ク刑事モ休暇ナレハ已ニ着手シタル事件ヲ中止スルハ原則ナレトモ裁判所長ノ便宜トスルヨリ繼續スルモノナリトセハ裁判所ノ休暇ノ爲メ獄窓ノ裡ニ拘禁セラルヽ囚徒ハ空シク日ヲ消シテ開廳ヲ俟タサルヘカラサル不幸ノ結果ヲ來スヘシ既ニ民事ニ於テモ休暇ハ多少當事者ノ迷惑スルモノナルニ況ンヤ裁判官カ一時便宜ノ爲メ其罪ノ未タ定カナラサル囚徒ヲ拘留スル刑事ニ於テナヤ

又第百二十九條ニ「休暇中ハ云々既ニ着手シタル民事訴訟ヲ中止ス且新ナル訴訟ニ著手セス」トアレトモ第百二十九條ニハ「休暇中ニ拘ハラス刑事訴訟云々之ヲ停止スルコトナシ」トアリテ本條ニ於ケル休暇中ノ變例ニ付テハ刑事ハ民事ト同樣ニ規定シアルニアラサルコトハ明白ナルナヤ論者ノ說ヲ妄斷ト云フ決シテ經言ニアラサルナリ

第二十四條　第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ休暇中ヲ除キ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中之ヲ變更セス

裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ルナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

事務ノ分掌判事ノ配置ハ一ニ以テ專横ノ嫌ヲ避ケ不公平ノ疑ヲ防キ一ハ以テ時ニ臨ンテ煩雜ヲ來サンコトヲ慮リ之レヲ定ムルモノナレハ一タヒ決定シタル上ハ容易ニ變更スヘキニアラス否ラサレハ其効ナキニ至ラン然レトモ事務ニ繁簡アリ人ニ事故ナキ能ハス之ヲ以テ一タヒ定メタルモノハ毫モ變更スヘカラストセハ甚タ不都合ヲ生スルコトアラン法律ハ以下三個ノ場合ヲ豫期シ變通ノ途ヲ開キタリ

第一、或ハ一部ノ事務カ他ノ部ニ比スレハ繁多ナル等ノ場合但休暇中ハ此限リニアラストス何トナレハ休假中ハ第百二十八條第百二十九條ニ因リ或ハ事務ヲ停止スルコトアレハ事務ノ繁簡ヲ問フヘキニアラサレハナリ

第二、判事退轉等ノ場合判事ノ轉任退職スルアレハ忽チ欠員ヲ生スルヲ以テ勢ヒ變更ヲ來サヽルヲ得ス

第三、判事ノ罹病其他父母ノ看病歸省等ノ事故ニ依リ久シク欠勤スル場合此トキハ永久ノ差支ニシテ一時ノ事ニアラス

右三ケノ場合ノ生シタルトキハ第二十二條第三項ニ從ヒテ更ニ會議ヲ開キ之ヲ定ムルモノトス

裁判所ニ部ヲ設ケ若クハ事務ヲ分配スルハ一ニ司法大臣ノ定メタル通則ニ從フモノナレトモ若シ現在或ル部ノ事務繁劇ニシテ自ラ澁滯ヲ來ス恐レアレハ更ニ其部ノ增設ヲ要スヘシ此場合ニ於テ其增設ヲ定ムルハ司法大臣ノ認ムル處ニ任スルモノトセリ

第十一回

第二十五條　地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス其同一裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其ノ管轄區域内ノ區裁所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

判事差支アルトキハ第二十二條第二項ニ依リ豫メ定メタル順序ニ從ヒ代理セシムヘシト雖トモ猶ホ代理トナル者ニ差支アルトキハ如何スヘキヤ固ヨリ適



0069

常ノ差支ナレハ或ハ其裁判ヲ遲延スルコトヲ得ルモ若シ急速ヲ要スル事件ナレハ其審理ヲ延滯スル能ハス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

則チ裁判所長ハ其管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ヲシテ其代理者ノ代理ヲ命スルコトヲ許セリ是レ裁判官ヲ流用スルノ方法ニシテ蓋シ裁判事務ノ一日モ遲滯ナカラシメンカ爲メノミ

豫備判事トハ第六十三條ノ規定セル所即チ第二回ノ競爭試驗ニ及第セル試補ニシテ已ニ判事ニ任用セラレタリト雖トモ未タ裁判所ニ欠位ノ生セサルタメ司法省又ハ地方裁判所若クハ區裁判ニ勤務スルモノ是ナリ

第二十六條　地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ請求

第二　第二審トシテ

(イ)　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ)　區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

本條ハ地方裁判所ノ民事訴訟ニ於ケル裁判權ヲ規定セルモノナリ蓋シ區裁判所カ民事刑事何レモ第一審ヲナスモノハ最下級ノ裁判所タルカ故ナリ然ルニ地方裁判所ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ノ第二審ヲ爲スノミナラス猶ホ區裁判所ノ權内ニ屬セサル一切ノ事件ヲ管轄スルヲ以テ其權限甚タ狹カラス則チ地方裁判所ハ第一審トシテハ區裁判所ノ管轄スル事件及ヒ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ專屬ニ係ル例外ノ場合皇族ニ對スル民事訴訟ノ二種ヲ除クノ外總テノ民事訴訟ヲ管轄スルモノトス又第二審トシテハ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴幷ニ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告ヲ管轄ス

控訴トハ更ニ事實ノ覆審ヲ請求スルモノニシテ民事訴訟法第三百九十六條以下ノ規定ニ從フテ爲スモノヲ云ヒ抗告トハ或ハ處分ノ訂正ヲ請求スルモノニテ本條ニ屬スル爭ヒニ非ス乃チ民事訴訟法第四百五十五條以下等ニ規定スル處ノモノヲ云フ

第二十七條　地方裁判所ハ刑事訴訟法ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限幷ニ大審院ノ特別權限ニ属セサル民事訴訟

第二　第二審トシテ

（イ）區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

（ロ）區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

本條ハ地方裁判所ノ刑事訴訟ニ於ケル裁判權ニ定メタルモノナリ

地方裁判所ハ區裁判所カ第一審トシテ裁判權ヲ有スル事件及ヒ特ニ大審院ノ權限ニ属スル事件則チ第五十條第二項ニ規定スルモノヲ除キ其外總テノ刑事訴訟ニ付第一審ノ裁判權ヲ有シ又第二審トシテハ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴幷ニ區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告ヲ裁判スルノ權アリ

第二十八條　地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判權ヲ有ス

破産ハ商事ニ属スルヲ以テ商事裁判所ノ管轄スヘキモノナリト雖トモ吾邦未タ商事裁判所ノ設置ナシ故ニ商事ナルニ拘ハラス破産事件ヲ地方裁判所ニテ管轄スト定メシモノナリ

然リ而シテ破産事件モ訴訟物ノ價額ノ多少ニ因テ或ハ區裁判所ノ管轄トナリ或ハ地方裁判所ノ管轄トナルヤヲ疑フモノアラン是ヲ以テ特ニ本條ニ明記シ破産事件ハ訴訟物ノ價額ノ多少ヲ問ハス則チ一般ノ裁判權ヲ地方裁判所ノ有スルモノトセリ

第二十九條　地方裁判所ハ非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決判及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

第二十六條及ヒ第二十七條ニ規定シタル抗告ハ訴訟事件ニ係ル區裁判所ノ決定及命令ニ對スルモノナリ而シテ本條ハ非訟事件即チ第十五條ニ列記シタル事件ニ係ル區裁判所ノ決定及命令ニ對スル抗告ナリ

地方裁判所ハ其抗告ヲ受理シ更ニ決定及命令ヲ與フルモノトス然レトモ此等ニ關スル精細ナル規則ハ未タ之レナキヲ以テ後日必ス發表セラルヽナラン目今ハ唯僅ニ登記法ニ定ムル所アルノミ故ニ登記ノ事務ニ付テ區裁判所判事ノ爲シタル決定及ヒ命令ニ對スル抗告ハ本條ニ相當スルモノトス

第三十條　地方裁判所ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

地方裁判所ノ權限ハ第二十六條乃至第二十九條ニ規定セリト雖トモ是唯大體ヲ示スニ過キス其精細ナル節目ハ訴訟法及特別法ノ規定スル所ナリ例ヘハ地方裁判所ニ於テ登記事件ニ係ル抗告ヲ受理シタルトキハ登記官吏ヲシテ意見書ヲ差出サシメ又ハ場合ニ依リ答辯ヲ爲サシムルコトアルヘシト雖トモ此等ノ如キハ本法ニ規定スルモノニアラス則チ特別法ノ規定スル所ノモノトス

第三十一條　司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ属スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用ヰルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ撰用スルノ權ハ司法大臣ニ属ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

區裁判所ヲ設置セル箇所ハ多ケレトモ地方裁判所ノ設置ハ概ヲ少キヲ以テ本條ハ之カ便宜ヲ謀ルニアリ夫レ區裁判所ノ權限ハ狹隘ニシテ地方裁判所ノ管轄スル事件廣キニ拘ハラス其地方裁判所ノ設置少キタメ管轄區域内ノ區裁判所ヨリ其距離十里許遠キハ二十里或ハ三十里モアリテ區裁判所ノ裁判ニ對シハ控訴ヲ爲サント欲スル場合ノ如キ又ハ區裁判所ノ管轄外ナル重輕罪ノ犯人護送ノ如キ甚タ不便ナルコトヲ免レス尤モ今日ハ陸ニ鐵路アリ海ニハ滊船アリ一瞬ニシテ到達シ得ル處ナキニ非ス而モ山間偏僻ノ地ニ至テハ未タ交通不便ニシテ或ハ徒歩ヲ以テ往復セサルヲ得サル處尚ホ多シトス然ラハ空シク時間ト費用ヲ糜ス等甚タ不便ヲ感セン如此ナレハ人民ハ枉屈セラレタル權利モ止ムヲ得ス伸張スルヲ得サルノ不幸ヲ生スルコトアラン故ニ人民保護ノ効ヲシテ空シカラサラシメンカ爲メト官ノ便益ヲ慮カリ以テ裁判所ノ支部ヲ設置

スルコトトセリ

本條ニ支部ヲ設置ストアルヲ以テ本部ト同一ノ權限ヲ有スルモノナラン是時ニ地方裁判所ヲ置クノ必要アルモ猶ホ支部ヲ設ケテ充分ナル場合アレハ誠ニ經費ヲ省略スルノ利益アリ而シテ支部ハ臨時ノ裁判所ニアラスシテ常設ノ裁判所ナリトス

支部ノ事務ヲ審理スヘキ裁判官ハ特ニ司法大臣ノ任命スヘキモノトセリ而シテ判事ハ支部ヲ設ケタル區裁判所又ハ近隣ノ區裁判所ノ判事中ヨリ司法大臣之ヲ撰用スルノ使宜法ヲ設ケタリ

又支部ニ於テ刑事ノ一部ヲモ取扱フヲ以テ豫審判事撿事ナカルヘカラス而シテ豫審判事撿事モ司法大臣カ特ニ之ヲ命スルコトトセリ

殊ニ豫審判事ハ支部ヲ設ケタル區裁判所又ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ニ之ヲ命スルノミナラス地方裁判所ノ管轄區域內ニアル總テノ區裁判所ノ判事ヨリ撰任スルコトヲ司法大臣ニ許セリ

此ノ如ク支部ヲ設ケタルトキハ其判事ニ差支アルトキ之カ代理者ナカルヘカラズ而シテ其代理ノ方法ハ特ニ規定スルノ必要ナキヲ以テ第二十五條ノ規定ヲ其儘適用スルモノトス

第三十二條　地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ス其ノ他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

地方裁判所ハ合議裁判所トシテ第一審ノ裁判ヲナス所ナルニ因リ數名ノ判事ニテ同一事件ヲ擔當ス即チ刑事ニテモ民事ニテモ凡ソ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判ス可キ事件ハ判事三名ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ニ任ス其三名ハ定員ナルヲ以テ必ス法廷ニ列席セサル可カラス故ニ若シ三名中一名ヲ欠クトキハ必ス之カ補塡ヲナスヲ要ス若シ然ラスシテ二名ニテ審問裁判ヲナシタルトキハ是レ判決裁判所ヲ構成セサルモノナルヲ以テ其裁判ハ無効トナラサルヲ得ス(刑訴第二百六十九條第一項)然レトモ又三名ノ外一人ヲ增シ四名ノ判

事ニテ裁判ヲナスコトヲ得ス蓋シ法文ヲ見ルニ「三人ノ判事ヲ以テ組立テタル云云」トアリテ三人以上トノ文字ナク其意義緊嚴ニシテ毫モ增減ヲ許サヽルノミナラス定員ヲ奇數トシタルハ決議ニ便ナラシムル立法ノ主旨ナレハナリ又其事ニ當ル判事三名ナル上ハ主トシテ審問及ヒ廷內取締ノ事ニ任スルモノ無カル可カラス故ニ三名中一人ヲ裁判長トナシ豫メ煩雜ヲ來スヲ防カサル可カラス但陪席セル他ノ判事モ裁判長ニ告ケ審問スルヲ得ルハ勿論トス

又各部ニ於テハ其判事ハ豫メ定メアリ其差支アルトキノ代理順序モ亦豫メ定ムル所ナリ(第二十二條第二項第三項)故ニ若シ三名ノ判事中差支アルトキニ豫定ノ方法ニ從ヒ之カ代理ヲナサシムルモノトス然ルニ場合ニ依リ常備判事中盡ク差支ヘアリテ通常代理ノ規程ニ依リ難キコト無シトセス此場合ニ於テハ已ムコトヲ得ス豫備判事ヲ以テ之ニ充テサル可カラス而シテ豫備判事ナルモノハ第二編第一章中ニ規定スルカ如ク二回ノ競爭試驗ヲ經由シテ及第シタル試補ニシテ判事ニ任セラレタルモ闕位ナキカ爲メ未ダ一定ノ補職無キモノヲ云フ故ニ常備判事ニ差支アルトキハ之ヲ代理スルニ足ルノ學識經驗ヲ備フルモ常備判事ニ比スレハ尙ホ未熟ナルモノナリ故ニ如何ナル事情アルモ豫備判事二名以上ノ列席ヲ許サヽルモノトス蓋シ是レ合義裁判法ノ本義ニ戻ルヲ以テナリ

右ノ如ク訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ニ付テハ判事三名ノ部ニ於テ之ニ任シ又其判事中一名ヲ裁判長トナシ又其數名ノ判事差支アルトキハ豫備判事ヲ以テ之ニ充ツルヲ定則トスルト雖トモ前顯以外ノ事件ニ付テハ此規定ニ依ラス訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フモノトス

例ヘハ或ル事件ニ付一名ノ受命判事カ專ラ之ヲ擔當スルノ類ナリ

第三十三條　各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其ノ他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ラス特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

各地方裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニハ其事務取扱ヲ分配指揮シ且之ヲ監督スルノ權アル長官無カル可カラス蓋シ檢事ハ一體分身上下遞屬シテ彼此互ヒニ依ル而シテ各檢事局ハ又一團ヲナシ各々其職務ヲ執ル既ニ一團ヲ成ス其

事務ヲ統括シテ一ニ歸シ以テ之カ整理ヲ計ルニハ其檢事中主トシテ之カ責ニ任スルモノ無カル可カラズ是レ檢事正ナルモノヲ設ケタル所以ナリ然レ𪜈諸般ノ事務固ヨリ檢事正ノ盡ク得テ指揮ス可キモノニ非ズ若シ然ラズシテ一々其敎令ヲ待ツコトトセン乎敏活駿速ヲ要スルノ事務遂ヒニ澁滯シテ舉ルコト無カラントス故ニ檢事正以下ノ檢事ハ何等ノ事件ニ拘ハラス特別ノ許可ナキモ當然檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有スルトコトセリ但檢事正以下ノ檢事ハ其上長官ニ對シテノミ責ヲ負フ可キモ外ニ向ツテハ檢事正ヲ代理スルモノナレバ其責任ハ檢事正獨リ之ニ任スルノミ

第十二回

## 第四章　控訴院

凡ソ訴訟ハ民事タルト刑事タルトヲ問ハス二回審理ヲ以テ其局ヲ告ク而シテ地方裁判所ハ時トシテハ第二審ノ裁判ヲ爲スコトアレトモ本來第一審ヲ主眼トシ且ツ會議裁判所トシテハ必ス第一審ニ限ルモノトス扣訴院ハ乃其名自ラ示スカ如ク地方裁判所ノ第一審ニ對スル扣訴ノ裁判ヲ爲シ罕ニ第一審ヲ爲スコトアレトモ合議裁判所トシテハ第二審ノ裁判ヲ爲スヲ以テ其本分トス本章ハ則チ其主トシテ第二審ノ裁判ヲ爲ス所ノ扣訴院ノ構成及ヒ權限ヲ規定スルモノナリ

蓋シ二回審理ノ制度即チ覆審制ノ目的トスル所ハ第一裁判ノ誤謬ヲ補正シ不當ヲ矯正シ第二各地方ノ事情ニ拘泥スルノ弊害ヲ防遏スルニ在リ我邦ニ於テハ古代此覆審ノ制度行ハレタリシモ中古武門政權ヲ執ルニ及ンテ之ヲ廢シ爾來久シク行ハレサリシカ明治維新王政復古ト共ニ同五年再ヒ覆審制ヲ設クルニ至リシモノナルヲ以テ現時此制ニ關シ敢テ異論ヲ唱フル者アルヲ聞カス是レ畢竟古來ノ制度ニ復シタルト國民一般ニ其必要ヲ認メタルトニ職由セスンハアラス

然リト雖トモ歐州ニ於テハ太古ヨリ覆審制ナルモノ有リシニアラス佛國ノ如キハ十三世紀ニ至リテ較ヤ之ニ類似セル所ノ制度ヲ設ケタリシモ其以前ニ在テハ毫モ徵スヘキモノアルヲ見ス而シテ佛國ニ於テ此制度ノ起リシハ是レ他



0075

ナシ往々裁判ニ誤謬アリ不當ノコトアリ甚タ不公平ニ失スルコトアリ爲メニ當事者ハ頗ル憤懣激昂シ竟ニ私ニ干戈ヲ弄シ戰乱ヲ釀スニ至リシヲ以テナリ抑モ當事者ノ扣訴ヲ爲スヤ其意既ニ受ケタル裁判ヲ以テ不正ナリ不當ナリト明言表白スルニ外ナラス是故ニ創メテ覆審制ヲ設ケタル當時ニ在リテヤ扣訴ハ裁判官ニ對スル一種ノ侮辱ナリトノ迷想ヲ抱キ隨テ裁判官モ亦乃公ノ下シタル裁判ヲ頑守スルノ傾キアリテ畢竟扣訴ハ裁判官ニ對シテ抗擊シ裁判官ハ乃チ之ヲ辨護スルカ如キ感情アリタリキ然ルニ其後人智ノ發達シ法理ノ進歩スルニ及ンテヤ扣訴ハ此ノ如キ不敬ノ性質ヲ有セス隨テ裁判官カ彼告ノ地位ニ立ツカ如キ感情ヲ脫シ現今扣訴ノ途アルハ純ラ裁判官ヲシテ努メテ善良適正ナル裁判ヲ爲サシムル唯一ノ奬勵法ト爲ルニ至レリ

實ニ扣訴ノ制度ハ善良ナル我邦異論ナキ固ヨリ其所ナルノミ然リト雖モ世ノ論者中或ハ非難ヲ試ムル者ナキニアラス否一時大ニ囂然タリシ蓋シ扣訴制ヲ設クルト否トハ專ラ裁判所構成法ノ問題ニ屬スルヲ以テ請フ學理研究ノ爲メ聊カ其利害損失ヲ論究セントス

扣訴制ヲ非難スル論者カ論據トスル所數個アリ左ニ先ツ之ヲ叙述セン

第一論據　定ニ近世ノ人ハ殆ント一致シテ扣訴制ヲ可トシ善良ナル裁判ヲ受クル一要件ナリト信スルニ至レリ然リト雖モ元ト此制ハ眞ニ必要アリテ起リタルモノナリヤ將タ徒ダ舊來ノ迷想ニシテ何等ノ理由モナク漫然之ヲ襲用セルモノニ非サヤル凡ソ社會ノ事物中實際甚タ必要ナキモ習慣ノ久シキ遂ニハ之ヲ必要ト爲スニ至ルモノ往々尠カラス扣訴制ニ於ケルモ亦或ハ之ニ類スルモノアラザルカ今ヤ昔時ニ溯リテ考察スルニ決シテ此種ノ制度アリシニアラス唯一種ノ裁判所アリテ判決チ下シ直チニ執行セラレ而シテ毫モ不都合ナカリシニ非スヤ元來扣訴制ヲ設クルハ乃チ第二審ノ裁判ヲ以テ第一審ノ裁判ヨリモ善良ナソト認ムルカ故ナラン然ルニ第二審ノ裁判ヲ以テ第一審ノ裁判ヨリモ善良ナリト認ムル所以モノハ抑モ何ソヤ是レ他ナシ第二者ノ裁判ハ其事件ニ付キ審理スル所ノ人員多ク且ツ其人ハ皆智識經驗ニ富メリトスルニ在ラン若シ果シテ然リトセハ何故ニ其善良ナリト認ムル所ノモノヲ移シテ之ヲ第一審ニ附與セサルカ即チ第一審ノ人員ヲ增加シ且ツ智識經驗ニ富メル者ヲ採

用スヘシ爾レハ其裁判ハ必スヤ善良ナラン何ソ必スシモ特ニ扣訴制ヲ設クルノ要アランヤ

第二論據　世人多ク稱ス二回審理ハ以テ裁判ヲ善良ナラシムル可シト其所謂裁判ノ善良ナリヤ否ヤハ抑モ何ニ據テ之ヲ知リ得ヘキヲ凡ソ人ノ智識能力ナルモノハ種々ノ作用ヲ爲シ各人互ニ相異ナルヲ以テ同一事實ニ付テモ其見ル所各同シカラス是故ニ孰レノ裁判カ果シテ適正ナリヤ否ヤ得テ判別スヘカラス然ラハ則チ裁判善良ナリトハ第一審及ヒ第二審共ニ容スヘキニ非ス然ルヲ彼レ第二審ノ裁判ニ限リテ善良ナリト揚言スルハ甚タ信シ難キ次第ナラスヤ既ニ第一審第二審ノ裁判孰レモ絶對的ニ善良ナリヤ否ヤヲ知ルヘカラサル以上ハ扣訴制ヲ設クルノ理由此ニ至テ滅シ了ラン

第三論據　扣訴制ヲ國家ノ利益上ヨリ考察スルニ國家ニ於テハ人民カ訴訟ニ勝ツモ敗ルモ係爭物ノ甲ニ屬スルモ將タ乙ニ屬スルモ敢テ公益ノ關スル所ニアラス故ニ扣訴制ハ啻ニ國家ニ利益ナキノミナラス等シク國家ヲ代表シテ才判ヲ爲スモノニシテ彼此優劣ノ等差アラシムルカ如キハ是レ最モ奇怪千萬ナラスヤ若シ眞ニ國家ノ利益ヲ顧慮セハ一タヒ訴訟ノ起リタル片ハ其訴訟ヲシテ一日モ早ク落着セシメ人民カ空シク訴訟ノ爲メニ費ス所ノ思慮勞働時間財産ヲ轉シテ殖産事業ニ投セシムルニ若カサルヘシ其レ此ノ如クンハ國家ノ富ヲ增スコト果シテ幾何ソヤ然ルニ扣訴ノ途ヲ開クニ於テハ訴訟ヲシテ徒ラニ永續セシメ國家ノ爲メニ甚タ大害アリト謂フヘシ縱シヤ扣訴ヲ許スト否トハ直接ニ國家ニ利害ノ及フコトナシトスルモ他ノ点ニ於テ大ニ憂慮スヘキモノアルヲ奈何セン他ナシ扣訴ヲ許ストキハ無數ノ人民常ニ相鬩キ相爭ヒ互ニ讐敵ノ思ヲ爲シ怨恨永ク結ンテ容易ニ解クヘカラサルニ至ルコト是ナリ國家豈ニ之ヲ等閑ニ附スヘケンヤ蓋シ國家ノ聽サニ務ムヘキ所ノモノハ速カニ平和ヲ回復シ安寧ヲ維持スルニ在リ扣訴制其レ廢セスシテ可ナランヤ

第四論據　扣訴制ハ由リテ以テ生スル所ノ弊害殊ニ太甚シキモノアリ何ソヤ裁判ノ効力ヲ薄弱ナラシメ隨テ裁判所其物ノ品位ヲ失墜スルコト即チ是ナリ實ニ扣訴ハ人民カ裁判ノ効力ヲ抗擊スルニ外ナラス果シテ然ラハ其裁判既ニ威信ヲ失フモノト謂フヘシ今若シ第一審ノ裁判ニシテ眞正ナラストスル以上

ハ第二審ノ裁判ハ如何シテ之ヲ眞正ナリトスルヲ得ンヤ其レ人智人力ノ微弱ナルハ何人モ皆能ク之ヲ知ル其結果トシテ如何ナル裁判カ果シテ善良ナルヤ否ヤ得テ知ルヘカラス然ルニ法律ヲ以テ二回審理ノ制度ヲ立ツルトキハ乃チ自ラ裁判ノ不確ヲ表白シ愈ヨ裁判ノ威信ヲ失ハシムルモノニ非スシテ何ッヤ是故ニ控訴制ヲ設クルトキハ法律上總テ疑惑ヲ存シ隨テ法律ノ眼ヨリ之ヲ見ルモ又人民ノ眼ヨリ之ヲ見ルモ裁判ハ殆ント偶然ノ出來事ト爲ランノミ果シテ此ノ如クンハ裁判ノ威信全ク地ニ墜チ其効力ノ强大ナランコトヲ望ムモ豈ニ得ベケンヤ若シ其レ之ニ反シテ試ミニ一種ノ裁判所ヲ置キ控訴ヲ許サストセンカ其裁判正確ヲ得一タヒ裁判ヲ經タル事件ハ法律上眞理ニシテ決シテ動スヘカラサルモノト爲リ隨テ何人モ裁判ノ效力ヲ爭ハス之ニ服從スルニ至ラン扣訴制ノ非ナル其レ斯ノ如シ

以下遂次之ヲ辨駁セン

反對論者カ第一論據トスル所ノ言中ニ曰ク「近世ノ人ハ幾ンド一致シテ扣訴制ヲ可トセリ」ト爾レハ論者モ亦既ニ扣訴制ノ必要ハ輿論ノ認ムル所タルコトヲ自認セルモノト謂フヘシ是レ實ニ輿論タリ人民ハ控訴制ヲ以テ自己ノ權利ヲ保護スル無上ノ要具ナリト信セリ既ニ控訴制ノ必要ハ輿論ノ認ムル所ニシテ又實際良制タル以上ハ何ソ故ラニ之ヲ廢スルノ理アルヘケンヤ

彼レ又曰ク「第二審ノ裁判ハ其事件ヲ審理スル所ノ人員多ク且ツ皆智識經驗ニ富メリ寧ロ之ヲ第一審ノ裁判ニ移スモ可ナラスヤ」ト是レ一應其理ナキニアラス然リト雖トモ今ヤ實際上ヨリ觀察スルニ元來第一審ノ裁判所ハ第二審ノ裁判所ヨリモ其數多キヲ要シ隨テ智識經驗ニ富メル多數ノ人員ヲ悉ク之ニ配置スルカ如キハ是レ言フヘクシテ到底行フヘカラサル所ナルヲ奈何セン且ツ其レ第一審ノ裁判官ト雖トモ皆智識經驗ニ乏シキ者ト謂フヘカラス否訴訟事件ノ多數ハ之ヲ審理スルニ足ル充分ノ智識經驗ヲ備フルモノト謂フヘシ蓋シ訴訟ハ悉ク難件ニアラス錯雜繁難ナルモノハ實ニ稀有ニシテ多クハ簡單平易ノモノトス而シテ其難件ニ至テハ或ハ第一審ヲ經タル上尙ホ第二審ヲ要スルコトアリト雖トモ多數ナル簡易事件ニ付テハ第一審ノ裁判官之ヲ審理スルニ充分ノ能力アルヘク又實際悉ク其裁判ニ對シ扣訴スルカ如キコトナク大低第一

審ノミヲ以テ止ムモノナリ果シテ此ノ如ンハ簡易ナル事件ノ爲メニ智識經驗ヲ充分ニ具備セル所ノ裁判官ヲ煩ハスコトナク又其裁判官ハ難件ノ爲メニ充分之ヲ審理考究スルノ餘暇アルニ至ラン彼レ論者ノ如キハ抑モ亦事理ノ輕重ヲ辨別セサル者ニ非スシテ何ヲヤ

又反對論者ハ第二ノ論據トシテ曰ク「覆審制ハ裁判ヲシテ善良ナラシムト謂フト雖トモ其果シテ善良ナリヤ否ヤ到底之ヲ知ルノ標準ナキヲ奈何セン」ト實ニ裁判ノ善良ナリヤ否ヤヲ知ルノ標準ナキヤ其言ノ如シ而モ之カ爲メニ人民ニ控訴ヲ禁スルノ理由ト爲スニ足ラサルナリ其故如何トナレハ何人モ比較的淺識拙劣ナル裁判官ノ審理ヨリモ比較的有識賢明ナル裁判官ノ判決ヲ受ケンコトヲ欲スルヤ是レ人情ノ常ナレハナリ(裁判ノ當否ヲ確認スヘカラサルニモセヨ)而シテ地方裁判所ノ判事ハ區裁判所ノ判事ヨリモ智識經驗ニ富ミ又控訴院ノ判事ハ地方裁判所ノ判事ヨリモ一層智識經驗ニ優ル所アリト概言スルヲ得ヘシ是レ裁判所ノ階級ニ因リ自ラ生スル所ノ結果ニアラスシテ實ニ任命補職ノ如何ニ在リテ生シ來ル所ノ結果ナリ即チ我搆成法ニ於テモ控訴院以上ノ判事ハ數年間學術又ハ實務ニ從事シタルモノヽ中ヨリ特ニ撰擢スルモノタリ(第六十九條第七十條二十三年勅令第百五十八號第七條第二項)故ニ判事ハ比較的下級裁判所判事ヨリハ優等ナラザル可カラズ若シ控訴院ノ判事中一二劣等者アルモ是レ唯撰擢ヲ誤リタルノミ之ヲ以テ其全体ヲ傷クヘカラサルナリ去レハ其所謂優等ナリトスル所ノ判事ヲシテ覆審セシムルモノ是レ豈人民ニ滿足セシムルモノニ非ザランヤ若シ又控訴院ノ判事ヲ以テ既ニ優等ナリト認ムル能ハスンハ大審院ノ判事モ亦之ヲ優等ナリト認ムル能ハサルヘシ果シテ此ノ如クンハ上告ヲモ亦之ヲ廢スヘシト謂ハサルヲ得サルニ至ラン然ルニ彼レ反對論者ト雖トモ一言モ此点ニ及フモノナシ其非難ノ理無キ以テ知ルヘキノミ豈ニ思ハサルヘケンヤ

又控訴ノ裁判ヲ以テ必ス善良ナリト認ムルニ付テハ固ヨリ確實ナル証據アルニアラス然リト雖トモ凡ソ裁判ノ眞理ニ適スルヤ否ヤハ單ニ推測ニ止マリ絶對的眞理ニ適ヘリト斷言スルコト能ハサルハ勿論ナリトス切言スレハ多少正確ニシテ恐ラクハ過誤ナカルヘシト信スルニ過キス而シテ其推測ノ標準タル



0079

ヘキモノハ充分ニ辨論シ完全ニ審理シ其抗擊辨護ノ事ニ付テハ有力ナル代言人之ニ當リ其判決ハ有織ナル裁判官之ヲ下ス是レ實ニ其裁判ハ善良ナリト見ルヘキ確實ナル証據タルニ非スヤ而シテ控訴裁判所ニ於テハ其裁判官既ニ第一審裁判官ヨリ學術經驗ニ富ミ其代言人モ亦充分ニ能力ヲ具備スルモノタルヤ明カナリ凡ソ事物ヲ精確ナリト云ヒ確實ナリト云ヒ又善良ナリト云フ如キハ即チ必ズ學問ノ果實ニ外ナラサルモノナリ而シテ本論ノ塲合ニ於テ其裁判ノ善良ナリ精確ナリ確實ナリト云フ加キノ推測モ亦專問ノ効ニ因テ生出セザルハ莫シ然ラハ則チ反對論者カ裁判ノ善良タルヲ認ムヘキ標準ナシト云フテ覆審制ヲ非ナリト論結スルハ是レ學問ナルモノヽ効力ヲ認メサル野蠻時代ニ唱フヘキ陋說ナリト謂ハサル可カラサルナリ

（第十三回）

控訴制ヲ駁擊スル論者カ第三ノ論據トスル所ニ曰ク「國家ノ利益ヨリ考察スルニ控訴制ハ曾ニ何等ノ利益ナキノミナラス却テ其利益トスル所ハ可及的訴訟ヲシテ永續セシメス即チ迅速ニ落着セシムルニ在リ」ト然リト雖トモ凡ソ正理ノ行ハルヽハ國家ノ務ムヘキ所ニシテ即チ可及丈ケ是非曲直ヲ裁決スルハ實ニ國家ノ必要的ニ属ス今ソレ茲ニ一ノ物件ニ付キ甲乙相爭フニ當テヤ須ラク其是非曲直ヲ裁決シ以テ之ヲ直者ニ附與シ直者ヲ保護スヘキハ是レ國家ノ應ニ務ムヘキ所ニ非スヤ如何トナレハ各人民ノ權利ヲ保護シ秩序ヲ維持スルハ國家ノ大權利ニシテ且ツ其大義務タルヲ以テナリ國家豈ニ無頓着タルヲ得ンヤ若シ然ラスシテ漫リニ訴訟ヲシテ迅速ニ落着セシムルヲ以テ目的トセンカ所謂旨目裁判ヲナセハ足レリ乱暴的裁判ヲナセハ可ナリ夫ノ中世行ハレタル裁判上ノ決鬪ノ如キ或ハ可ナラン手熱湯ヲ探ラシムルカ如キ是亦可ナラン兩者立ロニ決シ得ヘケレハナリ其手段方法ノ如キ亦何ソ擇ハン噫・彼レ又曰ク「人民カ訴訟ノ爲メニ費ス所ノ思慮勞働時間財産ノ如キハ實ニ無益ニ屬ス」ト試ミニ思ヘ人民カ貴重ナル生命名譽若クハ資産ヲ保護センカ爲メニ之ヲ費ス是レ果シテ無益ナルヤヲ其生命其名譽若クハ其資産ヲ保護センカ爲メニ思慮勞働時間財産ヲ費スカ如キ固ヨリ當然タリ蓋シ反對論者ハ徒タ健訟ノ弊ヲ恐ルヽニ坐スルノミ而モ之カ爲メニ良民ノ權利ヲ抂屈セシムヘカラサルナリ

反對論者カ第四ノ論據トスル所ニ曰ク「控訴制ハ裁判ノ效力ヲ薄弱ナラシメ隨テ裁判所ノ品位ヲ失墜セシムト然リト雖トモ今ヤ仔細ニ觀察スルニ事實大ニ然ラサルモノアリ若シ其レ第一審ノ判決第二審ニ於テ一々悉ク破ラルル如キコトアラハ或ハ之カ爲メニ裁判ノ效力ヲ薄弱ナラシメ裁判所ノ品位ヲ失墜スルコトアラン而モ實際上第一審ノ判決ニシテ破ラルヽコトハ比較上甚タ少數ナルノミナラス又稀ニ破ラルルコトアルモ決シテ憂フルニ足ラサルナリ否寧ロ時々破ラルルコトアルヲ以テ可ナリトス何トナレハ第一審ノ判決ニシテ往々破ラルルトキハ裁判官心中多少惶ルヽ所アルカ故ニ深思熟察審理ヲ盡シ完全周到ナル判決ヲ下スニ至ルヲ以テナリ果シテ此ノ如クンハ愈ヨ破ラルルコト尠ク倍ス原裁判ヲ認可セラルルコト多キヲ累ヲ却テ下級裁判所ノ品位ヲ高ムヘシ復言スレハ世人カ見テ以テ劣等ナリトスル所ノ裁判官ノ意見ニシテ優等裁判官ノ同意ヲ得ルコト頻繁其度ヲ增サハ乃チ劣等判事モ亦容易ニ錯誤セサルコトヲ表明シ以テ世ニ信用ヲ博スルニ至ラン

右ノ如ク論シ去リ辨シ來ラハ反討論者ノ駁論モ此ニ至テ其價値無カラントス

今ソレ二回審理ノ制度ヲ設ケサランカ若シ第一審ノ裁判ニ誤謬アリタルトキハ如何スヘキヤ之ヲ補正スルノ途ナクンハ當事者ノ迷惑モ亦實ニ太甚シト謂フヘシ蓋シ裁判官モ亦人ナリ豈ニ不當ノ裁判ナキヲ保スヘケンヤ之ヲ矯正センニハ須ラク覆審制ヲ用ユルヲ要スヘシ且ツ其レ一回ヒ審理ヲ經タルトキハ原被告モ共ニ熟達ニ事實モ亦大ニ明確ヲ得加之ナラス第二審ニ至リテ當事者ハ間々辨論ノ方針ヲ更ヘ又時ニ新タナル証據ヲ發見スルコトアリ而シテ裁判官ハ彼ヲ聞キ此ヲ見テ以テ審理考覈スルカ故ニ其裁判善良タルヘキヤ必セリ」

又地方裁判所ハ各地方ニ設置セラレ其數ヤ多ク隨テ其各地方ノ事情ニ拘泥シ爲メニ裁判區々ニ渉リ言フヘカラサルノ弊害ヲ生セン而シテ此弊害ヲ防遏センニハ亦須ラク控訴院ヲ設置シ以テ各地方裁判所ヲ統轄セシムルヲ要スヘシ

區裁判所ノ地方裁判所ニ於ケルモ亦此主旨ニ出テタルニ外ナラサルナリ

反對論者ノ一人タルフェルヲナンジャック氏曰ク「覆審制ヲ設クルトキハ第一審ノ裁判官其責任ヲ第二審ノ裁判官ニ讓ルノ弊アリ」ト之ヲ詳言スレハ凡ソ裁判官カ自已ノ判決ノミヲ以テ其事件ノ結了スルコトヲ知ラハ注意周到深慮研

究シ毫モ事實ヲ輕忽ニ附セス又決シテ他ノ事情ニ拘泥孤疑スルコトナク唯熱心ニ審理ヲ盡シ以テ善良適正ナル裁判ヲ下サン然ルニ今若シ覆審制ヲ設クルトキハ第二審ノ裁判官ト審理判決ヲ共ニスルノ心ヲ生シ自已ノ判決ニシテ若シ不當ナラハ原被告ノ中ヨリ必ス控訴スルナラント豫想シ期ス可カラサルコト期シテ事實ヲ等閑ニ附シ自ラ其責任ヲ推シテ第二審ノ裁判官ニ分擔セシムルニ至リ乃チ第一審ノ裁判官ヲシテ無形的ノ責任ヲ薄弱ナラシムルノ弊アリト謂フニ在リ

此駁論タル彼ノ合議裁判制ヲ抗擊スルニハ實ニ究竟ノ材料タルヘキヤ必セリ然リト雖トモ之ヲ以テ覆審制ヲ駁擊スルニ至リテハ失當モ亦太甚シキモノト評セサルヲ得ス如何トナレハ自已ノ下シタル判決ニ付キ已レ其責ニ任セスンハ何人カ能ク其責ニ任スヘヤ自已ノ所爲ハ責自已ニ在リトハ事理ノ自然ニシテ又誰レカ疑フモノアランヤ且ツ其レ下級裁判官常ニ上級裁判官ノ爲メニ其裁判ヲ破ラレサランコトヲ是レ努メ深査熟察以テ判決スルモノナルカ故ニ控訴制アルカ爲メニ審理ヲ輕忽ナラシムト謂フカ如キハ實ニ事理ヲ辨セサル妄論ト謂フヘキノミ

反對論者又曰ク「上級裁判所ニ於テ概子原裁判ヲ認可セラレ其破ラルルコト甚タ罕ナリトセハ或ル論者カ判事優劣ノ點ニ付キ述ヘタルカ如ク之カ爲メニ特ニ覆審制ヲ設テ以テ當事者ヲシテ徒ラニ訴訟ノ落着ヲ遲緩ナラシメ且ツ多額ノ費用ヲ負擔セシムルカ如キハ乃チ利害相償ハサル次第ニ非スヤ」ト

然リト雖トモ其所謂當事者カ抗擊スル所ノ第一審ノ判決、上級裁判ニ於テ大抵認可セラルルハ是レ則チ覆審制ノ以テ善良ナル所以ヲ證明スルモノナラスヤ實ニ是レ輓近法理發達法學研究ノ賜モノナラスヤ第一審第二審ノ裁判相符合スルハ蓋シ亦偶然ニ非サルナリ試ミニ今覆審制ヲ廢シ控訴ノ途ヲ壅塞センカ敗訴者ノ苦情ヲ唱フルコト果シテ如何ソヤ即チ一回審理ニテ、復タ回復スルノ途ナカランカ何々ノ裁判ハ不當ナリ誰某ノ下シタル判決ハ不公平ナリ抔ト其實至公至平能ク正理ニ適シ法理ニ合スル裁判ナルモ漫然之ヲ抗擊スル者到ル處ニ横行スヘク而シテ世人ハ大概法理法律ヲ知ラザルカ故ニ先ツ聞ヒテ之ヲ疑ヒ屢々聞クニ及ンテ遂ヒニ曾參ノ母タルヲ免レサルモノ殆ント稀レナリ若

シ夫レ此ノ如クンハ則チ裁判所ノ品位信用ノ失墜セサランコトヲ欲スルモ得可カラザルナリヤ必セリ然ルニ二回審理ヲ經テ若シ同一ノ判決アリシトキノ如キ其判決タル法律上ノ眞理ト爲リ敗訴者モ亦大ニ懷ムル所アリ殊ニ裁判モ猶ホ他ノ眞理發見ニ於ケルカ如ク充分ニ推覈討究ヲナシ研究ノ上ニモ研究ヲ尽クスニ非スンハ其當否得失未ダ容易ニ決ス可カラズ故ニ一回審理ノミニテハ其失敗セシ當事者ニ於テ不滿ノ念ヲ惹起スルヤ抑モ自然ノ人情ナリト謂フヘシ是ヲ以テ原裁判ノ大概認可セラルルヲ理由トシ直チニ覆審制ヲ廢止セントスルハ妄斷モ亦太甚シカラスヤ

又斯ノ如ク大抵原裁判ヲ認可セラレ其破ラルルコト倍ス尠キニ至ルハ是レ最モ希望スヘキ所ニシテ竟ニ控訴ハ唯少シク疑点ノ存スル事件ニ付テノミ爲スコト猶ホ宛モ數ヲ除シ復タ乘シテ其商ノ確實ナルヤ否ヤヲ試ムルカ如クニ爲リ了ランノミ是レ豈喜フヘキコトニ非スヤ果シテ然ラハ第一審ニ於テ敗訴シタル者カ自已ノ曲ナルコトヲ知リナカラ故ラニ控訴シ徒ラニ訴訟ヲ永續セシメ以テ萬一ノ僥倖ヲ冀フカ如キ弊風全ク其跡ヲ絶チ隨テ控訴ノ件數ヲ減シ爲メニ裁判官ノ員數ヲモ減シ得ル等眞大ナル公利公益ヲ見ルニ至ルヘキナリ

以上余ハ控訴制ノ駁論ヲ悉ク反駁シ盡クセリ爾レハ今日二回審理ノ世ニ必要ナルコト何人モ皆確認スル所ニシテ現ニ各國大概ヲ此制ヲ行ヒツヽアリ又或ル國ニ至リテハ三回審理ノ制度ヲ用ヰタレトモ是レ或ハ繁ニ過クルナキカ

以下各條項ニ就キ逐次講述セン

第三十四條　控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若クハ二以上ノ民事部及ヒ刑事部ヲ設ク

第三十五條　各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其分配ヲ定ム

控訴院ハ數個ノ地方裁判所ヲ統轄シ其地方裁判所ハ第一審ノ合議裁判所ニシテ控訴院ハ乃チ第二ノ合議裁判所ナリ

控訴院モ猶ホ地方裁判所ニ於ケルカ如ク一若クハ二以上ノ民事部及ヒ刑事部アリ明治二十三年勅令第百五十八號ノ定ムル所ニ依レハ控訴院ノ部長ヲ十五



0083

人トセリ之ニ各控訴院長（院長モ又一部ノ長ト爲ル）七人ヲ合セハ乃チ二十二人ナルカ故ニ全國ヲ通レテ二十二部アルヘキ理ナリ然ルニ現在部長ハ僅カニ十三人ノミ之ニ各院長七人ヲ合セハ其數二十是レ今日全國控訴院ノ部數ト知ルヘシ即チ東京控訴院ハ六部、大阪控訴院ハ五部、名古屋控訴院、廣島控訴院、長崎控訴院及ヒ宮城控訴院ハ右二部、函館控訴院ハ僅カニ一部ノミ

各控訴院ニ長官アリ控訴院長是ナリ控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ且ツ其行政事務ヲ監督ス是レ猶ホ地方裁判所長カ其裁判所ニ於ケルカ如シ唯廳名ト職名ノ異ナルノミ

又控訴院ノ各部ニ部長アリ部長カ其部ニ於クル是レ亦猶ホ地方裁判所ノ部長カ其部ニ於ケルカ如シ即チ部ノ事務ヲ監督シ且ツ其分配ヲ定ムルコト是ナリ」之ヲ要スルニ控訴院ハ院長部長及ヒ普通ノ判事ヲ以テ搆成ス而シテ院長部長モ是レ亦判事ニシテ唯判事ハ官名院長部長ハ職名タルノミ

（第十四回）

第三十六條　事務ノ分配及ヒ結了並ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及ヒ第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一　前項ニ掲ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二　控訴院ノ判事差支ノ爲メ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但豫備判事ヲ用ヰルコトヲ得ス

本條ニ「左ノ變更ヲ以テ云々」ト然レハ前章「地方裁判所」第二十二條第二十三條及ヒ第二十五條ノ規則ヲ其儘控訴院ニ適用スルヲ得ス而シテ其異ナル所ハ本條第一、第二ニ之ヲ規定セリ

第二十二條第一項ニ曰ク「各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及ヒ各豫審判事ニ之ヲ分配ス」ト此中各豫審判事ニ事務ヲ分配スルノ規定ハ控訴院ニ之ヲ適用スルヲ得ス何トナレハ控訴院ニハ豫審判事ナルモノ之



0084

ナケレハナリ同條第二項ニ曰ク「各地方裁判所ノ各部長及ヒ部員ノ配置及ヒ所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年前以テ之ヲ定ム」ト此配置及ヒ代理ノ規定ハ其儘控訴院ニ適用スルコトヲ得唯所長トアルヲ院長ト見ルヘキノミ同條第三項ニ曰ク「前二項ニ掲ケタル諸件ハ裁判所長部長及ヒ部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル」ト此規定モ亦控訴院ニ適用スルコトヲ得法律中此會議ニ特別ナル名稱ヲ示サヽルモ或ハ之ヲ判事會議トモ稱スヘシ外國法ニ於テハ明カニ名稱ヲ附セリ(佛語之ヲ「プレシジョム」ト云ヒ獨語之ヲ「プレジジューム」ト云フ)又同條第四項ニ曰ク「地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ」ト是レ亦控訴院ニ適用スルコトヲ得故ニ控訴院長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スルノ權アリ

第二十三條第一項ニ曰ク「或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終若クハ休暇ノ始ニ臨ミ未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルコトヲ得」ト此規定モ其儘控訴院ニ適用スルコトヲ得ヘシ但同條第二項ハ豫審判事ノ事ニ係ルカ故ニ本項ハ適用スルニ由ナキコト論ヲ待タサルモノトス

第二十五條ニ曰ク「地方裁判所ノ判事差支ノ爲メ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其代理ヲ命スルコトヲ得」ト然ルニ控訴院ニ於テモ亦此種ノ如キ場合ヲ生スト雖トモ其之ヲ代理スル判事ハ其資格地方裁判所ト同一ナラス隨テ此條ノ規定ハ之ヲ控訴院ニ適用スルコトヲ得サルカ故ニ第三十六條第二ニ於テ特別ナル規定ヲ設ケタリ即チ此場合ニ於テハ代理判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其訴控院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ是ナリ又控訴院ニ於テハ豫備判事ヲ用ヰルコトヲ得ス其故他ナシ豫備判事ハ既ニ二回ノ競爭試驗ヲ經テ判事ニ任セラレタル者ナリト雖トモ未タ經驗ニ乏シキ所アルカ故ニ縱シ代理ナリトハ云ヘ控訴院ニ於テ其職務ヲ行ハシムルハ不適當ナリト認メタルニ由ル

第三十七條　控訴院ハ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス

第一　地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付キ爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三　地方裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

控訴院ノ裁判權

本條以下第三十八條及ヒ第三十九條ノ三條ハ控訴院ノ權限ノ事ヲ規定セルモノニシテ本條ハ乃チ其普通ノ權限ノ事ヲ列擧セルモノトス

第一　控訴院ハ地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴ニ付キ之ヲ覆審スルノ權アリ

第二　控訴院ハ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付キ地方裁判所ノ下シタル判決ニ對スル上告ヲ受理審判ス此事ニ付テハ余聊カ臆見アリ請フ之ヲ述ヘン

控訴院ニ於ケル上告審ノ可否

蓋シ上告ノ要ハ一國内ニ法律完全周到ニ行ハレ各地方ニ因テ區々タル解釋區區タル適用ナカラシムルニアリ之ヲ換言スレハ上告ハ法律ノ統一處分ノ歸一ヲ以テ其目的トス爾レハコソ本法第四十八條ニ於テモ大審院カ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ下級裁判所ヲシテ必ス之ヲ遵奉セシムルノ規定アリ又大審院ノ判決例ハ殊ニ之ヲ重ンシ輕忽ニ變改セサランカ爲メ第四十九條ニ於テ前判決ト相反スル意見アルトキハ其事件ノ性質ニ從ヒ或ハ民事ノ總部ニ於テ或ハ刑事ノ總部ニ於テ又或ハ民事及ヒ刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ裁判セシムル規定ノ如キ是レ畏ナ法律ノ解釋ヲ鄭重ニシ其適用ノ統一其處分ノ歸一ヲ期スルニ非サルハナシ而シテ之ヲ掌ル須ラク全國最高等唯一ノ法衙ニ於テスヘク決シテ此任ヲ同等ナル數個ノ法衙ニ委ヌヘカラサルナリ然ラスンハ則チ上告ノ目的豈ニ達スルヲ得ンヤ然ルニ右ノ規定ニ依レハ全國内ニ七個アル控訴院ヲシテ大審院ト等シク法律解釋ノ統一ヲ掌ラシム是レ余ノ解スルニ苦ム所ナリ

或ハ之ヲ辯護スル者アリ是レ唯立法者ハ便宜ヲ計リテ規定シタルノミト而シテ其說ク所ヲ聞ケハ乃チ曰ク各控訴院ヲシテ上告ヲ受理審判セシムルハ單ニ區裁判所ノ判決シタル事件ニ過キス然ルニ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ハ事体頗ル輕微ナリ之カ爲メニ堂々タル大審院ヲ煩ハスニ足ラス蓋シ大審院ハ利

害ノ較ヤ大ナル事件ニ付キ審理裁判シ以テ全國ノ模範ト爲ス是レ大審院ノ大任ヲル所ニシテ決シテ輕微ナル事件ノ爲メニ大審院ヲ設置シタルニ非サルナリ今若シ理論ニ拘泥シ法律ノ点ハ一々大審院ニ上告セシメンカ大審院ノ繁忙果シテ如何ソヤ之カ爲メニ大審院ハ或ハ判事ノ員數ヲ增シ或ハ俸給經費ノ巨額ヲ要スルニ至ラン而モ已ムヲ得スンハ乃チ可ナリト雖モ毫モ實益アルニ非ス何トナレハ控訴院ヲシテ上告ヲ受理審判セシムルモ大審院ノ判決ト一々反對ナル裁判ヲ爲スコトナク必スヤ大審院ノ判決ヲ標準トシ以テ裁判ヲ爲スヘケレハナリ然ラハ則チ法律統一ノ点ニ於テ毫モ欠クル所ナシ況ンヤ遠隔ノ地ニ在ル者ト雖モ上告ハ必ス東京ニ來ルヲ要ストセハ其費用ノ莫大ナル、利害相償ハサルヨリシテ己ムヲ得ス自家直ナリト信スルモ往々上告ヲ爲スヲ躊躇シ以テ其權利ヲ伸暢セサル者アルヲ又況ンヤ現ニ獨逸國ニ於テハ此制度ヲ行ヒツヽアルヲヤ」ト

或ハ斯ノ如キ理由モ之アラン然リト雖トモ法律ノ適用ヲ統一スルノ要タル決シテ事件ノ大小輕重ニ關セス事、重大ナルカ故ニ注意スルノ要アリ事輕少ナルカ故ニ注意スルノ要ナシト謂フカ如キ理アルヘカラス又其所謂事件ノ大小輕重ハ實ニ關係的ニ屬ス試ミニ想ヘ茲ニ價額僅カニ二三十圓ニ過キサル一事件アリ之ヲ富者ノ眼孔ヨリ見レハ事極メテ輕少ナレトモ貧者ニ取テハ實ニ富者ノ數千圓乃至數萬圓ニ當リ決シテ輕少ナリト謂フヘカラサルヲ其レ斯ノ如キ關係的ニ屬スル辭柄ヲ以テ本論ヲ是非スヘカラス蓋シ法律ハ公平ナルヲ要ス是ヲ以テ右ノ所論果シテ至當ナリヤ否ヤ余甚タ疑ヒナキ能ハサルナリ

論者曰ク「輕微ナル事件ニ至ルマテ悉ク大審院ニ上告セシメハ大審院頗ル繁忙ヲ致シ爲メニ判事ノ員數ヲ增シ經費ノ巨額ヲ要スヘク加之ス堂々タル大審院カ輕微ナル事件ヲ取扱フカ如キハ抑モ其之ヲ設置シタル本旨ニ非サルナリ」ト焉ンゾ知ラン裁判所ハ素ト人民相互間ノ訴訟ヲ受理審判センカ爲メニ設置スルモノナリ而シテ其訴訟ノ件數多ク判事ノ勉勵スルモ猶ホ且ツ延滯スルノ恐レアラハ須ラク判事ヲ增員スヘシ經費ヲ增額スヘシ是レ實ニ正當ノ費用ナリ政費節減ハ固ヨリ嘉ミスヘキ事ナレトモ正當ナル費用ニ至ルマテ之ヲ省畧スルカ如キハ抑モ亦節減ノ本旨ヲ愆ルモノト謂フヘシ況ンヤ各控訴院ヲシテ上



0087

告ヲ受理審判セシメハ大審院ハ乃チ閑ナレトモ之カ爲メニ控訴院ハ繁ヲ加ヘ隨テ判事ノ增員經費ノ增額ヲ來スヘキヲヤ然ラハ則チ政費ノ點ニ付テハ彼此甚シキ差異アルヲ見サルナリ又大審院ハ元來經徹ナル事件ヲ擔任セストノ論點ニ至テハ毫モ取ルニ足ラス實ニ大審院ハ最高等ノ裁判所タリ其判事ハ最優等ノ法官タルヘシ而モ此故ヲ以テ一切輕微ナル事件ニ關與セスト謂フカ如キ理ハ萬萬之アルヘカラサルナリ

論者又曰ク「各控訴院ニ於テ上告ヲ受理審判スルモ彼レ必スヤ大審院ノ判決ニ從フヘキヲ以テ毫モ法律ノ統一ヲ害セス亦何ソ憂フル所之アランヤ」ト然リト雖トモ控訴院ノ判事カ大審院ノ意見ニ羈束セラルヽハ單ニ或ル事件ニ付テ然ルノミ其他ノ事件ニ至テハ全ク不羈獨立自由ノ思想ヲ以テ判決スルコトヲ得ヘシ彼レ時ニ或ハ大審院ノ判決ニ遵由シテ裁判スルコト之アルヘシト雖トモ而モ若シ强固ナル反對ノ意見ヲ抱持シ乃公自ラ正當ナリト適實ナリト信セハ必スヤ自家ノ意見ニ隨テ裁判スルナルヘシ而シテ之カ當事者タルモノ大審院ノ意見ノ如キ裁判ヲ得ント欲スルモ業既ニ其途ナキヲ奈何セン況ンヤ大審院ノ判決ニ遵由セントスルモ未タ其例ナキ事件アルヲヤ此種ノ事件ニ至テハ必ス自己ノ意見ニ隨テ裁判セサルヲ得ス爾レハ全國七個ノ控訴院各其處分ヲ異ニシ裁判區々ニ渉リ究竟之ヲ一定セント欲スルモ豈得ヘケンヤ事此ニ到レハ利害ノ大ナルモノハ大審院ニ於テ受理審判シ以テ下級裁判所ヲ羈束スルニ因リ其事件ニ付テハ乃チ處分一定スヘキモ利害ノ小ナル事件ニ至リテハ各控訴院法律ノ解釋ヲ異ニシ區々ノ判決ヲ下スナラン其レ斯ノ如キハ果シテ法律統一ノ趣旨ニ適スルヤ否智者ヲ待タスシテ知ルヘキノミ

論者尙ホ曰ク「各控訴院ニ於テ上告ヲ受理審判スルトキハ遠隔ノ地方ニ在ル者ヲシテ其權利ヲ伸暢セシムルノ利益アリ」ト此點タル瑣々眼中ニ容レスシテ可ナリ況ンヤ控訴院ニ上告スルモ等シク費用ヲ要スルヲヤ其利益トスル所ハ唯路程ノ較ヤ近キニ在ルノミ

論者最終ニ一論據トシテ曰ク「獨逸現行ノ制度亦然リ」ト然レトモ獨逸ハ獨逸ナリ日本ハ日本ナリ彼我各其國情ヲ異ニス我邦必スシモ獨制ニ摸倣スヘカラス余ヤ私カニ疑フ本制ハ主トシテ獨逸法ヲ摸倣セシモノニ非サルナキヤト果シ

テ然ラハ是レ實ニ大ナル謬見ト謂ハサルヲ得ス

諸君モ知ラルヽカ如ク獨逸帝國ハ數個ノ聯邦ヨリ成リ諸聯邦各其法律ヲ異ニセリ而シテ我控訴院ニ當ルモノハ即チ上等地方裁判所(獨語ヲーベルランドゲリヒト)佛語トリビュナール、レジョナール、シュペリウール)ニシテ聯邦中數個所アリ此上等地方裁判所ニ於テハ其管内ノ地方裁判所及ヒ區裁判所ノ判決ニ對スル上訴ヲ受理審判シ其所謂上訴中ニハ上告モ亦之アリ然レトモ是レ決シテ怪ムニ足ラス如何トナレハ其受理審判スル事件ハ獨逸帝國ノ法律ニ違背シタリト主張スルモノニアラス一聯邦ノ法律(即チ地方ノ法律)ニ違背シタリト主張スルモノヲ受理スルモノニシテ此種ノ事件ニ於ケル上告ハ其裁判所獨リ之ヲ審判スヘキモノナレハナリ又縱シヤ獨逸帝國ノ法律ニ違背シタリトノ点ニ付キ其上告ヲ受理審判スルモ民法未タ發布セラレス故ニ諸聯邦各習慣ヲ異ニシ隨テ其判決區々ニ渉ルモ固ヨリ事ニ害アルコトナシ殊ニ刑事ニ至テハ一聯邦内ニ在ル數個ノ上等地方裁判所中其一ヲ擇ミ專ラ之ヲ擔任セシメタリ故ニ其判決他ノ聯邦トハ或ハ異ニスルコトアルモ同邦中ニ在テハ決シテ然ルコトナシ而シテ輕罪事件ニ付テハ我大審院ニ當ル所ノ帝國裁判所(獨語ライヒスゲリヒト)ニ上告ス但獨逸帝國ノ法律ニ違背シタリト主張スルモノタルヲ要ス地方ノ法律ニ違背シタリト主張スルモノハ之ヲ許サヽルナリ又重罪事件ニ付テハ其ニ帝國裁判所ニ上告スルコトヲ得ヘシ是レ事重大ナルヲ以テナリ蓋シ此等ハ皆法律統一ノ趣旨ニ基キタルモノニシテ彼レニ在テハ敢テ太甚シキ害アルコトナシ然リト雖トモ之ヲ萬世統一ナル我邦ニ移植スルニ至リテハ余輩疑ヒナキ能ハス今ヤ現ニ此法ヲ實施シツヽアリ將來各控訴院法律ノ解釋ヲ異ニスルニ至ラハ宛モ全國七種ノ法律アルカ如キ奇觀ヲ呈セン悲ヒ哉

第三　控訴院ハ地方裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル抗告ニ付キ裁判權ヲ有ス

此點ニ付テハ特ニ余ノ説明スルヲ要セス

(第十五回)

第三十八條　皇族ニ對スル民事訴訟ニ付キ第一審及ヒ第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス



0089

本條ノ規定ハ皇室典範第五十條ト相對スルモノナリ該條ニ曰ク(人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス)ト彼ノ華族ハ皇室ニ於テハ特別ニ待遇セラルヽモ法律上之ヲ特待スヘキニ非サルヲ以テ普通人民ト一般ニテ事足ルヘシト雖トモ皇族ニ至リテハ則チ然ラス皇族ハ全ク一種特別ノ高貴ニ在セラルヽヲ以テ之ヲ待ツ宜ク優ナラサルヘカラス外國ニ於テモ苟モ君主國ニ在テハ擧テ皇族ヲ特遇セサルハ莫シ況ンヤ我邦ニ於テハ一層之ヲ優待スヘキヤ勿論タリ之ヲ要スルニ本條ハ皇族ノ爲メニ設ケタル一種特別ノ規定ナリト知ルヘシ

皇室典範第三十五條ニ依レハ皇族ハ　天皇陛下ノ監督シ給フ所ナリ故ニ皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ特ニ裁判員ヲ命シテ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行スルモノナリ(皇室典範第四十九條)而シテ右構成法第三十八條ハ人民ヨリ皇族ニ對スル場合ニシテ即チ皇室典範ノ規定ト並ヒ行ハルヽモノトス然ラハ則チ皇族ヨリ人民ニ對スル民事訴訟ハ如何ト云フニ此場合ニ於テハ通常ノ裁判管轄ニ屬ス蓋シ人民カ皇族ヲ相手取ルカ如キハ事件頗ル重大ナリ須ラク鄭重嚴肅ナル手續ヲ以テ審理判決シ且ツ忌憚スル所ナキヲ要スヘシ是レ此場合ニ限リ特ニ其裁判權ヲ控訴院ニ與ヘタル所以ナリ

又東京控訴院ノ專屬トセシハ畢竟東京ハ輦轂ノ下ニシテ皇族ノ多ク住居セラルヽカ故ナラン且ツ其レ東京控訴院ハ判事ノ員數最モ多キカ故ニ多數ノ判事ヲ要スルモ(第四十一條實際差支ノ生スル恐レナキヲ以テナリ)此種ノ規定ハ獨逸ニモ亦之アリ獨逸ニ於テハ伯林ノ上等地方裁判所ノ管轄ト爲セリ

斯ノ如ク皇族ニ對スル民事訴訟ハ特別ニ取扱フモ其第一審ノ訴訟手續ニ至リテハ特ニ設クルノ必要アルコトナシ故ニ尙ホ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用スルコトヽセリ唯其異ナル所ハ判事ノ員數五人タルノ差アルノミ

第三十九條　控訴院ノ權限並ニ其裁判權ヲ行フノ範圍及ヒ方法ニシテ此法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

控訴院ノ權限竝ニ其裁判權ヲ行フノ範圍及ヒ方法ノ如キハ本法ニ於テ之ヲ網羅シ盡スヲ得ス又網羅シ盡スヘキニ非ス或ハ民刑訴訟法ニ於テ或ハ特別法ニ

裁判權ヲ行フノ方法

於テ既ニ規定シ又將來規定スルコトアラン畢竟本條ハ此旨ヲ示シタルノミ

本條ノ規定ハ地方裁判所ニ付テ設ケタル第三十條ト其精神ヲ同フス故ニ亦贅セス一例ヲ示サハ衆議院議員ノ當撰訴訟ハ特ニ控訴院ノ管轄トセルカ如キ即チ是ナリ

第四十條　控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

本條ハ控訴院ニ於テ其裁判權ヲ行フノ方法ヲ示シタルモノニシテ其精神第三十二條ト同一ナルヲ以テ亦詳述セス唯地方裁判所ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ控訴院ハ五人ノ判事ヲ以テスルノ差アルノミ其多數ナルハ畢竟控訴院ハ地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴ヲ審理スルモノナレハナリ又其奇數ナルハ決議ノ便宜ヲ得ンカ爲メナリ

第四十一條　第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其五人又ハ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

本條ハ皇族ニ對スル民事訴訟ヲ裁判スル場合ニ於ケル部ノ組立テ方ヲ規定シタルモノナリ即チ此場合ニ於テハ特ニ第一審ハ五人第二審ハ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判スルモノトス而シテ第二審ノ第一審ヨリ判事ノ員數多キハ是レ亦覆審ノ主義ヨリ來ル

本條ノ規定モ亦獨逸法ヲ採用シタルモノナリ獨逸伯林ノ上等地方裁判所ニ於テハ特ニ皇族裁判所ナルモノヲ設ケ大小二局アリ(獨語大局ヲ「グローセ ゼナート」小局ヲ「クライネ ゼナート」ト云フ)小局ハ五人ノ判事ヲ以テ組織シ第一審ノ裁判ヲナシ大局ハ七人ノ判事ヲ以テ組織シ第二審ノ裁判ヲナス而シテ此二局ノ判事ハ毎年豫メ之ヲ定メ大局ハ毎ニ老練家ヲ以テ之ニ充ツルト開ク我裁判所構成法ニ於テハ特ニ其判事ヲ豫定スルノ明文ナキモ既ニ控訴院ハ第三十六條ニ依リ毎年各判事ノ擔任事務ヲ定メサルヘカラス隨テ皇族ニ對スル民事訴訟ヲ裁判スヘキ判事モ亦前以テ之ヲ定ムルコトヽナルヘシ

第四十二條　各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク

檢事長並ニ其他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

本條ハ第三十三條ト其精神全ク同一ナリ唯檢事ノ地位、地方裁判所以下ニ附置セラレタルモノトハ一層高ク又檢事長ノ稱ハ檢事正ト區別センカ爲メノミ

## 第五章　大審院

大審院ハ最高裁判所ナリ蓋シ大審院ヲ設置シタル所以ノモノハ全國法律ノ統一ヲ司ルニ在リ爾レハ大審院ハ最モ高等ニシテ且ツ唯一タラサルヘカラス若シ其レ然ラスンハ決シテ法律統一ノ目的ヲ達スルコト能ハサルナリ

第四十三條　大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若クハ二以上ノ民事部及ヒ刑事部ヲ設ク

第四十四條　大審院ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務ヲ監督ス

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其分配ヲ定ム

第四十五條　大審院ノ事務ノ分配並ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム

大審院長ハ次年自ラ上席セントスル部ヲ指定スヘシ

大審院ノ判事差支ノ爲メ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ大審院長ヨリ其所在地ノ控訴院長ニ通知シ其控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

右三條ハ余ノ上來講述シタル所ニ依リ一讀以テ明了ナルヘシ故ニ亦辯セス唯第四十五條第三項大審院ノ判事ニ差支アルトキ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルハ其精神控訴院ニ付テ述ヘタル所(第三十六條第二)ト同一ナルモ是レ地方裁判所ノ判事ヲシテ大審院判事ノ代理ヲ爲サシメサルニ在リ

第四十六條　大審院長ハ何時ニテモ部長若クハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコトヲ得

本條ノ規定ハ控訴院以下ノ裁判所ニ付テハ絶テ無キ所ノモノナリ即チ控訴院

以下ノ裁判所ニ於テハ一タヒ事務ノ分配及ヒ判事ノ配置ヲ定メタルトキハ亦漫リニ之ヲ變更セス(第二十四條)然ルニ大審院ニ在テハ則チ然ラス大審院長ハ何時ニテモ部長若クハ部員ヲ他ノ部ニ轉セシムルコトヲ得ヘシ其故何ソヤ他ナシ畢竟控訴院以下ノ裁判所ニ付テハ單ニ事務ノ必要上ヨリ生スルモノナレトモ大審院ハ最高等ノ裁判所ナリ其判決ハ全國裁判ノ模範トナルモノナリ故ニ須ラク部長若クハ部員其人ヲ擇ハサルヘカラス是レ大審院長ニ特ニ此職權ヲ與ヘタル所以ナリ但シ判事ハ獨立ナリ故ニ必ス其承諾ヲ得サルヘカラサルヤ勿論タリ

第四十七條　大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトキハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

本條ノ規定ハ地方裁判所及ヒ控訴院ト同一ノモノタリ

第四十八條　大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ点ニ付テ表シタル意見ハ其訴訟一切ノ事ニ付キ下級裁判所ヲ羈束ス

大審院ノ判決ノ効力

本條ノ規定ハ實ニ緊要欠クヘカラサルモノナリ若シ此規定ナクンハ大審院アルモ決シテ全國ノ裁判權ヲ統一シ法律ノ解釋ヲ歸一ニスル能ハサルナリ其レ法律ノ文辭ハ異樣ノ意義ヲ含ミ隨テ之ヲ解釋スルコト甚タ困難ニシテ人毎ニ自ラ多少意見ヲ異ニスルコトアリ勿論立憲政治ノ下ニ在テハ立法議會ノ議論政府ノ說明書等多少參考ニ資スヘキモノナキニ非スト雖トモ此等ハ以テ司法權ヲ羈束スルノ效力アルヲ得ス然ラハ則チ他ニ其效力アルモノナカルヘカラス是レ唯一ニ大審院ノ判決アルノミ大審院カ表シタル意見ハ下級裁判所必ス之ヲ遵守セサルヘカラス若シ之ヲ遵守セサレハ即チ以テ違法ノ裁判ナリト謂フヘシ

大審院ノ判決ノ效力ソレ斯ノ如ク强且ツ大ナリ然レトモ是レ亦決シテ無限ノモノニ非ス即チ大審院ノ判決ニシテ羈束力ヲ有センニハ左ノ三條件ノ具備スルコトヲ要ス

第一條件　其訴訟事件ヲ受理シタル下級裁判所ニ限ル他ノ裁判所ハ之ヲ摸範トスルハ格別敢テ遵守スルノ義務アルコトナシ

第二條件　法律ノ點ニ付テ表シタル意見ニ限ル事實ノ點ニ至テハ其事件ヲ受理シタル下級裁判所認定ノ全權ヲ有スルニ因リ前判決ヲ變更スルモ妨ケナシ

第三條件　大審院ノ判決ニ從フヘキハ唯其判決アリシ事件ニ付テ然ルノミ故ニ下級裁判所ニ於テ他日之ト類似ノ事件ヲ受理スルモ復タ大審院ノ意見ニ從フヲ要セス然ラスンハ裁判權ノ獨立全ク滅シ了ラン

之ヲ要スルニ大審院ノ判決ノ效力ハ實ニ强大ナリ是レ立法權ト司法權ト相對立シ相侵害セサル所以ナリ若シ其レ然ラスンハ司法權ノ獨立全ク地ニ墜チ去ランノミ從前ハ大審院ノ判決毫モ羈束力ヲ有セス又實際之ヲ有スルコト能ハサリキ他ナシ屢其判決ヲ變更セシヲ以テナリ隨テ下級裁判所ハ之ニ從ハス各自其意見ニ任シテ判決ヲ下セシカ故ニ同一事件ニシテ爲メニ二三年ノ星霜ヲ徒費セシモノ尠カラス今ヤ本條ノ規定アリ以テ此等ノ弊害ヲ一掃シ去ルヲ得ンカ

第四十九條　大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付キ曾テ一若クハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若クハ刑事ノ總部又ハ民事及ヒ刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及ヒ裁判スルコトヲ命ス

總部聯合

大審院ノ判決ノ効力重大ナルコト前段既ニ述ヘタル所ノ如シ是ヲ以テ一事件ニ付キ其判決ヲ下スニ當リテヤ須ラク用意周到ナルヘク決シテ輕忽ニ裁判ヲ爲スヘカラサルナリ今若シ裁判毎ニ其判決前後反對シ彼此矛盾スルカ如キコトアランカ裁判所ノ威嚴全ク失墜シ司法權ノ信用亦何ヲ以テ維保スルコトヲ得ンヤ殊ニ大審院ノ判決ハ全國ノ裁判所悉ク之ヲ遵守スルニ及ハサレトモ實際上自ラ之ヲ模範ト爲スノ傾向アリ是レ他ナシ大審院ノ意見ト異ナル判決ハ究竟破毀セラルヽノ恐レアレハナリ爾レハ大審院ノ判決ハ殆ント第二ノ法律ニ等シキ効力ヲ有スト謂フモ敢テ過言ニ非サルヲ知ラン然リト雖トモ人ハ神明ニ非ス大審院ノ判事ハ智識經驗兩ラ備フト云フト雖トモ元是レ人ナリ奚ソ過愆ナキヲ保スヘケンヤ時ニ或ハ前ニ下シタル判決ト全ク相反スル意見ヲ抱

キ而モ其意見ニシテ前ノ判決ヨリハ一層優ルヤモ亦未タ知ルヘカラス故ニ此場合ニ於テハ十分ニ研究討論シ以テ之カ裁判ヲ下サヽルヘカラス是ニ於テカ始メテ大審院ノ判決ニ價値アリト謂フヘシ若シソレ然ラス意見ノ變スルニ隨ヒ容易ニ前ノ判決ト相反スル裁判ヲ爲サンカ亦何等ノ價値ヲモ有セサルニ至ルヘキナリ

是故ニ斯ノ如キ場合ニ於テハ先ツ該部ヨリ大審院長ニ報告シ其事件民事ナルトキハ民事ノ總部聯合シテ之ヲ審問裁判シ若シ刑事ナルトキハ刑事ノ總部聯合シ之ヲ審問裁判シ若シ又民刑交渉ノ事件ナルトキハ民事及ヒ刑事ノ總部聯合シテ一ノ法廷ヲ開キ數多ノ刑事合議ヲ以テ之ヲ審問裁判スルモノトス曾テ既ニ此實例アリシナリ

右ノ如ク爲スニ於テハ容易ニ前ノ判決ト相反スル裁判ヲ爲スコトナク大審院ノ判決ハ眞ニ全國裁判ノ摸範ト爲リ人民モ亦之ヲ信用スルニ至ラン然レトモ又屢總部聯合シテ以テ前ノ判決ヲ變スルカ如キコトアラハ却テ其威信ヲ失墜スルコトアラン豈愼マサルヘケンヤ

大審院ノ裁判權

第五十條　大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　終審トシテ

（イ）第三十七條第一ニ依リ爲シタル判決及第三十八條ノ第一審ノ判決ニ非サル控訴院ノ判決ニ對スル上告

（ロ）控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二　第一審ニシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪並ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノヽ豫審及裁判

本條ハ大審院ノ裁判權ヲ規定スルモノニシテ即チ其管轄スヘキ事項ヲ擧示ス

本條第一號ニ記載スル事項ニ付テハ別ニ講スヘキ點ナシ其第二號ニ記載スル事項ハ到底下級裁判所ヲシテ其裁判ヲ爲サシムルコト能ハス即チ此等ノ事件ハ最モ優等ナル判事ニ委子サルヘカラス殊ニ國事犯罪ノ如キハ往々政黨ノ關係アルヲ以テ一地方ノ裁判所ヲシテ之カ裁判ヲ爲サシムルトキハ或ハ公平ヲ失スルナキヤノ嫌アリ加之ス皇族ノ犯罪ノ如キハ被告人ノ身分地位高貴ナル



0095

カ爲メニ或ハ自己ノ本心ヲ枉テ之カ裁判ヲ爲スコトナキヲ保セス是レ此等ノ事件ニ限リ特ニ大審院ノ管轄ニ屬セシメタル所以ナリ

諸君モ知ラルヽ如ク從前ハ高等法院ナル一種ノ裁判所ヲ設ケ以テ右等ノ事件ヲ裁判セシメタリ然レトモ高等法院ノ制ハ往々弊害アリ固ヨリ其裁判官ハ事毎ニ任命セス毎年豫メ上裁ヲ以テ之ヲ任命セラルヽモノナルモ其裁判官中ニ行政官ヲ加フルヨリシテ或ハ奇怪ナル裁判ヲ爲スコトナキヲ保セス且ツソレ國事犯ト雖モ是レ亦一ノ犯罪ナリ之カ爲メニ別種ノ裁判所ヲ設クヘキノ理ナク其之ヲ設クルハ即チ司法權ヲ分立スルニ外ナラス是レ此構成法ヲ以テ從前ノ制度ヲ廢シ最高等ナル大審院ノ管轄ト爲シタル所以ナランカ

第五十一條　前條第二ニ掲ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲ス爲メ控訴院若クハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其ノ半數ニ滿ツルコトヲ得ス



本條ハ既ニ彼ノ有名ナル湖南事件ニ付テ適用セラレタリ大審院ノ法廷ヲ控訴院又ハ地方裁判所ニ開クハ是レ唯便宜ノ爲メノミ而シテ大審院ノ判事カ全國ニ出張スルカ如キハ亦大ニ事務ノ差支ヲ生スルカ故ニ控訴院ノ判事ヲ以テ部員ト爲スコトヲ許セリ然レトモ若シ其員數多キトキハ裁判ノ威信ヲ損スルノ恐アリ故ニ必ス半數以下タルヲ要スト規定シタリ

第五十二條　大審院ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及ヒ方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

本條ノ規定ハ第三十九條ト同一ナルヲ以テ復タ贅セス

第五十三條　大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

大審院ニ於テハ七人ノ判事ヲ以テ裁判ス可キ旨ヲ定ム

第五十四條　第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ

三分ノ二列席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若クハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事中官等最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院長ハ至當ナリト認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

故ニ例ヘハ民事部又ハ刑事部ノ二部聯合スルトキハ少クトモ十人ノ判事列席スルニ非サレハ裁判ヲ爲スコト能ハサルナリ

第五十五條　大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ場合ニ付キ大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムルコトヲ得

本條ハ大審院ニ於テ豫審判事ヲ命スル方法ヲ規定セルモノニシテ場合ニ依リ或ハ控訴院判事或ハ地方裁判所判事ニ命スル等一ニ便宜ニ依ルモノトス

第五十六條　大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク

檢事總長並ニ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

本條ノ規定ハ第四十二條ニ同シ故ニ復タ贅セス

本校講師
法學士　兩角彦六先生口述

本校校友筆記

# 第二編　裁判所及檢事局ノ官吏

構成法ハ其第一編ニ於テ裁判所及檢事局ノ組織幷ニ其權限ヲ規定シ次テ本編ニ至リ之ヲ組織スル職員ノ就任資格服務定規ヲ定メ通計六章ヨリ成ル裁判所及ヒ檢事局ノ職員トハ即チ判事檢事裁判所書記執達吏廷丁トス第一章ハ判事檢事ニ共通ノ法則ニシテ以下各職員毎ニ一章ノ規定ヲ下セリ

尤モ彼ノ執達吏ヲ以テ本編官吏ナル表題中ニ網羅セシハ或ハ立法問題トシテ其性質ヲ誤ルモノニアラサルカ換言スレハ執達吏ハ公吏ト稱シ得ヘキモ官吏トスルハ或ハ其當ヲ得サルモノニアラサルカハ第五章ノ條下ニ於テ說明スヘシ

## 第一章　判事檢事ニ任セラルヽニ必要ナル





0097

## 準備及資格

準備ト云ヒ資格ト云フ異字同義ヲ表明スルノ嫌ナキニ非ザルモ強テ之ヲ區別センカ準備トハ其資格ヲ得ル以前ニ屬スル事柄ニシテ資格ハ準備ヲ盡シテ初メテ生スルモノナリト云フコトヲ得可シ

判事撿事ニ任セラルヽニハ第一回ニ於テ學術競爭試驗ニ及第シ第二回ニ實務試驗ニ合格シタルモノナラサルヘカラス判事撿事タルニ斯ル周密ナル試問ヲ要スルハ判事撿事ハ主トシテ法律適用ノ重任ニ當ルモノニシテ若シ其適用ヲ過テハ法ハ法ノ効ナク人權ヲ保護スル裁判ハ却テ人權傷害ノ毒物タルニ至ルヘシ故ニ學識ニ實務ニ十分ノ經驗ヲ積ミタルコトヲ公認セラレタル者ニアラサレハ未タ以テ法律適用ノ任ニ當ラシムルニ足ラス深遠高妙ノ學識モ實務ヲ知ラサル者ニアリテハ之ヲ適用スルニ地ナカル可キハ最モ覩易キノ道理ナリトス(第五十七條)但シ三年以上帝國大學法科教授若クハ辯護士ノ職務ニ從事シタル者ニ在テハ試驗ヲ要セス直ニ判事撿事ニ任補スルコトヲ得(第六十五條第一項)此規定タル實ニ例外トス否ナ寧ロ恩惠ナリ大學ノ教授カ學識ニ於テ其資格アリト認ムルコトヲ得ルハ可ナリトスルモ三年以上教授ノ職ニ在リシ者果シテ裁判ノ實務ニ何程ノ練習經驗ヲ與フルカ學生ニ學識ヲ授ケツヽ而シテ裁判ノ實務ヲ自ラ習得シタルモノトスルハ解スルニ苦ム所ナリ

### 第一回試驗

(甲) 第一回試驗

此試驗ハ判事撿事タルニ必要ナル學識ヲ有スルヤ否ヲ試問スルモノニシテ其規則ハ明治二十四年司法省令第三號ヲ以テ定メラル該則ニ依レハ第一回競爭試驗ニ應セント欲スル者ハ先ツ一定ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス其資格ニ二種アリ積極及消極是レナリ(同則第五條及ヒ本法第六十六條參照積極資格トハ

第一 帝國ノ男子ニシテ成年以上ノ者

第二 判事撿事ト爲ルニ要スル學業修習証書ヲ有スル事

本項ハ左ノ三種ノ内其一種ノ卒業証書ヲ有スルヲ以テ足ル

(い) 第一若クハ第三高等中學校ニ於テ法學科ヲ卒業シタル者

(ろ) 文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學ヲ教授スル私立學校ノ卒業証書ヲ有スル者

(は)外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學ヲ修メ卒業証書ヲ有スル者

以上二箇ノ資格ハ積極ノモノニシテ之ヲ完備セサレハ試驗ニ應スル事ヲ得ス

又消極的ノ資格ハ本法第六十六條ニ掲クル所ニシテ

第一　重罪ヲ犯シタル者ニアラサルコト　但シ國事犯者ニシテ復權ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯サヽル事

第三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者ニアラサルコ

以上二種ノ資格ニ該當スル者ハ茲ニ初メテ判檢事登用試驗ノ受驗者タル資格ヲ有スルモノニシテ而シテ第一回ノ學術競爭試驗ニ及第シタル者ハ第二回試驗ヲ受クルノ前試補トシテ三ケ年間裁判所及檢事局ニ於テ實地練習ヲ爲ス事ヲ要ス(第五十八條)

然レトモ帝國大學法科卒業生ハ法律學專攻ノ公認ヲ經判事檢事タルニ要スル學職ニ欠クル所ナケレハ之ヲ試補ニ任用スルニ當リ學術競爭試驗ヲ爲スノ必要ナキカ故ニ直ニ採テ試補ト爲ス事ヲ得ヘシ然レトモ其實地運用ノ點ニ關シテハ未タ練習ノ實跡ナキモノナレハ事ニ當テ誤リナキヲ保セス故ニ尙試驗及第者ト同シク三ケ年間事務練習ヲ要セリ(第六十五條第二項)

試補ノ職分

試補ノ職分

試補ハ實務練習ノ爲メニ勤務スルモノナレハ裁判ニ干預シ若クハ檢察事務ニ當ル事ヲ得サルヲ以テ本則トス然レトモ試補トシテ一ケ年以上修習シタル者ハ多少實務ニ付テ辯識スル所アルヲ以テ之ニ司法事務ノ助行ヲ命スルモ敢テ不可ナルナシ此故ニ現ニ其修習ヲ監督スル判事ニ於テ司法事務ノ助行ヲ爲サシメ差支ナシト思料シ之ニ司法事務ノ助行ヲ命スルトキハ試補ハ其裁判所ニ於テ司法事務ヲ取扱フコトヲ得ヘク又豫審判事若クハ受命判事ノ職務ヲモ助行スルヲ得(第六十條)然レトモ試補ハ如何ナル場合ニ於テモ取扱フコトヲ得サル事務アリ是レ本法第六十一條ニ列擧スル所ニシテ

第一　訴訟事件ト非訟事件トニ拘ラス裁判ヲ爲ス事

第二　證據ノ取調但シ豫審判事若クハ受命判事ノ附屬トシテ之カ取調ヲ爲ストキハ此限ニアラス

第三　登記ヲ爲ス事

以上三種ノ事務ハ凡テ人民ノ權利ニ重大ノ關係ヲ有スルモノナレハ若シ之ニ錯誤アランカ當事者ノ權利ノ伸暢ニ影響ヲ及ホス尠少ナラサルヲ以テ未タ充分實務ニ練達セサル試補ニ之ヲ取扱ハシムルハ敢テ是等ノ危險ナシトセサルヲ以テ法律ハ一般ニ之ヲ禁セリ

又試補ハ合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若クハ監督判事ニ於テ裁判所書記ノ取扱フヘキ事務ノ臨時取扱ヲ命セラルヽ事アリ此場合ニ於テ試補ハ書記ノ職ヲ以テ主トスル者ニアラサルカ故其署名ヲ要スル場合ニ際セハ特別ノ許可ヲ受ケサルヘカラス(第九十二條)或ハ試補ハ判檢事ノ俟補者ニシテ其實習スル所唯判檢事ノ職務上必要ノ事務ノミ然ルニ其配下ニ屬スヘキ書記ノ職務ヲ臨時ト雖モ之ニ取扱ヲ命スルハ事理ノ本末ヲ失フモノナリト云フカ如キハ要スルニ服務者不滿ノ余言ニ過キス試補ハ實務ノ見習中ニ在ル者ニシテ判檢事ニアラス而シテ他日判事又ハ檢事ニ任補セラレタル日ニ於テ書記ノ事務ニ通センカ裁判事務捗運ニ手數ト時日ヲ省キ裁判速行ノ便益アリトス而シテ此規

試補ノ罷免

定ハ將來試補ノ增加スル場合ニ於テハ當ニ臨時ノミナラス其修習期限中其一部ハ書記ノ職務ヲモ取扱ハサルヲ得サルニ至ラン是レ既ニ獨乙ニ於テ實例ノ徵スヘキモノアリ

試補ノ罷免

試補ハ未タ法官タルノ資格ヲ得サルモノニシテ上官ノ指揮監督ニ從ヒ實務ヲ練習シ第二回實務ノ試問ニ登第スルノ準備中ニ在ルモノナレハ司法大臣ハ試補タル者ヲ鞭撻シテ精勵セシメ法官ノ良雛ヲ養成セサルヘカラス之ヲ遂行セシムルニハ又後進戒愼ノ爲メニ罷免スルノ必要アリ故ニ其試補タル者職務上若クハ職務外ノ行狀其職務ヲ執ルニ不適當ナルカ又ハ其修習ノ進歩不十分ニシテ第二回試驗ニ及第ノ見込ナキトキハ直接ノ指揮者即チ現ニ監督スル上官ハ控訴院長(檢事長ヲ經由シ司法大臣ニ之ヲ報告セサルヘカラス司法大臣此報告ヲ受ケタルトキハ試補ヲ免スルコトアルヘシ(判事檢事登用規則第二十二條)

又司法大臣ハ試補カ第二回試驗ニ及第セサルコト若クハ第二回試驗ノ成立セサルコトヲ該試驗委員長ヨリ報告アリタルトキハ亦試補ヲ免スルコトヲ得然

レトモ此後ノ場合ニ於テハ試補カ已ムヲ得サルノ事故アリシコトヲ證明シ試驗委員長之ヲ正當ト認メ其旨ヲ司法大臣ニ報告シタルトキハ司法大臣ハ其試補ニ一回限リ次期ノ試驗迄引續キ修習ヲ爲サシムルコトアルヘシ(同則第三十一條同第十一條及同第十三條乃至第十五條)

第二回試驗

(乙) 第二回試驗

此試驗ハ實務ノ練習成績ニ付キ試問スルモノニシテ第一回學術競爭試驗ニ及第シ試補トシテ三年間實務ヲ修習シタル者及ヒ帝國大學法科卒業生ニシテ試補トシテ實務修習ヲ爲シタル者ノミニ行フ此試驗ノ場所及期日ハ司法大臣及ヒ試驗委員長ノ定ムル所ナリ(判事檢事登用試驗規則第二十三條以下)此二回ノ試驗ニ及第シタル試補ハ判事又ハ檢事ニ任用セラルヽ事ヲ得(本法第六十二條)然レトモ常備判事又ハ常備ノ檢事ニハ人員ノ制限(明治二十四年七月勅令第百三十四號)アルヲ以テ新ニ任セラレタル判事若クハ檢事ヲ直ニ常備トスルヲ得ス區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ是等ノ裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ欠位アルヲ待テ初メテ常備判事又ハ檢事ニ任補セラルヽコトヲ得左レハ常備ノ判事檢事ニ欠位ナキ間司法大臣ハ之ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ勤務ヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所若クハ地方裁判所及ヒ此等ノ裁判所ノ檢事局ニ使用スルモノトス(第六十三條然レトモ新任ノ判事ハ如何ナル場合ト雖モ控訴院以上ノ裁判所ノ判事ニ任補セラルヽコト能ハス是レ本編第二章第三章ニ規定スル所ニシテ是等ノ裁判所ハ上審級ニ位スルヲ以テ之カ判事檢事タル者ハ尚一層事務ニ練習シタル者ヲ要スル旨趣ニ基ク

豫備判事又ハ豫備檢事勤務中其裁判所ノ常備判事又ハ其檢事局ノ檢事ニ其職務ヲ取扱フ能ハサル事故アルトキハ其差支ノ原因カ事實上ニ出ツルト(病氣其他ノ事故ニテ實際裁判ニ預ルヲ得サルトキ)法律上ノモノト(判事又ハ檢事カ職務執行ヨリ除斥セラレ又ハ忌避セラレタルトキ)等ヲ問ハス之ニ代ルヘキ判事又ハ檢事アラサルトキニシテ其事件緊急ナリト認ルトキハ裁判所長ハ豫備判事又ハ豫備檢事ヲシテ之ヲ代理セシムルコトヲ得ヘク又司法大臣モ此命ヲ發スルコトヲ得然レトモ合議裁判所ノ判事ヲ代理セシムル場合ニ於テハ同時ニ二人以上ノ豫備判事ヲ塡用スルコトヲ得ス(本法第三十二條此制限アル所以ハ豫

備判事ハ欽員ヲ補充スルカ爲メニ豫備セラルヽ者ナレハ合議部ノ正員ニアラス正員ニアラサレハ自ラ審判スルノ職權ナシ之ヲ同時ニ二人以上列席裁判セシムルハ合議制ノ本義ニ悖ル所アレハナリ區裁判所ハ單獨ノ判事ヲ以テ裁判事務ヲ攝行スルモノナレハ審判權ナキ豫備判事ニ之ヲ代理セシムルコトヲ得ス審判權ナキ者裁判スルヲ得サルハ亦喋々ヲ要セス然レトモ豫備檢事ニ付テハ曾テ如此制限ナキノミナラス司法官試補ト雖モ檢事代理ヲ命セラレタルトキハ獨立シテ其事ヲ行フ

## 第二章　判事

判事檢事ハ其任用セラルヽ資格準備ニ於テ異ナルナシト雖モ一タヒ任用セラレテ一ハ判事トナリ一ハ檢事トナルヤ其資格身分ニ於テ全ク相異ナル判事ハ裁判所ニ於テ司法權ノ行使ニ從事シ檢事ハ國家ヲ代表シテ檢察ノ事務ニ從事ス國家ヲ代表シテ檢察事務ニ從事スル檢事ハ裁判事務ヲ取扱フモノニアラサレハ亦是レ一ノ行政官吏ナリト雖モ判事ハ然ラス決シテ行政官ニアラス司法權ヲ運用シテ其獨立ヲ維持スル任ニ當ルモノナリ故ニ憲法第五十八條ハ裁判官ノ地位ヲ保證シテ曰ク「裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス」裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒處分ニ由ルノ外其職務ヲ免セラルヽコトナシ」懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム」ト故ニ裁判官ハ其任官終身ニシテ天皇ノ大權モ容易ニ之ヲ侵スコトヲ得サルモノトス蓋シ裁判官ニシテ容易ニ轉免セラルヽコトヲ得ルニ於テハ人情其地位ニ掛念スルノ結果一身ノ安危ニ制セラレテハ權勢威武ノ奴トナリテ公平無私ノ裁判ハ得テ望ム可キニ非サルカ故ニ司法權獨立ノ實ヲ擧ケンニハ之カ機關タル裁判官ノ地位ヲ安全ナラシムルニ如クハナシ本法第六十七條及ヒ第七十三條ハ即チ此憲法ノ旨趣ヲ貫徹セシムル所以ノモノニ外ナラス

此故ニ終身官タル裁判官ハ刑事裁判ノ宣告又ハ懲戒處分ニ依ルニアラサレハ其意ニ反シテ轉官、轉所免官、停職、減俸セラルヽコトナシ刑事裁判ノ宣告ニ由リテ其職ヲ失フハ固ヨリ當然ナリトス懲戒處分ハ裁判官タル者其職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルカ官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタ

ル場合ニ於テ之ヲ行フモノニシテ其之ヲ行フニハ懲戒裁判ノ手續ニ依ラサル可カラス(明治二十三年八月法律第六十八號判事懲戒法參照)

尤モ轉所ニ至リテハ懲戒ノ處分ニ出テサルモ事實上ノ必要ヨリ之ヲ命セサル可ラサル場合アリ即豫備判事ヲ以テ欠員ヲ補充スルノ必要アル場合ニシテ蓋シ豫備判事トシテ勤務中ノ者ニ在テハ本來他ノ欠位ヲ補フ爲メニ備フルモノナレハ時ニ轉所ヲ命セラルヽ事アルモ是レ豫備判事タル者ノ當然任補上ノ便宜ニ出ルモノト云ハサルヲ得ス(第七十三條末段)

**終身官タルノ結果**

裁判官カ終身官タルヨリシテ左ノ如キ結果ヲ生ス可シ

第一　判事ノ職タル一ニ智能的ノ活動ヲ以テ事ニ當ルモノナレハ其身体若クハ精神ノ衰弱ニ依リテ其職務ニ堪ヘサルコトアラン然レトモ之ヲシテ服職セシムルモ益ナシトテ免官スルハ違憲ノ行爲タリ故ニ此輩ニ對シテハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得(第七十四條)其退職ハ敢テ判事タルノ官ヲ免スルモノニ非ス

第二　新ニ法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ若クハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其在勤セシ判事ヲ補スヘキ欠位アラサルトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ與ヘテ其欠位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス(第七十五條)

若シ此規定ナカランカ判事ハ終身官ナルヲ以テ實際其職務ニ與ラサル場合ニ於テモ猶官等ニ伴フ俸給ヲ支給セサルヘカラス斯クテハ國庫ノ經濟ニ容易ナラサル影響ヲ及ホスカ故ニ司法大臣ニ半額ノ俸給ヲ與ヘテ其欠位ヲ待シムルノ權ヲ與ヘタリ然レトモ行政官吏ニ在テハ大ニ之ニ反シ若シ其奉仕スル官廳ニシテ法律ヲ以テ變更又ハ廢止セラレ其職員ニ冗餘ヲ生スルトキハ悉ク其職務ヲ解カルヘシ是レ亦判事タル終身官ト行政官トノ間ニ其趣ヲ異ニスル一端ヲ窺知スルニ足ル

**判事ノ任補**

判事ノ任補ニ付テハ大審院控訴院地方裁判所及ヒ區裁判所トノ間ニ異ナル所アルヲ以テ以下之ヲ四箇ニ區別シテ講說セントス

第一　大審院長各控訴院長及大審院部長ノ任補

大審院長ハ帝國最高等裁判所長ニシテ其任務ノ重且大ナル司法權ノ獨立法律

ノ統一ハ專ラ大審院ニ依テ發表セラルヽモノナレハ之ニ長タル判事ヲ選任スルニハ最モ鄭重ニシテ其人ヲ得ルニ務メサルヘカラサレハ之カ任補ニ付テハ天皇自ラ勅任判事中ヨリ其任ニ耐ユヘキモノヲ拔擢シテ之ヲ補シ給ヒ各控訴院長及ヒ大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ヲ待テ之ヲ補職セラレ(第六十八條廿三年勅令第百五十八號)

第二　大審院判事ノ任補

大審院判事ハ裁判權實行ノ最上位ヲ占ムルモノナレハ若シ一タヒ其裁判ヲ誤ルコトアランカ後來ニ其害ヲ遺シ人民權利ノ伸暢ニ重大ナル關係アルヲ以テ其能ク法理ニ通曉シ司法事務ニ練達ノ士ヲ擧ケサルヘカラス故ニ大審院判事タルニハ十年以上判事ノ職ニ在リシ者又ハ十年以上檢事若クハ帝國大學法科教授若クハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレタル者タルヲ要ストセリ(第七十條)

第三　各控訴院判事ノ任補

各控訴院判事ハ大審院判事ニ比シテ次位ノ裁判官ナリト雖モ亦裁判權實行ニ付テハ上級審ニ位スルヲ以テ之カ判事タルモノハ亦其辨識ト經驗ハ地方裁判所以下ノ判事ニ比シテ大ニ優ラサルヘカラス此ヲ以テ其判事タルニハ五年以上判事ヲ奉シタル者又ハ五年以上檢事若クハ帝國大學法科教授及ヒ辯護士ニシテ判事ニ任セラレタルコトヲ要セリ(第六十九條)

第四　地方裁判所及ヒ區裁判所判事ノ任補

降テ地方裁判所又ハ區裁判所ニ在テハ第二回試驗ニ及第シ判事ニ新任セラレタル者又ハ三年以上帝國大學法科教授及ヒ辯護士ノ職ニ在リシ者ヲ以テ直ニ其判事ニ任用セラルヽコトヲ得(第六十五條)

以上各項ノ年數算定ニ付テハ其補職ノ當時マテ同一ノ職務ニ從事シタルコトヲ必要トセス故ニ初メ法科大學教授タリシ者辯護士ト爲リ終ニ判事ト爲ルノ日其年數ヲ通シ其各項ノ年數ニ該當セハ可ナリ(第七十一條)

各判事ハ在職中其官等ニ從ヒ一定ノ俸給ヲ受ク(第七十六條及ヒ明治二十四年七月勅令第百三十四號判事檢事俸給令)タヒ支給セラレタル俸給額ハ判事ノ意ニ反シテ減殺セラルヽコトナシ是レ本法第七十三條ニ明記スル所ナリ

茲ニ於テカ一問題アリ即チ新ニ勅令ヲ以テ既存ノ俸給額ヲ減少シタルトキハ

判事ハ之ニ不服ヲ唱フルコトヲ得ルヤ否是ナリ第七十三條ノ明文ニ依レハ判事ハ一タヒ定メラレタル俸給額ハ後ニ命令ヲ以テ其額ニ變更ヲ來タサシムルモ其意ニ反シテ之ヲ減少セラルヽコトナキカ如シ然レトモ元來俸給額ノ取極ヲ爲スハ一ニ勅令ノ自由ニシテ(第七十六條)毫モ本法ノ預ラサル所勅令カ認メテ高額ニ失スルトセハ隨時ニ之カ變更ヲ爲シ得ヘキ勿論ナレハ勅令カ一般ニ判事ノ俸給額ヲ減少シタルトキハ判事ハ之ニ不服ヲ唱フルコトヲ得ス第七十三條ノ規定ハ只或ル特定ノ判事ノミニ係ル減俸ノ場合ニ適用スヘキ規定ニシテ一般ニ俸給額ヲ減少セラルヽ場合ハ毫モ第七十三條ノ精神ニ違フモノニアラス

判事ハ懲戒ノ取調又ハ刑事訴追ヲ初メタルカ故ニ停職シタルトキト雖モ尙引續キ一定ノ俸給ヲ給ス是レ他ナシ判事ニ失職又ハ犯罪ノ嫌疑アリトスルモ未タ其取調ノ結了セサル間ハ果シテ其失職又ハ犯罪アリタルコトヲ確知スヘカラサルヲ以テ其判事タル資格官等ニ傷クル所ナシ其資格官等ニ傷クル所ナケレハ之ニ俸給ヲ支給スルハ當然ナリ(第七十三條第二項第七十八條)

判事ノ職務ト低觸事項

判事ノ職務ト低觸事項

判事ハ裁判權ノ衡平ト威嚴トヲ保タサルヘカラス若シ其任職中裁判ノ平正ヲ欠キ又ハ情勢ノ爲メニ或ハ政治上ノ運動ノ爲メニ其職ヲ曠フスルカ如キ行爲アランカ司法ノ權ハ是ヨリ崩レ遂ニ立法ノ精神ヲ紊亂スルニ至ルハ免ルヘカラス此ニ至テ司法權ヲ獨立セシメ法官ヲ終身ノモノトシタル目的ヲ達スルヲ得サルヘシ故ヲ以テ此等ノ嫌アル行爲ハ法律ハ之ニ制限ヲ加フルノ必要アリ是故ニ本法第七十二條ハ判事ノ職務ト低觸スル事項ヲ列記シ判事ハ在職中之ニ與カルコトヲ得ス

一　政治上ニ關係スル事

二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員ト爲リ又ハ府縣郡市町村議會ノ議員ト爲ルヿ

三　俸給アル又ハ金錢ヲ目的トスル公務ニ就ク事

四　商業ヲ營ミ又ハ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

以上四種ノ行爲ハ法官在職中干預スルヲ得サル所ノモノナリ而シテ其第一第二項ニ規定スル所ノモノハ裁判官ノ獨立ヲ保ツニ政黨ニ左右セラルヽノ恐ヲ

避クル爲メニシテ自己ノ政治上ニ干與シタル意見ハ之ヲ裁判上ニ及ホサントシ又其反對者ヲ攻擊スルノ極遂ニ訴訟ノ勝敗ニ及フカ如キハ蓋シ人情ノ免レサル所ナレハ判事ニシテ政治上ニ干與シ又ハ議員トナルトキハ果シテ公明平正ノ裁判ヲ下スヤ疑ナキ能ハス故ニ法律ハ之ヲ禁止セリ帝國議會ノ議員ニ關シテハ本法之ヲ規定セサルモ議院法第九條ニ於テ之ヲ禁セリ亦同一理ニ出ツ

其第三第四ノ行爲ハ重ニ金錢上ノ利益ヲ目的トスル行爲ニシテ金錢上ノ利慾ハ大ニ人心ヲ眩惑セシムルモノニシテ其害ノ裁判權ニ及フノ影響亦前者ニ讓ラサルヘシ是レ之ヲ禁シタル所以ナリ

然レトモ或ル公益ヲ專務トスル協會若クハ慈善ニ起ル事務ニ關シ又ハ學藝ヲ教授スル等ノ如キハ本項ノ制禁スル所ニアラス例ヘハ判檢事諸君カ本校其他ニ於テ公務ノ傍ラ學生諸子ニ法學ヲ講說スルカ如キハ適例ナリ

## 第三章　檢事

檢事ハ行政機關ノ一部ニシテ社會公益ノ代表者トシテ法律ノ執行ヲ監視シ又ハ司法及行政ノ事務ヲ監督スル任アル官吏タルコトハ前編裁判所及檢事局組織ヲ講述スル際既ニ說明ヲ與ヘタル所ナリ夫レ然リ檢事ハ公益ヲ保護シ及ヒ法律ノ嚴格ニ適用セラルヽヤ否ヲ監視スルノ一官憲ナレハ刑事ニ關シテハ常ニ原告ノ地位ニ立チ亦民事訴訟ニ在テハ職務上意見ヲ述フルノ必要アルトキハ通知ヲ求メ其公開ニ立會フ(第六條刑事訴訟法第一條及民事訴訟法第四十二條)然レトモ檢事ハ如何ナル方法ニ依ルモ裁判事務ニ干涉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス若シ此訴求者タル檢事ニ裁判ヲ爲スノ權ヲモ兼子シムルトキハモンデスキユー氏ノ謂ヘル如ク其裁判官ハ正ニ壓制官吏トナリ了ル可ク斯クテハ裁判ノ獨立公平ヲ恃ム可カラサルニ至レハナリ(第八十一條)

第八十條ニ曰ク(檢事ハ刑法ノ宣告(宣シク刑事裁判ノ宣告ト解スヘシ)又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ之ヲ免職スルコトナシ)ト蓋シ檢事カ其職務ヲ行フニ當テハ他ノ行政官ト等シク上官ノ指揮命令ニ服從スヘキモノニシテ是レ裁判官ト大ニ其趣ヲ異ニスル所檢事ノ職制上自ラ然ラサルヲ得サル所ナリト雖モ而モ檢事ハ公益ノ代表者トシテ社會ノ公安ヲ保維スルノ任務

ヲ負フモノナルカ故ニ此重大ナル任務ヲ完フセンニハ他ノ一般行政官ト異ナリテ亦其地位ヲ保証シテ安全ナラシメサル可ラス是レ此規定アル所以ナリ」然レトモ是ヲ以テ直ニ檢事モ亦裁判官ト同シク終身官ナリトスルハ大ナル誤ナリ獨乙學者間ニハ此點ニ付キ多少ノ議論アリト雖モ我構成法ハ決シテ檢事ヲ以テ終身官ナリトスルモノニ非ス本法第八十條カ檢事ヲシテ其意ニ反シテ或ル特例ノ場合ヲ除ク外免職スルコトナシトセシハ前述ノ如ク檢事ハ行政官憲ノ一部ナリト雖モ主トシテ裁判事務ノ執行又ハ監視等ニ當リ其任務重大ナルカ故ニ其地位ト職分ニ優遇スル所ナケレハ安シテ其職分ヲ盡スヲ得サルヘク從テ公益保護ノ完キヲ得サルヲ憂ヒ此規定アルニ至リタルモノニ外ナラス元來我國体上官吏ノ任免ハ天皇ノ大權ニ屬シ何人ト雖モ之ニ干渉スルヲ得サルハ大憲ノ明言スル所ナリ然レトモ裁判官ハ司法權ノ司持者ニシテ而モ司法權ノ獨立ヲ圖ルハ一ニ裁判官ヲ待テ初メテ其實跡ヲ顯ハスヘク而シテ其事務タルヤ專ラ吾人ノ權利得喪ニ關スル重大ノモノナルカ故ニ之ヲ取扱フ裁判官ヲ終身トシ其職分ヲ泰山ノ安キニ置カサレハ到底司法權ノ獨立公平ヲ維持スル能ハサルヨリ憲法ヲ以テ明ニ其終身官ナルコトヲ確保シ任免ノ大權ト雖モ特例ノ場合ヲ除ク外之ニ及ハサルコトヲ示セリト雖モ檢事ハ之ニ異ナリテ其職分トスル所ハ直接ニ吾人ノ權利ニ關係スルモノニ非スシテ寧ロ司法權ノ傍ニ在リテ公益ヲ代表シ公安ヲ維持スルニ在リ他ノ行政官ニ比シテ一歩其地位ヲ保證スルノ要アリトスルモ之ヲ以テ裁判官ト同等視ス可キニ非ス故ニ憲法カ敢テ之ヲ保証セサルノミナラス檢事ハ懲戒處分ニ由ルニ非サレハ免職セラルヽコトナシト云フモ其懲戒處分ハ純然タル行政上ノ處分ニ屬シ敢テ裁判官ノ如ク懲戒裁判ノ手續ニ由ルモノニ非ス加フルニ裁判官即チ判事ニ關シテハ第七十四條第七十五條ノ如キ規定アルモ檢事ニ關シテハ斯ノ如キ規定ナキノミナラス本法カ檢事ノ地位ヲ保證スルハ免職ノ一事ニ過キス轉所轉官ノ如キニ至リテハ全ク上長官ノ權内ニ存スルモノタリ是レ皆以テ檢事ノ終身官ニアラサルコトヲ知ルニ足ラン

### 檢事ノ職務

檢事ハ公益ノ代表者トシテ犯罪者ニ對シ公訴ヲ提起シ法律ノ正當ナル適用ヲ

請求シ及ヒ判決ノ適當ニ執行セラルヽヤヲ監視シ又民事訴訟ニ於テ其意見ヲ述フルノ必要アリト認ムルトキハ裁判官ニ對シ審理公開ノ時通知ヲ求メ其公廷ニ臨テ意見ヲ述フルコトヲ得其前者ノ目的ハ若シ犯罪者アルモ公訴ヲ起サス之ヲ等閑ニ付スルトキハ良民ハ常ニ不良ノ徒ノ爲メニ暴害セラルヘク又法律活用ノ適否ヲ問ハシメサルトキハ處分上錯誤ヲ招クノ憂ヲ免レ難ク又判決ノ適當ニ執行セラルヽヤヲ監視セシメサレハ貴重ノ法律モ遂ニ徒法タルニ至ルヘケレハ檢事タル職任アルモノハ社會公益ノ代表者タル責任ヲ以テ此職分ニ當ラサルヘカラス其第二ニ屬スルモノハ當事者ノ權利抂屈ノ係ル所其他結婚離婚及ヒ人事上ノ訴訟等皆是レ公ノ秩序ニ關スルモノナルカ故ニ社會公益ノ代表者タル檢事ニ於テ權利保護ノ爲メニ其意見ヲ述フルハ大ニ必要ナリ而シテ其事務取扱ニ付テハ檢事ハ同一体タルノ法律上ノ觀念ニ基キ共助ノ方法アリ即チ檢事總長(大審院ニ附置セラレタル檢事局ニ於ケル長官)檢事長(各控訴院ノ檢事局ニ長タルモノ)檢事正(各地方裁判所ノ檢事局ニ長タルモノ)ハ其各管轄區域內ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍內ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フ權アル



ノミナラス又是等上級檢事ハ其管轄區域內ニ於ケル或ル檢事ノ行フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移シ之ヲ取扱ハシムル權ヲ有ス(第八十三條)是等事務分配ノ指揮ハ皆以テ事務ニ失誤ナク又其適任者ニ當ラシメ事務ノ澁滯ヲ防クニ出ル所ニシテ檢事ハ一心異体ナリトノ原則ノ適用ニ過キサルナリ而シテ檢事カ是等諸種ノ職務ヲ行フニ當リテハ實際自ラ悉ク之ニ當ルヲ得サルコトアルヘシ社會万般ノ事變ニ應スルニ有數ノ人ヲ以テ當テンハ云フヘクシテ實行スルヲ得サル所ナレハ其命令ノ下ニ活動スルノ機關ヲ得テ敏速ニ事ニ處シ變ニ應スルノ企ナカルヘカラス故ヲ以テ司法警察官ナルモノヲ檢事ニ從屬セシメ常ニ其命令ヲ執行セシム而シテ之カ撰任ハ司法省又ハ檢事局及內務省又ハ地方廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ勤務スヘキ者ヲ定ム(第八十四條)

尤モ司法警察官トシテ其職務ヲ行フモノハ獨リ警察官ノミニ止マラス林務官ノ如キ村長ノ如キ亦司法警察官ノ事務ヲ行フコトアリ(刑事訴訟法第四十七條)

## 檢事ノ官等及任補

等及ヒ任補

檢事ハ其官等判事ト同シク勅任又ハ奏任トス其任補ノ順序ハ檢事總長及ヒ檢事長ノ職ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事中ヨリ之ヲ補シ其他ノ檢事ハ司法大臣之ヲ補ス唯之ヲ判事ニ比シテ異ナル所ハ既ニ述ヘタル如ク判事ハ一定ノ年限ヲ經ルニ非サレハ控訴院大審院ニ入ルヲ得サルモ檢事ニ至テハ全ク此制限ナキニ在リ然レトモ進級ハ判事ト同一ノ法則ニ依ラサルヘカラス

書記

## 第四章　書記

書記ハ上官ノ命令ニ從ヒ專ラ訴訟記錄ノ調製、文書ノ整理及ヒ保存、金錢出納ノ事務ヲ取扱フ官吏ニシテ裁判所ノ搆成ニ欠クヘカラサル職員ナルヲ以テ各裁判所及ヒ其檢事局ノ事務ノ繁閑ヲ計リ相當員數ノ書記ヲ置クノミナラス(第八條第九十一條及明治二十四年七月勅令第百三十五號尙區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ニ一人以上專屬書記ヲ置キ專ラ此等ノ事務ヲ取扱ハシム而シテ二人以上書記ヲ使用スル部若クハ書記課ニ於テハ其事務分掌上之カ指揮監督ヲ爲スモノナケレハ事務取扱ノ整秩ヲ失ヒ從テ事務澁滯ノ憂アルカ故ニ



地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置キ控訴院及大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置キ亦區裁判所及ヒ檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其一人ヲ監督書記トシテ之ニ指揮監督ヲ掌ラシム而シテ其監督及ヒ指揮ヲ爲スニハ一ノ上官ノ命令ニ之レ依ルモノトス此上官ノ命令ニ服從スヘシトアル所以ハ若シ此指揮監督ヲ監督書記又ハ書記長ニ一任スルトキハ上官ノ命令ヲ蔑ニシ遂ニハ書記課ハ裁判所外ニ在ルモノヽ如キ不都合ヲ呈シ從テ書記ノ本分ニ違フ所アルニ至ルヲ以テナリ(第八十五條及第八十六條)

書記ノ任命

以下書記ノ任補及ヒ職務ノ概要ヲ講說セン

### (甲)書記ノ任命

書記ニ任セラレンニハ(第一)先ツ一定ノ試驗ニ及第シタル後(第二)區裁判所及地方裁判所又ハ其檢事局ニ於テ其所屬長官即地方裁判所長若クハ檢事正又ハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事或ハ檢事ヨリ定メラレタル事務見習ノ指揮監督者ニ從ヒ二ケ年ヨリ短カラサル期間事務練習ヲ爲スヲ要ス(第八十九條明治二十四年五月司法省令第四號裁判所書記登用試驗規則第十條及同第十二

條明治二十年七月勅令第三十七號文官試驗規則第三十五條參照)

此二要件ヲ具備スルモノヲ以テ司法大臣ハ書記ニ任補スルモノトス(第八十八條)然レトモ裁判所書記ニモ又員數ニ制限アルカ故ニ只單ニ試驗ニ及第シ及ヒ事務見習ヲ終ヘタルノミヲ以テ直ニ書記ニ任用スルヲ得ス必ス其欠位ナカルヘカラス(二十四年勅令第百三十五號)此欠位ナキ間ハ豫備書記トシテ臨時ニ勤務ヲ命セラルヽコトアリ(第九十條)豫備書記ハ其臨時勤務ヲ爲ス場合ニ於テハ豫備判事撿事ノ如ク代理タル資格ニ於テ事務ヲ取扱フモノニアラス純然タル書記トシテ其任務ニ當ルモノトス(第九十三條)

余ハ茲ニ至テ書記見習ト司法官試補トノ間及ヒ豫備判事撿事ト豫備書記トノ間ニ其事務取扱上ニ於テ常備トシテ之ニ當ルト及ヒ第二回試驗ヲ經ルノ要否ニ付キ一言ノ注意セサルヘカラサルモノアリ即チ司法官試補カ本官ニ任セラルヽニハ第二回ニ於テ事務練習ノ成蹟ノ試問ヲ完フセサルヘカラサルニ書記見習ニ至リテハ別ニ試驗ヲ要セス只一完ノ年限間事務ヲ見習ヒタルコトヲ以テ足レリ又豫備判事トシテ勤務中ノ者カ裁判事務ニ與ルハ代理トシテ攝行スルモノナルニ豫備書記ハ純然タル書記トシテ事務取扱ヲ爲スモノトス要スルニ此差異アルハ其職務ニ輕重難易ノ別アルカ故ナリ

### 書記ノ職務

(乙) 書記ノ職務

書記ハ訴訟記錄ノ錄製保存ヲ掌ル裁判所ノ一要器ニシテ其事務ヲ取扱フニハ常ニ其上官ノ命令ニ從ヒ活動スルモノナリ故ニ裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人即チ區裁判所ニ於ケル單獨制裁判ノ場合ニハ其判事ノ命スル所ニ從ヒ又書記カ撿事局ニ勤務スルトキ若クハ臨撿撿証ニ從フ等特別ナル事務ノ取扱ヲ爲ストキニ當テハ受命判事若クハ主務判事又ハ撿事ノ命令ニ從ヒ進退スヘキモノトス(第九十一條第一項及ヒ第二項)此他書記ノ事務取扱方法ハ書記ニ關スル規則ヲ以テ司法大臣適宜ニ之ヲ定ム(同條第五項)此取扱規程ハ司法省ノ内訓ヲ以テ定メラレタルカ故之ヲ知ルニ由ナシ

以上ノ事務ニシテ其書記カ職務ノ範圍内ニ於テ取扱ヒタル事柄ハ既ニ定リタル事務ノ分配上ヨリシテ其事カ他ノ書記ニ屬スヘキ事務タリシ事實アルモ單ニ之カ爲メニ其效力ヲ失フコトナシ(第八十七條)本來事務分配ノ事ノ如キハ裁

判所部内ニ在テ事務ノ整理上便宜ノ爲メ設ケタル「分擔法ナレハ甲書記ニ屬スル事務ヲ乙書記カ取扱ヒシトテ毫モ其職權ヲ侵害スルモノニアラス從テ其効力ヲ他ニ及ホサヽレハナリ然レトモ其他ノ書記カ取扱上ニ誤失アルトキハ其取扱ハ無効ナリトス若シ之ヲシテ有効トセンカ其事務ヲ受繼ク書記ハ誤失ノ判然タルニモ拘ハラス尚之ヲ續行セサルヘカラサルノ不都合ヲ來セハナリ是法文ニ「其事ノ他ノ書記ニ屬シタル事實ノミ」云々トアル所以ナリ

斯ノ如ク書記ノ職務ハ一舉一動皆其上官ノ指揮ニ從ヒ活動スルモノナリト雖モ又一方ニ書記ハ裁判官ノ職務カ公平ニ行ハレタルコトヲ證スル權力及ヒ訴訟上書記ノ專決スル事務アリ書類ノ送達若クハ判決確定證明(民事訴訟法第百三十六條同第四百九十九條及ヒ判決正本ヲ下付スルカ如キ是レナリ此職權內ニ關スル事柄ハ上官ト雖モ之ヲ侵スコトヲ得ス即チ書記ノ取扱フ事務ニシテ最モ重要ナルモノハ當事者ノ口述ノ書取又ハ審問書類及ヒ記錄等トス此等ノ事務ニ關スル變更又ハ調製スヘキ命令ニシテ書記ハ其命令ヲ正當ナラスト認ムルトキハ其書類ニ自己ノ意見ヲ記シテ之ヲ添フルコトヲ得ヘシ是レ書



記ノ正當ナラストスル點裁判上ニ大影響ヲ及ホスヤ知ルヘカラサルヲ以テ自己ノ意見ヲ記シ訴訟記錄ニ添付シテ主任官ノ參考ニ供シ裁判ノ公平ニ行ハレタルヤ否ヲ知ラシム(第九十一條第四項)

## 第五章　執達吏

執達吏ハ官吏ナルヤ將タ公吏ナルヤニ付テハ今日ニ於テ尚未決ノ問題ニ屬ス

執達吏ヲ公吏ナリトスル論者ハ曰ク抑モ官吏トハ國家行法權ノ機關ニシテ一定ノ俸給ノ下ニ勞役ニ服スルノ役員ナリ憲法第十條ニ曰ク「天皇ハ行政各部ノ官制及ヒ文武官ノ俸給ヲ定メ及ヒ文武官ヲ任免ス」ト故ニ官吏ノ任免ハ天皇ノ大權ニ屬スルノミナラス官吏トシテハ一定ノ俸給ヲ受ケ而シテ其俸給ヲ定ムルハ天皇ノ大權ニ屬スルコト明ナリトス然ルニ彼レ執達吏ニ至リテハ政府ヨリ俸給ヲ受ケス唯其勞務ノ報酬トシテ依賴者ヨリ手數料ヲ受クルニ止ル此一事既ニ其官吏ト稱スル能ハサルヲ知ルニ足ル且ツ夫レ執達吏ハ自ラ設立スル役場ニ於テ其職務ヲ執ルモノニシテ一般官吏ト其執務ノ手續

ニ於テ異ナルノミナラス執達吏規則第二十二條ニ據ルニ執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ルトアリ若シ其本性ニ於テ官吏タラハ特ニ此條文ヲ挿入スルノ必要ナシ全ク無用ノ贅文ト云ハサルヲ得ス然レトモ執達吏ノ取扱フ所ハ敢テ一私ノ業務ニ非スシテ公共ノ事ニ屬スルヤ勿論ナルカ故ニ一私人ニ非サルコト明ナリ一私人ニ非ス官吏ニ非ストセハ其取扱フ事務ノ性質ヨリシテ之ヲ公吏ト見ルハ當然ナリト之ヲ官吏ナリトスル論者ハ曰ク

執達吏ノ職務トスル所ハ裁判ノ執行其他當事者若クハ裁判所及檢事局ノ命令委托ニヨリテ書類ノ送達若クハ拒證書ヲ作ルカ如キ專ラ公認ノ事務ニ當ルノミナラス其事務ハ實ニ裁判事務ノ一部ニ屬スルモノニシテ之ヲ取扱フ執達吏ハ即亦國家行法權ノ機關タルヘキカ故ニ其官吏タルニ於テ疑アルヘキニ非ス且ツ夫レ官吏ト一私人トノ間ニ公吏ト稱スル一種ノ役員アリトスルハ未タ國法學ノ發達セサル往時ニ於ケル陳腐ノ學說ニ屬ス政府ノ任命監督ノ下ニ公共ノ事務ニ當ルモノハ須ラク皆官吏ト看サル可ラス反對論者ハ

或ハ俸給ヲ受ケストカ或ハ事務ヲ取扱フニ官署ニ於テセサルコトヲ援用セリト雖モ其俸給ヲ受ケスシテ手數料ヲ以テ報酬ト爲スハ是レ實ニ政府ヨリ俸給ヲ支給スル代リニ一種ノ方法ヲ設ケタルニ過キスシテ其方法ノ異ナルカ爲メニ官吏タル性質ニ變更スヘキ理由ナキノミナラス執達吏規則第十九條ニ依リ其收入ニ不足アルトキハ或ハ一定ノ額ニ滿ル迄國庫ヨリ不足額ノ補助ヲ爲スヲ以テモ又執達吏ノ報酬ハ俸給支給ノ一變例タル事ヲ推知スルヲ得ヘシ又自ラ設置スル役場ニ於テ職務ヲ行フモ畢竟其職務ヲ行フ場所ヲ異ニスルニ止リ其職務カ裁判所ノ職務ナル以上ハ之ヲ行フ場所ノ如何ニ依リ區別スヘキ理由ナシ加之其自設スル場所モ隨意ニ設クルモノニアラスシテ實ニ執達吏規則第六條ノ命スル所ナリ

又執達吏規則第二十二條ノ規定ノ如キハ決シテ論者ノ言ノ如ク執達吏ヲ官吏ニ非スト看做シタルカ故ニ非スシテ之ヲ官吏ナリト看做スヨリシテ一般官吏ノ規定ニ據ラシメタルモノト解スルコトヲ得可シ立法者カ時ニ無用ノ條項ヲモ注意迄ニ挿入スルハ決シテ稀有ノコトニ非ス其他同則第二十一條

ニ執達吏カ恩給ヲ受タル等ノ規定ハ皆是レ執達吏カ官吏タルノ故ヲ以テ然ルノミト

予ハ敢テ此問題ニ付キ深ク其當否ヲ論究セサル可シト雖モ我構成法ノ規定ニ付テ觀ルトキハ立法者カ執達吏ヲ以テ一ノ官吏ト爲セルハ掩フ可カラサルモノヽ如シ立法者ハ第二編ニ題シテ裁判所及ヒ檢事局ノ官吏トシ而シテ執達吏モ亦其編中ニ列記セルハ是レヲ以テ司法事務ニ從事シ裁判所ヲ組織スル一ノ官吏ナリト爲セルモノト見サル可ラス

執達吏ノ制度ハ今日ニ於テ實ニ非難ノ燒點タリ新聞雜誌ノ之ヲ喋々タルノミナラス現ニ帝國議會ニモ亦之カ改正案ヲ提出スルヲ見ルニ足レリ蓋シ世論カ執達吏ノ弊害トシテ囂々スル所ハ要スルニ

(一)勉メテ債權者ノ歡心ヲ買ハンカ爲メニ債務者ニ對シテ苛酷ナル措置ヲ爲スコト

(二)債務者ト結托シテ債權者ヲ害スルコト

ノ二點ニ存シ而シテ此般ノ弊害ヲ見ルニ一ニハ執達吏ハ俸給ニ衣食セスシテ事件ノ上ニ報酬ヲ受クルカ故ニ勉メテ依頼ノ多カランコトヲ望ムト二ニハ直接ニ官廳ノ下ニ隷屬セス半ハ隷屬シ半ハ獨立スル中間ノ地位ニ在ル者ナルカ故ニ監督ノ途十分ナラサルトニ職由スルモノト云フニ在リ實際上ノ問題トシテハ大ニ論究スヘキ所ナルヘシ

執達吏ノ任用

(甲)執達吏ノ任用

執達吏ハ各區裁判所ニ相應ナル員數ヲ置ク(第九十四條其任命ハ司法大臣之ヲ爲シ又司法大臣ハ控訴院長ニ其管轄區內ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及ヒ補スルノ權ヲ委ヌルコトヲ得(第九十五條)

執達吏ニ任セラレンニハ或ル資格ヲ具備シ且ツ一定ノ試驗ヲ經サルヘカラス

先其資格ヨリ說明セン

積極的資格即チ前ニ說明セシ所ニシテ所謂有的資格ナリ其任用セラルヘキ者ニ必ス備ハラサルヘカラス

(一)年齡滿二十五歲以上ナルコト

(二)陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコト



0113

(三)身体健全ナルコト
(四)家計ノ整理シタルコト
(五)品行方正ナルコト
等是ナリ消極資格トハ即チ無的ノ事項ニ屬シ其一項ニタモ抵觸セサルコトヲ要ス
(一)重罪ヲ犯シタル者　但シ國事犯者ニシテ復權ヲ得タルモノハ此限ニアラス
(二)定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタルコト
(三)身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサルコト
(四)懲戒ノ處分ニ由リ免職セラレタルコト
以上ノ資格ヲ具ヘ又ハ抵觸セサル者執達吏ニ任用セラレンニハ一定ノ試驗ヲ經ルヲ以テ本則トス而シテ受驗者ハ其試驗ヲ受クルノ前少クトモ六ケ月間區裁判所ニ於テ主トシテ執達吏ノ職務ヲ修習シ傍ラ書記ノ職務ヲモ修習シタルコトヲ要ス而シテ豫メ此修習ヲ爲サントスル者ハ控訴院長ニ願出其許可ヲ受クヘシ此許可アリタルトキハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ授業ヲ擔當スヘキ執達吏及裁判所書記ヲ選定シテ職務ノ訓導ヲ爲サシム此訓導ヲ受ケタ丶アル修習者ハ其職務上ノ秘密ヲ漏洩ス可ラス(執達吏登用規則第三條第四條及ヒ第五條參照)若シ此修習中ニ在ル者ニシテ其行狀執達吏トナルニ不適當ルトキハ其修習ヲ止ムルコトヲ得ヘシ
而シテ其修習六ケ月ヲ終ヘタル者ハ(一)以上ニ說明セシ資格ニ欠缺若クハ抵觸セサル事ヲ證シ及ヒ(二)其修習ノ終了シタル事ヲ證明シ登用試驗願書ヲ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ヲ經由シテ控訴院長ニ差出スヘシ控訴院長ハ此書類ヲ調査シ試驗ノ許否ヲ定ム(執達吏登用規則第十條)
而シテ其試驗ヲ受クルノ許可ヲ得タルモノハ執達吏規則第十二條ニ揭クル科目ニ付キ試驗ヲ受クヘシ而シテ此試驗ハ毎年一回各地方裁判所ニ於テ之ヲ行フモノトス
然レトモ或ル種類ノモノニ限リ特ニ試驗ヲ要セスシテ執達吏トナルヿヲ得可シ是登用規則第二十條及同則第二十二條ニ規定スル所ノ者ニシテ法律ハ此種

ノ者ヲ以テ執達吏タルニ十分ナル學識ヲ具有スルモノト看做スニ由ル即チ左ノ如シ

(一)官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校司法省法學校又ハ帝國大學ノ監督ヲ受ケタル舊私立法學校及文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

(二)裁判所書記ノ登用試驗ニ及第シタル者

(三)判任官以上ノ職ヲ現ニ奉シ又ハ曾テ奉シタル者

(四)陸軍下士ニシテ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得ル者

(五)現ニ區裁判所ノ書記ヲ奉職スル者

以上五種ノモノハ即登用試驗ヲ要セス執達吏ニ任用セラルヽコトヲ得ルモノトス然レトモ第一乃至第四ノ者ニ在テハ尚其職務ノ修習ヲ爲スヲ必要トス(執達吏登用規則第二十一條)然レトモ第五項ニ掲クル所ノ現ニ區裁判所ノ書記ヲ奉職スル者ニ在テハ別ニ職務修習ヲモ要セス直ニ任用セラルヽコトヲ得

右ニ陳フル所ノ資格ニ欠缺ナク亦抵觸セサル者ニシテ試驗ニ及第シ又ハ試驗ヲ要セサル身分ヲ有スル者ニシテ執達吏ノ欠員アル時ニ於テ執達吏ニ任用セラルヘシ

以上ヲ以テ執達吏ヲ任用セラルヽニ至ル迄ノ手續ヲ詳論セシヲ以テ以下其職務ニ論及セントス

執達吏ノ職務

(乙)執達吏ノ職務

執達吏ノ職務ハ裁判所ヨリ發スル文書ニシテ書記ニ直接又ハ郵便ヲ以テ送達セシムルノ特定アル場合ノ外總テ訴訟書類ノ送達及ヒ裁判ノ執行ヲ爲ス而シテ刑事裁判ノ執行ニ至テハ元來司法警察官ノ專掌スル所ナレハ執達吏ハ單ニ罰金若クハ科料徴收ノ如キ公力ヲ要セサルモノヲ執行ス(第九十八條民事訴訟法第百三十六條第二項及ヒ第三項同第百五十六條)ル外尚執達吏ハ當事者委任ニ由リ(一)告知及ヒ催告ヲ爲シ(二)動產不動產ノ任意競賣ヲ爲シ(三)拒證書ヲ作リ其他裁判所及ヒ檢事局ノ命令ニ由リテ其職務ニ應スル事務殊ニ書類物品ノ送付ヲ爲シ及ヒ沒收物品ヲ取上ケ若クハ賣却シ又令狀(此令狀ハ召喚狀ヲ云フモノニシテ拘引狀拘留狀ハ司法警察官ノ主トシテ執行スルモノナリ)ノ執行

等ヲ爲スモノニシテ其職務タル委任若クハ命令ニ由リ又ハ委托セラレテ初メテ之ヲ執行スルモノトス故ニ其職務ヲ行フハ恰モ商事ノ代辯人ノ如ク他人ノ依託ニヨリテ或ル事ヲ爲スヲ營業トスルモノヽ如シ斯ル性質ノモノナルカ故ニ執達吏ハ法律規則ニ依リ又ハ裁判所及ヒ檢事局ノ命令ニ由リ若クハ當事者ノ委任アリタルトキハ正當ニ之ヲ執行シ得可カラサル理由ノ存スルニアラサレハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ス若シ之ヲ拒絶スル正當ノ理由アリテ而モ之ヲ他ノ執達吏ニ代ラシムルコトヲ得サルトキハ其旨命令ヲ發シタル裁判所若クハ檢事局又ハ其委頼本人ニ通知スヘシ若シ委任シタル本人ニ通知スル能ハサルトキ又ハ急速ノ處分ヲ要スルトキハ其旨ヲ區裁判所ノ判事又ハ監督判事ニ報告スヘシ區裁判所ノ判事又ハ監督判事ハ此報告ヲ受ケタルトキハ其職務ヲ他ノ者ヲシテ攝行セシム(執達吏規則第十條第十二條及ヒ第十三條)

而シテ一區裁判所ニ數名ノ執達吏アルトキハ裁判所及ヒ檢事局ノ命令ニ依ル事務ト裁判所書記ヲ經テ委任スヘキ事務ヲ各執達吏ニ分配ス此分配方法ハ毎年十二月區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事其翌年分ヲ定ム此事務配ノ事タル只其事務ノ敏速ニ執行サレ得ヘキ便法ヲ設クルニ過キサルヲ以テ其効力ハ執達吏間ニ止リ毫モ外部ニ對シテ其効力ナシ故ヲ以テ執達吏ノ爲シタル事務カ事務分配上他ノ執達吏ニ屬スヘキモノタルトノ事實ノミニテハ其効力ヲ失フコトナシ此事ハ既ニ書記ノ事務分配ノ章ニ說明セシ所ナレハ重ネテ茲ニ贅セス(執達吏規則第七條及ヒ攝成法第百二十六條)

以上ノ事務ハ社會万般ノ事物增進スルニ從ヒ日々增加スルモノナレハ有數ノ執達吏ヲシテ其際限ナキ職務ニ當ラシメンハ到底實地ニ爲シ得ヘキ所ニアラサルヲ以テ此頻劇ノ事務ニ應スルニ其機ヲ失セス其職ニ過チナカラシメンニハ他ニ其補助ヲ爲ス者ノ必要ヲ生ス是ヲ以テ法律ハ執達吏ニ其事務ノ補助ヲ爲サシムル者ヲ設クルヲ得ルコトヲ規定セリ然レトモ其執達吏カ委任ヲ受ケタル事務又ハ命令ニシテ特ニ執達吏自身ニテ取扱フヘキ事ヲ託セラレタルトキハ必ス自ラ之ニ當ラサルヘカラス而シテ其事務ヲ補助セシムルハ自己ノ責任ヲ以テセサルヘカラス故ニ事務補助者ノ失職又ハ懈怠ニ基ク責任ハ執達吏自ラ之ヲ負擔セサルヘカラス(執達吏規則第十一條)今其補助者トシテ執達吏ノ

事務ヲ取扱フモノヲ擧クレハ左ノ四者トス

(一)執達吏登用試驗ニ及第シタル者

(二)執達吏ノ職務修習中ノ者ニシテ三ケ月以上ヲ經タル者

(三)裁判所書記登用試驗ニ及第シタル者

(四)區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行フニ適當ト認メタル者

此四種ノ者ハ執達吏ノ事務ニ多少ノ辨識アルヲ以テ之カ補助ヲ爲サシムルモ敢テ職務ヲ曠フスルコトナカルヘキヲ以テ是等ノモノニ其手傳ヲ爲サシムルコトヲ得

以上ヲ以テ執達吏ノ職務ノ概要ヲ論述セルヲ以テ以下其職務上ノ關係及ヒ職務ヲ行フニ付テノ保證等ニ付キ之ヲ左ノ四項ニ分說スヘシ

(一)職務執行ノ開始及ヒ其保證

(二)職務ヲ行フヘキ區域

(三)裁判執行ニ付テ生スル權利上ノ關係

職務執行ノ開始、保證

其一　執達吏ト債權者間ノ關係

其二　執達吏ト債務者間ノ關係

(四)職務ノ執行ニ付テノ監督

第一　職務執行ノ開始及ヒ保證

執達吏ハ只其任用セラレタルノミヲ以テ未タ其職務ヲ行フコトヲ得ス其任命ノ日ヨリ三十日內ニ保證金ヲ管轄地方裁判所ニ納メサルヘカラス元來執達吏ノ職務タル常ニ財產ノ取扱ヲ爲スモノニシテ時ニ或ハ不虞ノ變災若クハ不正ノ行爲ノ爲メニ當事者ニ損害ヲ來スコトナシトセス此損失ヲ償ハシメンニハ保證ノ必要アリ此故ニ控訴院長ハ五百圓以內ノ額ニ於テ其土地ノ情況ニ從テ其保證額ヲ定メ其職務ヲ適實ニ行フ爲メノ保證トシテ納付セシム(本法第九十九條第一項及執達吏登用規則第二十三條)此保證金ヲ納付シタルトキハ裁判所ハ其執達吏ニ官印ヲ交付ス此官印ノ交付アリタル後ニアラサレハ執達吏ハ其職務ヲ行フヲ得ス(執達吏登用規則第二十四條)即チ此官印ノ交付ハ執達吏カ其職務ヲ行フ時期ノ開始ナリ

職務ヲ行フ區域

## 第二　職務ヲ行フ區域

執達吏其職務ヲ行フ區域ハ其所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄區域內トス此區域內ニ在テハ執達吏ハ何レノ地ニ於テモ其職務ヲ行フコトヲ得此故ニ其區域外ニ於テ爲シタル執達吏ノ行爲ハ適法ノモノニ非ス何トナレハ執達吏カ職務ヲ行フニ付テハ必ス區域ニ付キ管轄權ヲ有セサルヘカラス管轄權トハ一定ノ區域內ニ於テ其職務ヲ行ヒ得ヘキ能力ナレハ其屬スル區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄地以外ニ管轄權ナシ管轄權ナクシテ行フタル職務ハ之ヲ行フヘキ能力ナシ能力ナケレハ毫モ執達吏トシテ行フタルモノト云フヲ得ス故ニ此等ノ行爲ハ法律上執達吏カ正當ノ能力ヲ有シテ爲シタル行爲ト同一視スルヲ得ス此規定ハ要スルニ執達吏ニシテ其職務ヲ行フヘキ地ニ制限ナケレハ時々遠隔ノ地ニ執行ノ依賴ヲ受クルコトアランカ斯クテハ裁判所ノ用務辨セス從テ訴訟ノ遲延ヲ來シ其他執行行爲等尙ホ迅速ニ捗運セサルノ弊ヲ除カントスル主旨ニ出ルモノナリ(第九十八條)

然レトモ此管轄ハ其職務ヲ行フ土地ニ付テノ制限ニシテ人ニ對スルモノニアラサルカ故ニ其委任者ハ管轄外ノ人ナリト雖モ其職務ヲ行フ場所ニシテ其屬スル區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄地內ナルトキハ毫モ其効力ニ影響スルモノナキノミナラス其行フタル職務ハ法律上正當ノモノトス

裁判執行ニ關スル權利上ノ關係

## 第三　裁判執行ニ關スル權利上ノ關係

執達吏カ刑事裁判ノ執行ニシテ司法警察官ヲ要セサル罰金若クハ科料ノ徵收ヲ爲スニ當テハ行政官憲ノ一部トシテ執行スルモノナルカ故ニ被執行者ト執達吏トノ關係ハ所謂公法上ノ關係ニシテ一般官吏ト人民トノ間ニ於ケル關係ニ異ナルコトナケレハ深ク說明スルノ必要ナシ

然レトモ執達吏カ民事裁判ノ執行ヲ爲スニ付テハ其關係ハ一ハ民法上ノモノト爲リ一ハ公法上ノモノトナル以下之ヲ研究セントス

其一　執達吏ト債權者間ニ於ケル權利上ノ關係

此關係ハ所謂民法上ノ關係ニシテ執達吏ハ委托ヲ受ケタル債權者ニ對シテハ代理人ノ資格ヲ有スルモノトス故ニ執達吏ノ權利ハ執行サレヘキ者ノ債權者ノ委托ニ基テ生スルモノナリ(民事訴訟法第五百三十一條乃至第五百三十五條

第五百八十六條及ヒ第六百十八條)

代理ノ關係ハ委任狀ヲ付與シ及ヒ執行力アル正本ヲ交付スルヲ以テ始マル但委任ノ付與ハ債權者自身ニ爲スモ又ハ訴訟代理人カ爲スモ又ハ口頭ニテ若クハ書面ヲ以テスルモ或ハ直接タルト書記ノ媒介ニ依リテ之ヲ爲スモ其効力ハ同一ナリ

債權者ハ惣テ訴訟ニ於ケル强制執行ヲ委托スル爲メニ區裁判所書記ノ媒介ヲ求ムルコトヲ得書記ノ委任シタル執達吏ハ債務者ニ對シ及ヒ第三者ニ對シテ債權者自身カ委托シタルモノト看做サルヘシ(民事訴訟法第五百三十一條第五百三十三條)

强制執行ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルモ債權者ヨリ支拂其他ノ給付ヲ受ケ其受取リタルモノニ對シ有効ニ受取證ヲ作リテ交付スルノ權ヲ有ス(民事訴訟法第五百三十三條執達吏ノ差押ヘタル金錢ヲ取立若クハ差押物ノ賣得金ヲ受取リタルトキハ其金額ニ限リ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス(民事訴訟法第五百七十四條及ヒ同第五百七十九條故ニ執達吏カ其金錢ヲ債權者ニ對シ引渡サヽルトキハ債權者ハ執達吏ニ對シテ請求スルヲ得レトモ債務者ニ對シ請求スルコトヲ得ス

强制執行ノ委托ニ因ツテ執達吏ニ與ヘタル權利ノ幾分ヲ制限シ或ハ全ク解除スル塲合アルヘシ然レトモ其制限及解除ハ債權者ト執達吏トノ間ニ止リ第三者ニ對シテ債權者ハ其委託ノ制限又ハ解除ヲ主張スルコトヲ得ス(民事訴訟法第五百三十四條)

其二　執達吏ト債務者及ヒ第三者トノ關係

執達吏ノ債務者及ヒ第三者ニ對スル關係ハ其官吏タルノ資格ニ依テ判定スヘク是レ即チ公法上ノ關係ニシテ執達吏ノ責任ハ代理ノ原則ニ依ラスシテ官吏タルノ資格ニ依ルヘキモノトス故ニ執達吏ノ過失ニ付テハ民法ニ從ヒ政府カ官吏ノ過失ニ付キ責任ヲ負フノ限度ニ於テ其責任ヲ負フヘシ

執達吏ハ債務者及ヒ第三者ニ對シテハ執行力アル正本ヲ有スル一事ニ因テ强制執行ヲ爲スノ權利ヲ有ス故ニ執達吏カ執行力アル正本ヲ有スル以上ハ當然債務者及第三者ハ强制執行ヲ甘受セサルヘカラス而シテ債權者カ委任ヲ與ヘ



0119

タルコトノ證明ヲ求メ若クハ債權者カ正本ヲ交付シタルコトノ證明ヲ求ムル事ヲ得ス然レトモ亦一方ニ於テハ債務者カ支拂又ハ給付ヲ爲シタルトキハ執達吏カ債務者ヨリ正當ニ正本ノ交付ヲ受ケタルモノナルト否トヲ問ハス債務者ハ其義務ヲ免ルヘシ而シテ債權者ハ債務者及ヒ第三者ニ對シテ委任ノ權限若クハ解除等ヲ主張スルコト能ハス但シ債務者及ヒ第三者カ委任ノ制限解除ヲ知リナカラ或ハ執達吏カ債權者ヨリ正本ノ交付ヲ受ケサリシコトヲ知リナカラ支拂又ハ給付ヲ爲シタルトキハ債務者ハ其所爲ヲ詐欺ニ出テタルモノトシテ之ヲ訴フルコトヲ得ヘシ

以上ヲ以テ執達吏カ執行ヲ爲スニ付テノ權利上ノ關係ヲ說明シ終レリ而シテ執達吏ハ其執行ヲ爲スニ當リ抵抗ヲ受クルトキハ威力ヲ用ヰ且ツ警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得ルノミナラス若シ兵力ヲモ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立テ兵力ヲ藉ルコトヲ得ヘシ又其執行ヲ債務者ノ家宅ニ於テ爲ス場合ニシテ此執行行爲ニ立會フヘキ人ナキトキハ成年者二人又ハ市町村役場若クハ警察署ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシムルコトヲ得ル等ハ執達吏ノ搜索及ヒ威力兵力ノ使用權ニ關スル問題ニシテ其他執行ヲ爲スニ際シ注意スヘキ要項及ヒ關係人ヘノ催告及ヒ通知等種々ノ手續ヲ要スレトモ是等ハ本講義ノ範圍外ニシテ民事訴訟法ノ主トシテ規定スル所ナルヲ以テ之ヲ其講師ニ讓ル

第四　職務執行ニ付テノ監督

執達吏ハ其職務トスル所直接ニ人民ノ財產ニ干涉シ又ハ訴訟書類ノ送達ヲ爲ス等皆吾人ノ權利消長ニ關スル重大ノ事務ニシテ又其間ニ容易ニ不正ノ行ハレ得ヘク即債務者ト密ニ結托シテ不正ノ利ヲ得シカ爲メニ債權者ヲ害スルコトナシトセス左レハ其職務ノ執行ニ付テハ之ヲ監督スルノ必要アリ此故ニ所屬區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事之ヲ監督ス而シテ又他ノ判事若クハ檢事カ其職務上特ニ執達吏ニ執行事務ヲ命シタルトキハ其判事檢事ハ其命シタル事務ニ限リ執達吏ヲ監督ス（執達吏規則第四條）

而シテ執達吏カ職務ヲ行フニ當リテハ其所屬區裁判所ノ上官ノ命令ヲ受ケタル書記及ヒ其區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命令ヲ受ケタル書記ノ命令ニ從フ（本法第百條）此等ノ規定ハ皆執達吏ノ職務ニ過チナク且迅速ニ其職

分ヲ完フセシメントスル法律ノ精神ニ出ルモノナリ

手數料

執達吏ノ俸給ハ官ヨリ之ヲ支給セスシテ一種特別ノ方法ニ依リ其收入ヲ以テ俸給ト爲ス其收入ヲ稱シテ手數料ト云フ而シテ其手數料徵收ノ方法ハ其取扱ヒシ事件ノ性質及ヒ種類ニ從ヒ一樣ナラスト雖モ訴訟當事者又ハ委任者ヨリ規則ニ定ムル所ノ一定ノ標準ニ依リ之ヲ受ク(二十三年七月法律第五十三號執達吏手數料規則及本法第九十三條執達吏ノ職務ハ主トシテ訴訟當事者又ハ委任者ノ用務ヲ辯スルモノナレハ其之ニ對スル報償ヲ其依賴者ヨリ支辯スルハ當然ニシテ且又其手數料ヲ國庫ニ納付シ而シテ後一定ノ俸給ヲ支給セントセハ從テ事務ニ勉ムルノ心ヲ挫クノミナラス國庫ノ煩雜一方ナラサルトノ立法上ノ理由ニ基クモノナリ

而シテ其手數料一ケ年百八十圓ニ滿タサルトキハ其不足額ハ國庫ヨリ之ヲ補助ス(執達吏手數料規則第十九條及本法第九十六條)

職務ノ罷免

執達吏ハ一般行政官吏ト同シク其失職又ハ懈怠アリタルトキハ其監督者ハ官吏懲戒令ニ因リ之ヲ責罰スルノミナラス其職務取扱上失當アルトキハ或ル期間內其職務ノ執行ヲ停止スルコトアルヘシ

# 第六章　廷丁

廷丁ハ裁判所ニ屬シ裁判長ノ秩序維持權ノ下ニ活動スル職員ニシテ又裁判所攝成ニ欠クヘカラサルモノナリ而シテ其任免ハ一ニ大審院長各控訴院長及ヒ各地方裁判所長ノ自由ニシテ其事務ノ繁閑ニ依リ之ヲ增減スルコトヲ得(第百一條)

然レトモ區裁判所ノ廷丁ハ其管轄地方裁判所長之ヲ任免ス他ナシ區裁判所ハ單獨判事ニシテ裁判シ別ニ所長ナルモノヲ置キ其廳ノ行政事務ヲ取扱ハシメサルカ故ナリ

廷丁ノ職務トスル所ハ公廷ニ出テ公判ノ開廷ヲ呼上ケ其他裁判長秩序維持權ノ下ニ在テ公廷ノ取締ニ從フモノトス其他司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中

ニ定メタル事務ヲ取扱ハシム(第百二條第一項)區裁判所ハ執達吏ニ差支者クハ其他ノ事故ニ因リテ之ヲ用ユルコトヲ得サルトキハ其裁判所ノ所在地ニ限リ廷丁ヲシテ書類ノ送致ヲ爲サシムルコトヲ得(第百二條末項)

# 第三編　司法事務ノ取扱

本編ノ規定ハ裁判所及檢事局ノ官吏カ其取扱フヘキ事務ニ付キ取扱ノ方法ヲ規定スルモノニシテ先裁判所開廷ノ事ニ起リ次テ裁判所ノ用語、裁判所ノ評議及言渡、裁判所及檢事局ノ事務章程、司法年度及休暇、法律上ノ共助等第二章以下第六章ニ列次規定セリ

## 第一章　開廷

開廷トハ裁判所ヲ開クノ謂ニシテ裁判所ヲ開クトハ各級審ニ依リ定リタル員數ノ職員出席シ訴訟ノ審問及ヒ裁判ヲ爲スノ有樣ヲ云フ開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テスルヲ通則トス(第百三條第一項)然レトモ此常則ニ變例アリ即チ出張裁判ノ制ニシテ出張裁判トハ裁判所又ハ支部ニ於テ裁判スルモノニアラスシテ一區裁判所ノ管轄區域內ノ地ヲトシ特ニ或ル時期ヲ限リテ其地ニ臨ミ訴訟ヲ審理審判スルノ制度ナリ此制度ノ設ケラレタル所以ノモノハ地方裁判所ノ管轄區域內ニアル一區裁判所ノ管轄區域時ニ或ハ十數里ニ跨リ其交通甚タ便ナラサルカ爲メニ訴訟ノ小ナルモノニ在テハ其費用ト手數トニ於テ收支ノ相償ハサルニ至ルモノアルヲ以テ人民ハ枉ケテ權利ヲ伸暢セサルコトアルヘク斯クテハ折角裁判所ヲ設置シタル趣旨ニ反スルヲ以テ司法大臣ハ必要ト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其管轄區域內ノ一定ノ場所ニ於テ裁判事務ヲ行ハシムルコトヲ得此裁判ノ制ヲ出張裁判トハ云フナリ(第百三條第二項及ヒ明治二十三年八月司法省令第四號參照)

出張裁判ハ巡回裁判ニ異リ巡回裁判トハ甲地ヨリ乙地ト順次ニ裁判シ行クモノニシテ英國ニハ此制度行ハル此制度ハ多數ノ裁判官ヲ要セサルノ點ニ於テ利益アリト雖ヒ訴訟ヲ延滯スルノ弊ヲ免ル可ラス

以下本章ノ規定ヲ左ノ三項ニ分チ之ヲ詳論セントス

## 第一　公開

裁判ノ公開スヘキモノタルコトハ我憲法第五十七條ニ明文ノアルアリ是レ裁判所ノ開廷ハ必ス公行スヘキヲ原則トスル所ニシテ其公行ハ亦裁判ノ公平ヲ保證スルノ一方法ナリ實ニ裁判ハ爭訟ニ付キ其當否ヲ斷定スルノ處分ナレハ直接ニ吾人ノ身体名譽財産ニ重大ノ影響ヲ及ホスモノナルニ若シ之ヲ秘密ニセンカ縱令不公平ノ措置ナシトスルモ人ノ其間ニ疑ヲ抱クハ人情ノ常ニシテ之ヲ疑フノ結果ハ裁判ノ威信ヲ損スルコトヽナル可ク且之ヲ密行スルカ爲メニハ時ニ或ハ私曲ノ行ハルヽコトナシトモ云フ可ラス此故ニ裁判ヲ公開スルハ一方ニ其裁判ノ公明正確ナルヲ知ラシメテ裁判ノ威信ヲ維持シ一方ニハ一般公衆ノ監視ノ下ニ裁判官ヲシテ毫モ私曲ヲ行フコト能ハサラシムル爲メ最モ重要ノ事ニ属ス故ニ司法制度ノ未タ發達セサル往時ハ措テ問ハス今日ニ在リテ裁判公行ノ制度ヲ認メサル邦國ハ殆ント之アルヲ見ス

然レトモ若シ其對審ノ公開ヲ許スニ於テハ社會ノ安寧ヲ擾リ風俗ヲ害スル等



ノ虞アル片ハ裁判所ノ決議ヲ以テ其公開ヲ停止スルコトヲ得ヘシ例ヘハ其事件カ國事ニ關スルモノニシテ之ヲ公衆ニ傍聽セシムルハ外交ノ機密ヲ漏洩スルノ恐レアルカ又公安ヲ害スルノ虞アリトカ又ハ猥褻ニ渉ルカ爲メニ風俗ヲ壞亂スルノ恐レアリト云フカ如シ此場合ニ於テハ裁判所ハ公開ヲ停止スル旨ヲ言渡シ公衆ヲ退廷セシム然レモ其對審終リ判決スルニ際レハ再ヒ公行ノ原則ニ立戻リ公衆ヲ入廷セシメ其判決ヲ言渡スモノトス(第百五條)

公開停止ノ言渡ヲ爲シタル場合ト雖モ裁判長ハ其當事者ノ親属若クハ其他ノ者ニシテ當事者其他權利ノ伸暢ニ益スル所アルモノナルカ又ハ官吏ニシテ其職務上又ハ其他ノ必要アリテ其風俗ヲ紊シ又ハ秩序ヲ亂ルノ恐レナキトキハ此等ノ者ニ限リ特ニ入廷ノ許可ヲ與フ(第百六條)

玆ニ一ノ疑ハシキハ公開停止ニ付テハ裁判所ノ決議ヲ要シ其公開停止中入廷ノ特許ヲ與フルノ特權ハ裁判長一人ニ專屬シ別ニ裁判所ノ決議ヲ要セサル點是ナリ蓋シ裁判ノ公開ハ一般ノ原則ニシテ又大ニ公益ニ關スルモノナルカ故ニ此原則ニ反スルハ最モ重大ナル事柄ナリ故ニ之ヲ輕々ニ放任スルヲ爲サス

必ス裁判所ノ決議ヲ要ストシ入廷ノ場合ニハ其一部分ト雖モ公開ノ原則ニ復スル場合ナルヲ以テ之ヲ裁判長ノ權内ニ一任スルモ毫モ法律ノ精神ニ違フモノニアラサルナリ然レモ區裁判所ハ單獨制ナレハ其公開ヲ停止スルモ又入廷ノ特許ヲ與フルモ一人ノ判事ナレハ其結果執務判事ノ特權ノ如キ觀ナキニアラサルモ尙此原則ノ觀念ハ之ヲ抱持シ輕々ニ公開ヲ停止スルヲ得サルモノナリ

訴訟ノ審問及ヒ指揮

第二　訴訟ノ審問及ヒ指揮

裁判所カ開廷セラルヽニ當リ訴訟當事者及總テノ關係人ノ審問及陳述ヲ指揮シ又ハ陪席裁判官其他裁判所ノ職員ノ上席ヲ爲シ之等ノ者ヲ指揮スルハ合議裁判所ニ於テ開廷シタル片ハ裁判長即部長ニ屬シ區裁判所ニ於テ訴訟ノ審問ヲ爲ス場合ニ在テハ單獨判事之ニ當ルカ故ニ從テ此權利ハ其判事一人ニ屬ス（此場合ニ於テ監督判事ニ屬セサル所以ハ監督判事ト雖モ他ノ判事ノ裁判事務ニ干渉スルヲ得サレハナリ）第百四條第一項又裁判長ニ屬スル此權利ハ一人ニテ執務スル受命判事受託判事及ヒ豫審判事ニモ屬ス（同條第二項此審問及ヒ指揮權ノ裁判長ニ屬スル所以ハ訴訟ノ審問ハ正鵠ニシテ嚴格ナルヲ貴ヒ裁判長ハ審問ヲ始ムルニ際シ陪席判事又傍ヨリ審問ヲ爲ストセハ裁判ノ不体裁ナルノミナラス各判事各其見ル所ニ從ヒ迭ニ審尋スルヲ得ハ其順序亂レ訴訟ノ要點ヲ明瞭ニ陳述セシムルヲ得ス其結果ハ遂ニ曖昧ハ判決ヲ爲スニ至リ又訴訟手續上ノ順序ヲ指揮スル者アラサレハ辯論ノ順序ヲ失ヒ遂ニハ當事者ノ喧噪ヲ引起シ裁判ノ尊重ヲ潰スニ至ルヲ以テ其上席ヲ占ムル判事ニ此權ヲ與ヘ訴訟審問ノ嚴肅謹愼ヲ守ラシムルニ在リ

秩序維持權

第三　秩序維持權

秩序ヲ維持スル權トハ裁判所ノ威信ヲ示シ司法權ノ神聖ナルヲ知ラシムルニ在リテ存ス而シテ此秩序維持權ハ審問ニ付テノ指揮權ト同シク合議裁判所ニ在テハ裁判長單獨制ノ裁判所ニテハ執務判事ニ屬ス（第百八條）又豫審判事受命判事及ヒ試補カ其職務ヲ行フ場合ニモ是等ノ者等シク亦此權ヲ有ス（第百十二條）而シテ此權ノ作用ハ一般公衆ニ對スルモノト當事者及ヒ其關係人ニ對スルモノトノ間ニ異ル所アルヲ以テ以下之ヲ分說セン

(一) 一般公衆ニ對スル場合

裁判長又ハ執務判事ハ公廷ニ於テ其裁判所ノ威信ヲ瀆スノ恐アル者ニ對シテ其退廷ヲ命スルコトヲ得又婦女兒童及ヒ相當ナル衣服ヲ着セサルモノニ退廷ヲ命シ又公廷ニ在テ審問ヲ妨ケ或ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者アル時ハ之ニ退廷ヲ命スルコトヲ得(第百九條第一項)又裁判長ハ此違犯者ニシテ其犯狀放擲セハ益々猖獗ヲ極ムルノ恐アリト認ムル時ハ之ヲ拘引セシメテ法廷ヲ閉ツル迄之ヲ拘留シテ妨碍ヲ豫防スル處置ヲ命スルコトヲ得然レモ其法廷ヲ閉ツルニ至レハ裁判長ハ其職權ヲ以テ之ヲ解放スルコトヲ命シ又ハ情狀ニ依リ之ヲ五圓以下ノ罰金若クハ五日以內ノ拘留ニ處スルコトヲ得ヘシ(第百九條第二項)而シテ此處罰ヲ受ケタル者不服ナル時ハ上告ヲ爲スコトヲ得然レモ控訴ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ公開ノ法廷ニ於テ法律ニ違背シタルモノハ其處分ヲ爲スト同時ニ其犯狀ヲ訴訟記錄ニ記入シ其事實明々白々ナルヲ以テ控訴即事實覆審ヲ爲スノ必要ナケレハナリ然レモ法律上ノ點ニ付テハ未タ其適用ノ正否ハ概定スヘカラサルモノアリ故ニ上告ハ之ヲ許ス而シテ又裁判長ハ此犯行ニシテ輕罪又ハ重罪ニ該ルヘキモノナリトスル時ハ刑事訴追ヲ爲スヘシ(第百九條第三項及ヒ第百十三條)此處罰ニシテ豫審判事又ハ受命判事又ハ試補カ命シタルモノニシテ之ニ不服ナル時ハ二十四時間內ニ其判事又ハ試補ニ對シ之レカ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ而シテ其判事ニ對スル處罰ノ命令ニ不服ナル異議ハ其判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若クハ刑事支部ニ於テ之レカ裁判ヲ爲シ試補ノ下シタル命令ニ對スル異議ナル時ハ試補ニ其事務ノ取扱ヲ命シタル判事之ヲ裁判ス(第百十二條第二項及ヒ第三項)

(二) 當事者及其他ノ訴訟關係人ニ對スル場合

以上ノ制裁ヲ適用スヘキ違犯者ハ獨リ傍聽トシテ入廷シタル公衆ノ中ニノミ見ルヘキニアラス訴訟人タル當事者又ハ證人鑑定人等ノ如キ訴訟關係人ニ於テモ時ニ或ハ斯ル違法ノ所爲ナキヲ保セス既ニ其所爲ニシテ生シ得ヘキモノトセハ亦之ニ對シ相當ノ處罰ヲ行フハ當然ナリト雖モ公衆ト訴訟人トノ間ニハ自ラ其處分ヲ異ニスルモノナカルヘカラス他ナシ訴訟關係人ハ權利ノ伸暢ヲ致サントスルノ切ナルヨリ知ラス識ラス違犯ノ所爲ヲ爲スヿアリ是ヲ以テ

本法第百十一條ニ於テ前條ノ規定ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及ヒ鑑定人ニモ之ヲ適用ス云々ト規定シタル所以ナリ

第一　訴訟關係人中ニ本條ノ違犯者アル片ハ即時之ヲ處罰スル者トス之ヲ即時ニ處罰スル所以ノモノハ元來此等ノ者ハ訴訟事件ニ關係スル者ナルカ故ニ若シ之ヲ即時ニ罰セサレハ或ハ審問ヲ中止セサルヘカラサルニ至ルノミナラス遂ニ益々不敬ノ所爲ヲ逞フスルニ至レハナリ

第二　若シ其違犯者カ原告ナル片ハ之ヲ處罰セシ上仍ホ本人ヲ懲戒スルノ制ニシテ即チ本人悔悟シテ宥恕ヲ乞フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スル迄其審問ヲ中止ス此中止ニシテ解ケサル間ハ原告ハ永ク訴訟ニ繫ルヘケレハ自然自己ノ不利益トナルヲ以テ懲戒ノ法ニ適スルモノナリ

第三　辯護士モ亦法廷ニ於テ不當ノ言語ヲ用ヒタル片ハ裁判長ハ其事件ニ付キ引續キ陳述スルノ權ヲ禁止ス尙其言語ニ付キ懲戒ノ必要アル片ハ之レカ訴追ヲモ爲スコトヲ得(第百十一條辯護士法第三十一條以下參照)

## 第二章　裁判所ノ用語

裁判所ノ用語

第百十五條ニ曰ク「裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ」ト一國ニハ一國固有ノ言辭アリ我國ノ裁判所ニ於テ我國語ヲ用ウルハ固ヨリ當然ニシテ彼ノ國權論者カ喋々スル國權ノ擴張國粹ノ保存ノ上ニ於テ一國ノ体面ヲ維持スルノ必要ハ措テ言ハストスルモ言語ハ意思ヲ表彰スル最要ノ具ニシテ國語ハ其國ニ最モ普及セル言語ナルカ故ニ當事者ノ意思ヲ表明シ事物ノ關係ヲ判別シ裁判ノ目的ヲ達スルニ於テ亦固ヨリ斯ノ如クナラサルヘカラス若シ夫レ訴訟關係人ニシテ口言フヲ得耳聞クヲ得若クハ文字ヲ知ル者ナランカ此通則ヲ適用シテ毫モ差支ナシト雖モ世間時々聾者啞者若クハ文字ヲ知ラサル不具者ナシトセス之ヲ不具者ナリトシテ其訴訟ノ事實形況ヲ辯論若クハ陳述セシメサランカ遂ニ其事ヲ決定スルノ材料ヲ得ルコト難カルヘク又往々之レノ通スル者アリトスルモ之ニ充分ノ陳述若クハ辯論ヲ爲サシメサレハ遂ニ是レ等ノ不具者ハ其既得ノ權利ヲ伸暢スルコトヲ得スシテ止ムニ至ル是レ決シテ法律ノ目的ニ適フタルモノニアラス法律ハ普通人ニ對スルヨリモ無能力者不具者ノ利益ヲ保護スル點ニ於テ自ラ厚カラサル可カラス故ニ此等ノ不

具者ノ爲メニハ特ニ通事ヲ付スルノ必要アリ蓋シ通事ナル者ハ口言フ能ハサル者耳聞ク能ハサル者又ハ文字ヲ知ラサル者ニ對シ他ノ事物ヲ假テ間接ニ其抱藏スル意見ヲ外部ニ發表セシムル技能ヲ有スル者ナルカ故ニ能ク其技能ヲ假リテ訴訟ノ事實ヲ伸明スルヲ得ヘキナリ(第百十五條第二項刑事訴訟法第百條參照)

通事ハ常職トシテ裁判所ニ使用セラルヽ者ニアラス時々必要アル場合ニ際シ特ニ其事ニ堪能ナル者ヲ撰テ之ニ當ラシム其任命及ヒ使用並ニ訴訟手續上其行フヘキ職務ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム(第百十六條)

以上ハ本邦人ニシテ自ラ辯論及ヒ陳述ヲ爲スコトヲ得サル不具者ニ適用スヘキ規則ナリ然レモ茲ニ聾啞文盲ニアラサルモ我カ國語文字ニ通セサルヨリ恰モ是等不具者ト同視スヘキ者アリ即チ外國人カ訴訟ニ關係スル場合是レナリ彼レ外國人ハ聾啞文盲ニアラサルモ其國ヲ異ニスルヨリ從テ其國情言語ニ通セサルモノニシテ其言語ノ不通ナル點ヨリ之ヲ觀察スレハ毫モ前者ニ異ナルナシ故ニ亦之カ訴訟ニ關係スル場合ニ於テハ通事ヲ用ユル者トス(此通事ト云フヨリハ寧ロ通辯ト云フヲ以テ能ク其性質ヲ明ナラシムヘシ)而シテ其任命使用等ハ前者ニ於ケル通事ト同一ナリ

以上二種ノ通事ヲ要スル場合ニ於テ其通事ト爲ル者ナク而シテ裁判所書記之ニ堪能ナル時ハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ト爲ル事アリ(第百十七條)

而シテ外國人カ訴訟ニ關係シタル場合ニ於テ之ニ通事ヲ付スルハ其應答ノ不明ナルカ爲メノミ故ニ其訴訟ノ審問ニ預ル官吏ニシテ或ル外國語ニ通シ之ヲ聞取ルニ妨ケナキトキハ通事ヲ用ヒス直ニ應答セシムルコトヲ得是レ却テ通事ヲ待テ其應答ヲ爲サシムルヨリハ直接ニ利害得失善惡是非ヲ知得スル點ニ於テ優ルモノアルヘシ若シ然ランカ爭點ノ眞情ヲ穿チ裁判ニ誤謬ナク當事者ノ滿足ヲ得ル等其利益鮮少ナラサルヲ以テ此特例ヲ設ケタリ(第百十八條)

然レモ其審問ニ參與スル官吏ニシテ外國語ニ通スルハ偶々之ヲ見ル所ニシテ常ニ必ラス然ラサルナリ左レハ其訴訟一タヒ決審スルモ若シ再ヒ同一事件ニ付上訴ノ起リ其訴訟記錄ヲ參觀スルノ必要アルニ之レヲ擔當セシ裁判官ニシテ外國語ニ通セサルヲ以テ遂ニ其訴訟記錄ヲ調査スル事ヲ得サルニ至ルヘシ

況ンヤ此特例ヲ以テ一般普通ノ規則タル日本語ヲ用ユルノ規則ハ遂ニ其適用ヲ見サルニ至リ我司法權上一大影響スル所アルヲ以テ假令其審問ハ外國語ヲ以テ爲シタルトキト雖モ其訴訟記錄ハ必ス日本語ヲ以テ作ラサルヘカラス(第百十八條)

裁判所ノ評議及ヒ言渡

## 第三章　裁判所ノ評議及言渡

本章ノ規定ハ本法ノ骨髓トスル所ニシテ之ヲ概スルニ全編ノ規定ニ則リテ取扱ヒタル事務ハ評議ヲ以テ其當否正邪ヲ決定シ言渡ヲ以テ其決定ヲ外部ニ表影セシムルニ在レハ本章規定ノ當否ハ全編十有七章規定ノ消長ニ關スル重大ナリトス是レ特ニ諸君ノ注意ヲ望ム所ナリ

我構成法ハ審問及ヒ裁判ヲ爲スニ原則トシテ合議制度ヲ採用セリ合議制度ノ何タルコトハ既ニ第一編ニ於テ諸君ト共ニ研究シタルカ如ク要ハ多數ヲ以テ事ヲ決スルニ在リテ彼ノ所謂多數ハ眞理ナリトノ理想ヨリ來リタルモノナリ即チ合議制ノ要趣ハ一人ノ認定ハ三人ノ認定ノ誤謬ノ少ク又五人ノ明確ナル



判定ニ如カストスルニ存ス而シテ裁判ハ一ノ事實ニ對シテ一ノ意思ヲ表影スルニ過キサルモノナレハ其判事ニシテ各其意見ヲ異ニスル事アルモ之レヲ發表センニハ一事件ニ付キ必ス一箇ノ決定ナラサルヘカラス若シ其各判事ノ意見ヲ悉ク發表センカ一事件ニ對シ數箇ノ決定ヲ爲スモノニシテ所謂判決ナルモノニアラス而シテ我構成法ハ裁判ニ合議制ヲ採リ數人ノ判事ヲ以テ審問裁判スルモノトセハ(第三十二條第四十條及ヒ第五十三條)其各異リタル意思ヲ一點ニ歸着セシメサルヘカラス然ラサレハ其意見ハ未タ判決ノ形式ヲ備ヘサレハナリ之ヲ一點ニ絡ムルニハ其間ニ評議ヲ必要トス何トナレハ評議ハ即數箇ノ分離シタル意思ヲ一點ニ歸結スルノ方法ナレハナリ而シテ其評議ハ各審級ニ定マリタル判事(大審院ハ七人ノ判事各控訴院ハ五人ノ判事各地方裁判所ハ三人ノ判事)ヲ以テ之ヲ爲サヽルヘカラス(第百十九條)

然レモ區裁判所ニ於テノ審問裁判ハ常ニ一人ノ判事ヲ以テ之ヲ爲ス所謂單獨制裁判ノ方法ナレハ其事ニ當ル判事ハ自ラ信スル所ニ從ヒ裁判ヲ爲シ他ニ評議スルノ必要ナク又評議スルニ由ナキモノナルガ故ニ本章ノ裁判所ノ評議ナ

ル規定ハ之ヲ區裁判所ノ裁判ニ適用スルヲ得ス是レ第百十九條ニ合議裁判所ノ裁判ハ云々ト云ヒテ特ニ其適用ノ範圍ヲ示セル所以ナリ

凡ソ裁判ナルモノハ訴訟ノ爭點ニ對シ其當否ノ斷定ヲ爲スモノニシテ此判定ヲ爲スニハ其爭ノ原因トナリシ事實ヲ知ルヲ以テ最先最要ノ務トス何トナレバ事實ヲ措テ他ニ裁判ノ基礎タルモノナケレハナリ故ニ裁判ヲ爲スニハ先ツ第一ニ訴訟ノ繫ル事實ヲ審問スルノ必要アリ而シテ其事實ノ上ニ之ニ擬スヘキ法律ヲ索メ一ノ標識ヲ定ムルモノトス故ニ本章ノ規定ヲ第一事實ノ審問第二評議第三言渡ノ三者ニ分說セン

## 第一　事實ノ審問

事實ノ審問ハ其裁判ニ與カル判事即地方裁判所ニ在テハ三人控訴院ニ在テハ五人大審院ニ在テハ七人ノ判事ヲ以テ組立タル部ニ於テ之ヲ爲ス若シ夫レ其爭フ所ノ事實單純ナルモノハ一回ノ審問能ク直ニ辯論ヲ終結セシム可シト雖モ錯雜難糅ノ事件ニ至リテハ民事トナク刑事トナク往々其審問數日ニ涉リテ尙ホ盡キサルコトアルカ爲メ其時日ノ永キ之ニ參與スル判事中疾病又ハ差支



アリテ欠席スル者ナシトセス而シテ其判事中一人ニテモ欠席スルコトアランカ忽チ合議体ヲ組成スルヲ得サルヲ以テ審問又ハ裁判スルコトヲ得ス去リ迚俄ニ他ノ判事ヲシテ其欠ヲ補ハシメンカ初メヨリ其審問ニ參與セサル判事ハ到底其心證ヲ作ルコトヲ得サルヘシ從テ裁判ニ付テノ意見ヲ述フルコトヲ得ス然ラハ其欠席判事ノ差支ノ終ル迄其審問ヲ中止センカ曾ニ訴訟ノ終結ヲ遲延シテ永ク權義ノ所在ヲ不安ノ地ニ置クノ不都合アルノミナラス特ニ刑事ニ在リテハ其間空シク被告人ヲ拘禁シ置カサルヲ得ス是レ決シテ忍フヘキノコトニ非サルカ故ニ法律ハ規定ヲ下シテ曰ク刑事々件ニシテ其審問四日以上引續クヘキ見込アルトキハ補充判事一人ヲ命シ常ニ其審問ニ立會ハシメ該審問ニ與カル判事ニシテ疾病又ハ其他ノ事故ニ因リ引續キ其審問ニ參與スルコトヲ得サルトキ之ニ代リ審問及ヒ裁判ヲ爲サシム(第百二十條)ト此規定タル實ニ裁判ヲ連行シ訴訟關係人ニ無用ノ時日ヲ徒費セシムル公私ノ不利益ヲ避ケントスルニ在リ然ルニ法律ハ只刑事ノ塲合ノミニ付キ之ヲ規定シ一言ノ民事訴訟ニ及ハサルハ何ソヤ立法者ノ意蓋シ民事訴訟ハ其審理ヲ中止スルコトアルモ爲

メニ當事者ノ權利伸暢ニ影響ヲ及ホスノ少キ刑事ノ如ク時ニ無罪者ヲ囹圄ノ裡ニ呻吟セシムルノ憂ナク又民事訴訟ハ不干涉的裁判ニシテ當事者ノ申立ナケレハ之ヲ審理セサル制ナルカ故ニ其取調ニ於テモ時日ヲ要アルコト少ク其弊刑事ノ比ニアラス又其事實ニ付テハ準備書面ノ有ルアリテ自ラ事實ヲ詳悉スルカ故ニ刑事ノ如ク事實ノ詳明ヲ失フコトナシトノ精神ニ出デタルモノナラン然レ𪜈民事訴訟ト雖𪜈其落着ノ遲速ハ當事者利害ノ別ルヽ所ナレハヨシ刑事ト同一ニ之ヲ取扱ハストスルモ少ナクモ之ト相似タル規定ヲ設クルハ訴訟ノ澁滯ヲ醫スルニ於テ亦其用ナシトセズ況ンヤ財產上ノ權利モ身体ノ自由モ其貴重ナル時ニ輕輕シ得可キニ非サルオヤ

第二　評議

審問ニ依テ訴訟ノ因テ來ル事實ヲ詳知セル以上其事實ニ擬シテ是非曲直ノ判決ヲ下サヽルヘカラス而モ判決ハ事實上ニ一ノ斷定ヲ下スモノナルガ故ニ數人ノ判事共ニ裁判ニ干與スルニ當リテハ各自ノ意見ヲ一纏シテ判決ヲ作リ出ス爲メ茲ニ評議ノ必要ヲ生ス可シ

我搆成法ハ公判ニ公開主義ヲ採ルニモ拘ハラス判事ノ評議ハ之ヲ公行セシメズ論者或ハ曰ク既ニ裁判ヲ公開スルノ必要ヲ認ムル以上ハ評議モ之ヲ公行セサル可ラス之ヲ密行スルハ徒ニ當事者ノ疑惑心ヲ惹起シ裁判ノ威信ヲ損スルノ外ナシト蓋シ一理アリ然レ𪜈評議ヲ公行シテ裁判官ノ公明正大ナルヲ知ラシムルト云フノ傍ラ當事者並ニ多數傍聽人ノ面前ニ在リテハ裁判官モ時ニ其本心ヲ左右セラルヽノ恐ナキニ非サルコトヲ慮ラサル可ラス又當事者ニ不利益ナル意見ヲ開陳スルヤ人情其說ヲ嫌フト同時ニ其人ヲ忌ミ其人ヲ怨ムニ至ルコト之レナシトセズ尙且評議ヲ公行スルニ於テハ法廷ノ整理ニ一段ノ繁雜ヲ加フルノ不都合アリ立法者カ裁判ノ評議ヲ公行セシメサルモノ惟フニ此般ノ弊ナキヲ望メルニ外ナラサル可シ

裁判官ハ評議ノ結果及ヒ其意見ノ如何並ニ多少ニ付キ嚴ニ秘密ヲ守ラサル可ラス是レ評議ヲ密行スルヨリ來ル必然ノ結果ナリトス然レ𪜈彼ノ欠位ヲ待テ補セラルヘキ豫備判事及事務修習ヲ爲ス司法官試補ハ評議ヲ漏スノ恐レナキノミナラス事務修習上大ニ益スル所アルヘキヲ以テ是レ等ノ者ニ限リ其評議

ノ傍聽ヲ許スコトヲ得(第百二十一條)

以下評議ノ順序並ニ評議ノ方法ニ付キ説明センニ

評議ニ際シテ各判事カ意見ヲ述フルノ順序ハ先官等低キ者ヨリ順次ニ裁判長ニ遡及シ而シテ其判事中ニ官等同シキ者アル片ハ年少者ヨリ初ム(第百二十二條前段)此規定ノ精神タル威壓雷同ノ弊ヲ避ケ各其信スル所ニ從ヒテ十分ニ其意見ヲ述ヘシメントスルニ外ナラス蓋シ官等高キ者ヨリ順次ニ其官等低キ者ニ及ヒ其意見ヲ述ヘシムルモノトセンカ情勢ニ屈スルハ凡俗ノ通患ナルカ故ニ高官ノ者ハ下官者ヲ威壓シ下官者ハ甘ンシテ其意見ニ附和雷同スルノ恐レナキニ非サレバナリ

然レ𪜈受命判事ニ至リテハ官等ノ高下年齢ノ多少ヲ問ハス其評議ヲ爲スニ當リテハ先其意見ヲ述フルモノトス(第百二十二條後段)受命判事ハ特ニ命ヲ受ケテ事件ノ取調ニ從事シタルモノニシテ事實ノ眞想ヲ知悉シテ玆ニ意見ヲ得ヘキモノトセバ受命判事ニ先其意見ヲ述ヘシムルハ事ノ實際上止ムヲ得サル例外法タルヲ知ル可シ

各判事評議スルニ當リテハ其裁判スヘキ問題ニ付キ自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムヲ得ス(第百二十四條是レ合議ノ本旨ヨリ來ル必然ノ結果ナリトス若シ夫レ各判事ニ於テ其意見ヲ述ヘサルコトヲ得トセンカ到底評議シ決定スルニ途ナカルヘキナリ

斯ノ如ク評議ヲ盡シタル結果各判事ノ意見悉ク同一點ニ歸スル片ハ直チニ其一點ヲ以テ判決ト爲ス可ク別ニ其意見ノ上ニ取捨撰擇ヲ爲スノ要ナシト雖𪜈人心ノ異ナルハ猶其面ノ如シ各判事其意見ヲ異ニスルハ事常態ナルカ故ニ各自ノ意見ハ未ダ必スシモ直チニ判決ヲ形クルヿヲ得ス須ラク其意見ヲ取捨總合シテ一個ノ決定ヲ得ルコトヲ勉メサルヘカラス是レ法律ノ第百二十三條ニ規定スル所ニシテ此場合ニ於テハ過半數ノ意見ヲ採擇スヘキモノトス即チ正半數ニ加フル一個ノ意見ニ從フモノナリ然レ𪜈其意見三説以上ニ分レタル片ハ如何ニシテ之ヲ過半數ト爲スヤ研究ヲ要スル點ナリトス

(一)民事訴訟ニ於テ其金額ニ付キ判事ノ意見三説以上ニ分レ過半數ニ至ラス爲メニ其決ヲ取ルコトヲ得サル片ハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ

順次ニ寡額ニ合算スヘキモノトス今之ヲ損害賠償ノ場合ニ例ヲ取ランニ甲判事ハ其金額百萬圓ナリトシ乙判事ハ之ヲ九十萬圓トシ丙判事ハ八十萬圓ナリトスル片ハ(第一審ノ合議裁判所ノ評議ヲ假想スルモノナルカ故ニ其上級合議裁判所ニ於ケル評議ニモ此例ヲ援引スヘシ)其意見ハ各孤立ノモノニシテ過半數ヲ得サルガ故ニ此場合ニ於テハ最多額ヲ主張スル甲判事ノ意見ヲ以テ乙判事ノ意見ニ合同セシメ以テ三名ニ對スル二名ノ過半數ヲ得可シ從ツテ其賠償額ハ乙判事ノ主張セシ九十萬圓ニ定マルモノトス(第百二十三條第二項)

右ハ民事訴訟ノ金額請求ノ場合ニ適用スヘキ規定ニシテ其他金額請求ニアラサル訴訟ニ付キ過半數ノ意見ナキ場合ヲ規定セス是レ法律ノ欠典ニハアラサルカ

凡テ合議裁判所ノ意見ハ其事件ノ金錢ニ係ルト然ラサル場合トヲ問ハス常ニ過半數ノ意見ニ依テ決セラルヘキモノトス是レ合議制ノ本旨ナリ然ルニ我構成法ニ於テハ金額ニ付キ意見三說以上ニ分レタル場合ノミ規定シ金錢以外ノ事件ニ對スル評決法ナキハ大ニ疑ハサルヲ得ス今姑ク之ヲ外國法律ニ考フルニ佛國民事訴訟法第百十七條第百十八條ニ依レハ此場合ニ適用スヘキ評決ノ方法アリ又ウユルダンベルヒ王國ノ民事訴訟法第三百六十七條ニモ亦之ヲ規定セリ是等ノ法律ニ依レハ合議体ノ意見ニシテ二說以上ニ分ルヽ片ハ再ヒ決ヲ取リ過半數ノ意見ヲ得ルヲ試ミ而シテ尙其目的ヲ達セサレハ比較的少數ノ意見ヲ主張スル判事ハ最多數ノ意見ニ從フヘキモノトス如此尙過半數ノ意見ヲ得ル能ハサル片ハ更ニ新ナル判事ヲ加ヘテ辯論ヲ再開スルノ制規ナリ

(二)刑事裁判ノ場合ニ於テ其意見三分シ過半數ヲ形クルコトヲ得サル片ハ被告人ニ不利益ナル意見ヨリ順次ニ被告人ニ利益ナル意見ニ合算スヘキモノトス即チ犯人處罰ノ刑期ヲ三年ト爲スノ說ト之ヲ二年トシ若クハ一年ナリトスルノ三說ニ分ルヽ片ハ被告人ニ不利益ナル刑期三年ノ說ヨリ二年ノ說ニ合算シ此二年說ヲ以テ過半數ノ意見ト爲ス(第百二十三條第三項)

以上ニ於テ裁判ノ評議ハ過半數ノ意見ニ依テ之ヲ決シ其說ノ一致セサル片ニ當リ過半數ノ意見ヲ形ルノ方法ヲ說明シ了レリ然レ𪜈其過半數ノ意見トハ裁



0133

判終局ノ結果即チ判決ノ點ニ付キ決ヲ取ルヘキモノナルヤ將タ亦其理由ナルカ否ナ判決ニ付キ意見ノ一致ヲ要スルハ論ナシト雖モ判決ノ理由ニ付テモ尙且ツ其意見ノ一致ヲ要スルヤ否ヤ

獨乙裁判所構成法第百九十八條ニ依ルニ該法モ亦我構成法ノ如ク合議ノ採決ハ結果ニ付テノ過半數ニ依ルヘキヤ將其理由ニ付テノ過半數ニ依ルヘキヤハ一モ明文ニ之ヲ示サス此故ニ該國ニ於テモ合議ノ採決法ハ學者間ニ議論アル所タリ

今夫レ評議ヲ爲スニ當リ合議体ノ全員若クハ其過半數以上ノ者悉皆同一ノ理由ニ依リ同一ノ意見ヲ得ハ即チ可ナリ然レモ其全部員又ハ過半數以上ノ者ノ意見三說以上ニ分レ又其理由ニ於ケルモ之ト同一ナル事アリトセハ此場合ニ於テ其過半數ノ意見ヲ形ルハ其理由ヲ外ニ措キ單ニ其結局ノ結果ニ依リ評議ヲ爲ストセハ其決議ハ過半數以上ノ者カ正當ナリトスル所ノ理由ヨリ生シ來ルノ結果ニ非スシテ其裁判ハ理由ト相矛盾スルモノト云ハサルヘカラス元來判決ニ理由ヲ付セサルヘカラサルハ各國法律制度ニ共通スル所ノ原則ニシテ



我民事訴訟法第二百三十六條及ヒ刑事訴訟法第二百〇三條ニモ明定スル所ナリ故ニ合議裁判所ノ判決ニ付スヘキ理由ハ即チ其合議體ノ意見ナラサルヘカラサルコトハ固ヨリ論辯ヲ要セサル所ナリ然ルニ若シ理由ニ付キ決ヲ取ラス只單ニ其結果ニ付テノミ決ヲ取ランカ到底判決ノ理由ニ付キ合議體過半數ノ意見ヲ知ルヲ得ザルガ故ニ我構成法ニ依リテ評議ヲ爲ス場合ニハ尙其理由ニ付テモ亦其意見ノ過半數ヲ作ルノ決ヲ取ラサルヘカラス是レ學者ノ是認スル所ノ說ニシテ合議裁判評決ニ付テノ一ノ原則ト云フヲ得ヘシ尤モ實際ニ於テハ一ノ說ヲ贊成スレハ即チ同時ニ一定ノ理由ヲ贊成スルニ歸スルカ故ニ單ニ結果ニ依リ決ヲ取ルヲ以テ足ル場合多カルヘシト雖モ理由ニ付キ三說以上ニ分ルヽ片ハ此方法ニ依ラサルヘカラサルモノトス

此原則ハ現ニ瑞西國「ゲンフ」州民事訴訟法第百四條ハノーブル王國民事訴訟法第三百五十條「ウエルタンベルヒ」王國民事訴訟法第三百六十六條ニ明ニ採用セラレタリ

第三　裁判ノ言渡





0134

評議ノ結果ハ定數ノ判事立會ノ上ニテ之ヲ言渡ス(第百十九條)判決ノ言渡ニ就テハ本法第三十二條第四十一條及ヒ第五十三條幷ニ刑事訴訟法第二百四條民事訴訟法第二百二十五條以下ヲ參照ス可シ茲ニハ述ヘズ

## 第四章　裁判所及撿事局ノ事務章程

凡ソ職務ノ何タルヲ問ハス事務取扱上ニ一定ノ規矩ナクシテ其整頓ヲ期ス可キニ非サルカ故ニ豫メ事務取扱上其倚ルヘキ一定ノ章程ヲ設クルハ最モ必要ノコトニ屬ス況ンヤ司法事務ノ如キ直接ニ吾人ノ權利ノ消長ニ關スルモノニ在テハ本章ノ規定ハ即裁判所及其事務ニ付キ一定ノ章程ノ必要ナルハ他ノ官署ニ比シ一層切ナリト云ハサルヲ得ス

司法大臣ハ裁判所及撿事局ノ事務取扱ノ標準ト爲ルヘキ規則ヲ定ム(第百二十五條第一項)而シテ又控訴院長及ヒ撿事長ハ司法大臣ノ定メタル規則ニ依リ各自其管轄スル區域内ノ地方裁判所若クハ區裁判所又ハ是等ノ裁判所ノ撿事局ニ對シ事務ノ一般ノ取扱ニ關シ成ルヘク統一同轍ニ歸セシムルヲ旨トシ殊ニ裁判所及ヒ撿事局ノ開廳スル時間及ヒ開廷スル日時ニ付キ訓令ヲ發ス(同條第二項)此開廳及ヒ開廷日時ヲ司法大臣之ヲ定メスシテ控訴院長及ヒ撿事長ニ委任セシハ各地方ノ狀況ニ因リ多少斟酌ヲ要スルモノアルカ故ナリ

然レ𪜈大審院ヘ其自ラ取扱フ事務ニ付テハ一定ノ規則ハ大審院之ヲ定メ司法大臣ノ定ムル規則ニ依ラサルモノトス(同條第三項)

## 第五章　司法年度及休暇

司法年度ハ司法官廳カ其事務取扱上ノ便宜ノ爲メニ區畫セルモノニシテ其年度ハ毎年一月一日ニ始リ十二月三十一日ニ終ルモノトス(第百二十六條)而シテ其一年度内ニ於テハ一般ノ休日及ヒ令節國祭並ニ第百二十七條ニ揭クル休暇ヲ除ク外常ニ其事務ヲ取扱フ而シテ其休暇トハ毎年七月十一日ヨリ九月十日ノ間ニシテ此期間ハ炎暑酷烈ノ候ニシテ訴訟當事者及ヒ其他訴訟關係人ニ於テ裁判所ニ出頭スルカ爲メニ旅行スルカ如キハ頗ル苦難ニシテ且裁判官其他ノ吏員モ此期間ニ執務スルカ如キハ實ニ堪ヘ得ヘカラサルヲ以テ此期間中ハ



0135

官民共ニ休息スルノ便法ヲ定メシモノニシテ裁判所ハ一般ノ事務ニ於テハ其院ニ着手シタルモノハ中止シ且新ナル訴訟ニ着手セサルモノナリ然レ𪜈事件ノ性質急速ヲ要スルモノハ休暇中ト雖𪜈之ヲ取扱ハサルヘカラズ而シテ之ヲ取扱フニ合議裁判所ニ在テハ殊ニ休暇部ナルモノヲ組織シ之ヲ扱ハシム而シテ其組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム(第百三十一條第一項及第二項)區裁判所ニ於テハ二人以上ノ判事アル片ハ監督判事之ヲ定ム(同條第三項)

然ラハ其休暇中ニ取扱フ事件ハ如何是レ本法第百二十八條第一號乃至第八號及ヒ同第百二十九條ニ列擧スル所ニシテ以下順次之ヲ説明スヘシ

第一　爲替手形約束手形其他ノ流通證書ニ關スル請求

此等流通證券ニ關スル請求ハ商業上資本ノ運轉ニ重大ノ關係ヲ有スルヲ以テ之ニ關シ迅速ノ裁判ヲ受ケサル片ハ融通ヲ妨ケ信用ヲ害スルノミナラス商人ノ資産ニ一大影響ヲ及ホスモノナリ

第二　船舶又ハ運送賃又ハ積荷ニ對スル請求

船舶ハ一日モ徒ニ繫留スル片ハ必ス多少ノ損失ヲ來シ若クハ急ニ去テ其踪跡ヲ晦マシ遂ニ本訴ノ目的物ヲ失フコトアルヘク又運送賃ハ速ニ之ヲ受取ラサル片ハ旅人ノ如キハ早ク己ニ逃走シ又積荷ハ殊ニ荷爲換ニ係ルモノヽ如キハ速ニ之ヲ引取ラサレハ遂ニ賣却セラレテ損失ヲ負ハサルヘカラサルニ至ルノミナラス又其引渡遲延ノ爲メニ其價低落シ損失ヲ來スコトアルヲ以テ是等ノモノニ對スル請求ハ商業上尤モ迅速ヲ要ス

第三　財産差押事件

財産ノ差押ハ速ニ着手セサレハ狡猾ナル債務者ハ遂ニ其財産ヲ隱匿シ債權者ヲ害スルノ恐レアリ

第四　住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取、明渡使用占據若クハ修繕ニ關スル訴訟又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃貸人ト賃借人ト間ニ起リタル訴訟

是等ノ訴訟ハ迅速ニ處辨セサレハ爲メニ損害ノ日ニ及フモノナルヲ以テ速ニ之レカ判決ヲ爲サヽルヘカラサル理由ノ存スルアレハナリ

第五　養料ノ請求

抑モ養料ヲ受クル者ノ如キハ自ラ完全ナル生計ヲ營ム能ハズ其養料ヲ以テ日々ノ生計ヲ爲スモノナレハ若シ其支拂ヲ猶豫セシメナハ饑渴ノ患アルニ至ラン故ニ裁判所ノ休暇中ナレバトテ之ヲ等閑ニ付ス可キニ非ズ

第六　保證ヲ出サシムルノ請求

保證ヲ出サシムルノ請求ハ其如何ナル事柄ニ屬スルヲ問ハス保證ハ元來擔保ナレハ之ヲ差出サシメサレハ時ニ或ハ債權者ノ損失ト爲リ又ハ或ル事ヲ實行スルヲ得サル場合ニ起ルヘキ請求ナルカ故ニ是亦急速ヲ要ス

第七　取掛リタル建築ノ繼續ニ關スル事件

既ニ取掛リタル建築ノ繼續ニ關スル事件ニ在テハ或ハ受負ヲ爲シタル者カ中途ニシテ違約シ或ハ地所ヲ賃借シテ建築ニ着手シタルモノカ遽ニ地所ノ占據ヲ拒マレ建築ヲ中止セシ等ニ由リ起リタル事件ニシテ速ニ裁判ヲ與ヘサレハ材料ノ腐朽等損失ヲ釀スノ恐レアレハナリ

第八　前數項ニ掲クルモノヲ除ク外區裁判所ノ判事又ハ休暇部ニ於テ直ニ着手スルヲ要スル緊急事件ト認メタルモノ

本項ハ前數號ニ掲ケタル事件ノ外尚速ニ着手セサレハ損失弊害ノ生スルモノアランコトヲ恐レ其欠ヲ補フカ爲メニ特ニ設ケタル規定ニシテ人事ノ繁端タル如何ニ達識ノ立法者ト雖モ時々社會ニ現ハルヽ無限ノ場合ヲ一々假想スルヲ得サルヲ以テ若シ前ニ列擧シタル事件ノ外尚急速ヲ要スルモノト認メタル片ハ直ニ之ニ着手スヘキノ余地ヲ與ヘタルモノナリ而シテ其急速タルヤ否ヤハ一ニ裁判所ノ認定ニ任ス

以上ハ我構成法ニ所謂休暇事件ナルモノニシテ實ニ休暇中ハ一切ノ民事訴訟ヲ中止シ若クハ新訴ニ着手セサル例外トス然ルニ裁判所ハ休暇中ト雖モ常時ト異ルナク常ニ取扱ハサルヘカラサル事件アリ(第百二十九條以下之ヲ列記セン

第一　刑事訴訟

刑事訴訟ヲ停止シ若クハ之ニ着手セサル片ハ或ル場合ニ於テハ無罪人ヲシテ永ク拘留ニ居ラシメ爲メニ貴重ノ人權ヲ抑制スルノ弊アルヲ以テ之ヲ中止セ



0137

ス又新ナル訴訟ハ直ニ採テ審理セシム

第二　非訟事件

非訟事件トハ失踪相續財産ノ封印若クハ地所家屋船舶ノ賣買讓與質入等ノ登記ヲ爲ス等ノ事務ニシテ之ヲ停止スル片ハ箇人ノ財産ヲ永ク不安ノ地位ニ置キ又諸種ノ登記ヲ爲スコトヲ中止セハ金融ノ圓滑ヲ防ケ經濟上不利益少カラサレハナリ

第三　判決執行

判決ノ執行ヲ停止セハ狡猾ナル債務者ハ之ヲ奇貨トシテ遂ニ債權ヲシテ其權利ノ實効ヲ得ル能ハサラシムルニ至レハナリ

第四　破産事件

破産事件ノ猶豫スヘカラサル亦言ヲ俟タス若シ之ヲ停止セハ債權者ニ不利ナルノミナラス破産者ニアツテモ其損失少トセス且其決定ノ如何ハ實ニ破産者カ爲シタル行爲ノ有動無動ノ別ルヽ所從テ財團ノ損益ニ關シ重大ノ關係アルカ故ニ之ヲ停止スルヲ得サルモノトス

第五　民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フヘキ訴訟

訴訟上略式ヲ以テ取扱事件トハ我民事訴訟法第三百八十二條以下督促手續ニ於ケル支拂命令ノ如キモノ是ナリ而シテ支拂命令トハ債權者ノ申立ニ依リ裁判所ハ其債務者ニ對シ或ル期間ヲ定メテ一定ノ物ノ給付若クハ辨濟ヲ促ス一ノ命令ニシテ債務者カ其命令ニ從フコトヲ厭フ場合ニハ一定ノ期間内ニ命令ニ對シテ異議ヲ申立フレハ其事件ハ訴訟ト爲リ(但シ其事件カ區裁判所ノ管轄事件ナル片ニ限ル)直ニ當事者双方ヲ呼出シ辯論ヲ爲サシム其手數ノ簡單ナルノミナラス此等ノ訴訟ハ多クハ細民間ノ關係ナレハ速ニ之ヲ裁判スルノ必要アルヘシ

## 第六章　法律上ノ共助

共助トハ猶補助ト云フニ等シク他ノ取扱フヘキ事務ヲ扶助スルノ謂ヒニシテ之ヲ相互ニ爲スカ故ニ共助トハ云フナリ

本法カ共助ノ事ヲ規定シタルハ蓋シ其理由トスル所ハ裁判費用及ヒ時日ヲ省

略シテ事務ノ捗運ヲ速ナラシムルノ利益アルニ由ル試ニ思ヘ今一事件ノ或ル事項ノ調査ヲ要スルヲ以テ其時々遠隔ナル他ノ裁判所ノ管轄區域内ニ出張スルトセハ之レカ費用ヲ要スル其自ラ管轄スル裁判所ヨリ派出スルノ比ニアラス又其日子ヲ要スルコト多ク從テ裁判ヲ迅速ナラシムルヲ得ス故ニ其裁判所ノ間ニ於テハ其相互ノ便益ノ爲メニ其事務ヲ互ニ扶助スルモノトス而シテ其補助ヲ爲スヘキ裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ニ規定アル場合ノ外(判事カ實地ニ目擊スルノ必要ヲ感シ自ラ出張スルコトアル彼ノ民事訴訟法第三百五十七條以下及ヒ刑事訴訟法第百二條以下ノ場合ハ取除其法律ニ場合ヲ掲ケサル片ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス(第百三十一條)此規定ノ精神タルヤ區裁判所ハ其區域小ナレハ從テ地方裁判所ヨリカ其所要ノ地ニ接近スルカ故ニ其地ノ情況風俗其他土地ノ形勢ニ便リ易キヲ以テ諸種ノ調査ニ迅速ノ利益アレハナリ又各裁判所ノ撿事局モ亦各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付キ互ニ補助ス(第百三十二條)

又裁判所書記課モ其權内ノ事件又ハ其配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付キ互ニ法律上補助ヲ爲スモノトス書記課カ斯ク其權内ノ事件ノ補助ヲ求ムルハ敢テ疑ナシ然レモ執達吏ノ事務ニ付キ補助ヲ求ムルハ聊カ其職權外ニ屬スルモノニアラサルカノ嫌ナキ能ハス然レモ書記ハ執達吏ノ職務上其指揮ヲ爲スヘキ地位ニアルカ故ニ(第百條)其執達吏カ取扱フヘキ事務ニ付キ他ニ補助ヲ囑託スルハ自ラ其職分ノ範圍内ナルノミナラス執達吏ノ職務ノ迅速ニ行ハシメンコトヲ圖ルハ大ニ權利者ノ爲メニ有益ノ事ト信ス假令二以上ノ區裁判所ノ管轄區域内ニ散在スル不動産ニ對スル判決ノ執行ヲ爲スカ如キ場合ニ於テ甲裁判所ノ執達吏ニ委任スレハ執達吏ハ乙裁判所ハ執達吏ノ補助ヲ求メテ其管轄區域内ニ在ルモノニ對シテ執行事務ヲ取扱ハシムルカ如キ最モ便利ナリト云フヘシ殊ニ處々ニ散在スル動産ノ差押ヲ爲ス場合等ニ於テハ義務者ハ之レカ爲メニ早ク已ニ財産ヲ隱匿スルノ不良ヲ圖ル虞アラスシテ爲メニ債權ヲ害セラルヽコト少ナキノ利益アリ

## 監督權

本編ノ規定ニ司法事務取扱ノ方法及ヒ其職員ノ職務及ヒ監督權ノ所在ヲ定ムルニ在リ實ニ裁判官カ其職務ヲ行フニ當リテハ固ヨリ獨立ノモノニシテ毫モ他ノ掣肘ヲ受クヘキモノニアラスト雖モ其事務ノ取扱及ヒ其身上ニ付キ之ヲ監督スル者ナキカ人情ノ常トシテ柔惰ニ流レ遂ニ其職務正當ニ行ハレス其極布テ司法權ノ神聖ヲ害スルニ至ルヲ以テ其之ヲ監督スルハ司法權機關ヲ益々鞏固ナラシムルモノトス以下本編ノ規定ヲ第一監督權ハ如何ナルモノナルカ第二其監督權ヲ有スル者及ヒ其監督ヲ受クヘキ者ノ二項ニ分チテ說明セントス

第一監督權

監督トハ其下位ニ在ル者ヲシテ適實ニ其職務ヲ行ハシメ其行爲ニ付過失ナク其職務ノ正當ニ行ハルヽヤ否ヤヲ監視スルヲ云フ此故ニ司法官ヲ監督スルトハ判事若クハ檢事ヲシテ各其掌ル事務ニ勉メシメ而シテ又司法官吏タルノ體面ヲ汚瀆スルコト勿ラシムルニ在リトス

而シテ其監督ナルモノハ只暗々ノ裡ニ其守ルヘキ途ヲ訓ユルト雖モ時々或ハ



進ンテ其訓戒ニ隨フコトナシトセス此場合ニ於テ其違令ヲ默々ニ付センカ遂ニ又償フヘカラサル過失ヲ爲シ結局司法權ノ体面ヲ汚スモノナシトセス此故ニ

(一)官吏ニシテ其事務ヲ不適當又ハ不充分ニ取扱タルトキハ之ニ注意ヲ促シ並ニ適當ニ其事務ヲ取扱フヘキ事ヲ訓令ス(第百三十六條第一號)此場合ヲ假想センニ裁判官カ開廷ノ期日ヲ定メナカラ其期ニ臨ンテ遽ニ延期シ又ハ證人若クハ鑑定人ヲ要シテ細密ニ調査ヲ要スヘキニ其粗雜ナル又ハ檢事カ犯罪ノ證憑採收ノ足ラサルニ起訴シ若クハ故ナク登記ヲ遷延スルカ如キハ所謂事務ノ取扱上不適當又ハ不十分ナルモノニシテ爲メニ人民ノ利害ニ影響スル事實ナルヲ以テ之ニ注意シ又ハ訓令ス

(二)官吏カ其職務上ト否トニ拘ハラス其地位ニ不相當ナル行狀アルトキハ之ニ諭告スル事(第百三十六條第二號)但シ此諭告ヲ爲ス前ニ其官吏ニ辨明ヲ得セシム

(三)以上二種ノ訓戒方法アリト雖モ若シ裁判所若クハ檢事局ノ官吏ニシテ其官

吏タルニ適當ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其行狀正シカラスシテ其地位ニ不相應ナル者ニシテ以上二種ノ方法ヲ以テ其行爲ヲ改メシムルニ其度ヲ超ヘタルトキハ判事ニ在テハ一般官吏懲戒法其他ノ者ニ在テハ一般官吏懲戒令ニ從ヒ之ヲ訴追ス(第百三十八條)明治二十三年法律第六十八號判事懲戒法及ヒ明治九年四月第三十七號達官吏懲戒令參照)本項ノ行爲ハ重ニ前二項ノ訓令若クハ諭告ヲ適用スルコトヲ得サル場合ニシテ假令ハ檢事カ免訴ノ言渡ヲ受ケタル被告人ヲ故ナク拘留シ又ハ判事カ開廷日ニ故ナク欠席シ又ハ負債ノ爲メニ起訴セラレ其局執行ヲ受クルニ至リタルカ如シ要スルニ以上二種ノ訓誡ヲ蒙ルヘキ行爲ニシテ一般ニ知ラレテ一層其重キニ至リシモノナリ

而シテ此管督權ニ依ルノ處分ハ以上三種ノ場合ノミニ限ラス尙判事若クハ檢事ノ事務取扱方法ニ對スル抗告就中或ル事務取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滯若クハ拒絕ニ對シ處分ヲ求メントスルノ抗告ハ訴訟法上人民ニ之ヲ許サス然レトモ訴訟法ニ此抗告ヲ許サヽレハトテ之ヲ其判事若クハ檢事ノ爲スカ儘ニ放任センカ益々人民ハ其不當ノ職務執行ノ爲メニ權利ノ伸暢ヲ妨ケラルヘシ故ヲ以テ是等ノ場合ニ於テハ尙此司法行政上監督權ニ依リテ處分スルモノトス(第百四十條)然レトモ此規定タル其處分ノ趣旨ハ官吏カ司法事務取扱ニ不相當ナル所アルカ爲メニ來ルモノニシテ決シテ一私人ニ對スル償贖トシテ之ヲ行フモノニアラサルヲ以テ判事檢事タル官吏ノ資格又ハ其他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付キ其請求ヲ滿足セシムルカ爲メニ之ヲ執行スルヲ得ス(第百三十九條)若シ之ニ反シテ一私人ノ請求ヲ滿足セシムルカ爲メニモ之ヲ執行スルトセンカ其監督處分權ナルモノハ人民ニ左右セラレ遂ニ重大ナル司法機關ヲ不信用ノ地位ニ陷ラシムヘン此ニ至テ司法權ノ尊嚴ハ終ニ破壞セントス

以上說明セシ監督處分權ナルモノハ判事ノ職務上ト否トニ拘ハラス其人ノ名譽信用ニ關スルノ重大ナルノミナラス其行爲ノ法律上ノモノタルカ又ハ司法行政上ニ關スル事項ニ付テハ監督權ヲ有スルモノヽ眼中不適當ナリトスルモ實際適當ナル事アルヘシ若シ然ルニモ拘ハラス只其不適當ナリト思維スルノ一事ヲ以テ輕忽ニ之ヲ處分センカ其人ハ時々或ハ寃罪ヲ蒙ルコトナシトセス



0141

監督權ヲ有スル者監督ヲ受クル者

此故ニ司法大臣又ハ監督權ヲ有スル判事若クハ檢事ハ裁判所及檢事局ニ向テ法律上ノ事項若クハ司法行政ニ關スル事項ニ付キ其意見ヲ求メタルトキハ裁判所及ヒ檢事局ハ之ニ對シテ意見ヲ述フルモノトス蓋シ机上ノ考案ト實地ノ狀況トハ動モスレハ反對ノ結果ヲ呈スルコトアルヲ以テ司法權ヲシテ適當ニ行ハシムルニハ法律上ノ事項ニ付キ裁判所及檢事局ノ意見ヲ諮詢スルハ尤モ肝要ナリトス(第百四十一條)

第二　監督權ヲ有スル者及ヒ其監督ヲ受クル者

司法部內ニ於テ其最上位ヲ占ムル所ノモノハ司法大臣トス而シテ其監督權ヲ上長官ニ委ヌルハ權勢ノ爲メニ枉ケラルヽコトナク其地位ノ安危ニ掛念シテ監督ノ公平ヲ欠クノ恐レナケレハナリ故ニ司法行政ノ監督ハ司法大臣之ヲ爲ス(第百三十五條第一號)然レ𪜈全國數十ノ裁判所及ヒ檢事局ヲ監督センニハ到底一人ノ爲シ得ヘキ所ニアラス故ニ其一部ニ長タルモノヲ機關トシテ其行政周到ナラシム(第百三十四條)而シテ是等ノ者ヲシテ其監督權ヲ施行セシムルニハ左ノ順序ヲ以テス(第百三十五條第二號乃至第八號)即チ左ノ如シ

一　大審院長ハ大審院ヲ監督ス

二　控訴院長ハ其控訴院及ヒ其管轄區域內ノ下級裁判所ヲ監督ス

三　地方裁判所長ハ其裁判所若ハ其支部及ヒ其管轄區域內ノ區裁判所ヲ監督ス

四　區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ其裁判所々屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

五　檢事總長ハ其檢事局及ヒ下級檢事局ヲ監督ス

六　檢事長ハ其檢事局及ヒ其局ノ付置セラレタル控訴院管轄區域內ノ檢事局ヲ監督ス

七　檢事正ハ其檢事局及其ノ局ノ付置セラレタル地方裁判所管轄區域內ノ檢事局ヲ監督ス

八　右ノ外本法第十八條及ヒ第八十四條ニ揭ケタル警察官憲兵將校下士又ハ林務官等ヲシテ司法警察ノ事務ヲ取扱ハシムル場合ニハ其指揮命令スルモノニ監督セラル(第百三十七條)

以上ヲ以テ司法行政ノ職務監督權ノ大略ヲ講述セリ而シテ其監督權ノ行ハルヽ範圍及ヒ其性質ハ前ニ說明セシ如ク要ハ只裁判權ヲ行ハシムルニ適當ナル職務ヲ行ハシムルモノニシテ此監督權ハ裁判上執務スル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ蓋シ裁判權ノ執行ハ其判事ノ自由ニシテ何人モ之ニ干涉スルヲ得サルモノナレハナリ(第百四十三條)

終ニ本編第百四十二條ノ規定ハ檢事ヲ司法官廳ニ對シテ起リタル民事訴訟ニ於テハ司法官廳ヲ代表スルノ權限アル事ハ先ニ檢事ノ職務ニ付キ之ヲ說明シ又附則第百四十四條ハ裁判所搆成ニ關スル特別法ニシテ必要アルトキハ本法ニ抵觸スルモ尙其効力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムル事ノ一ノ除外ヲ規定シタルモノニシテ別ニ說明ヲ要セス

裁判所搆成法講義終



0143